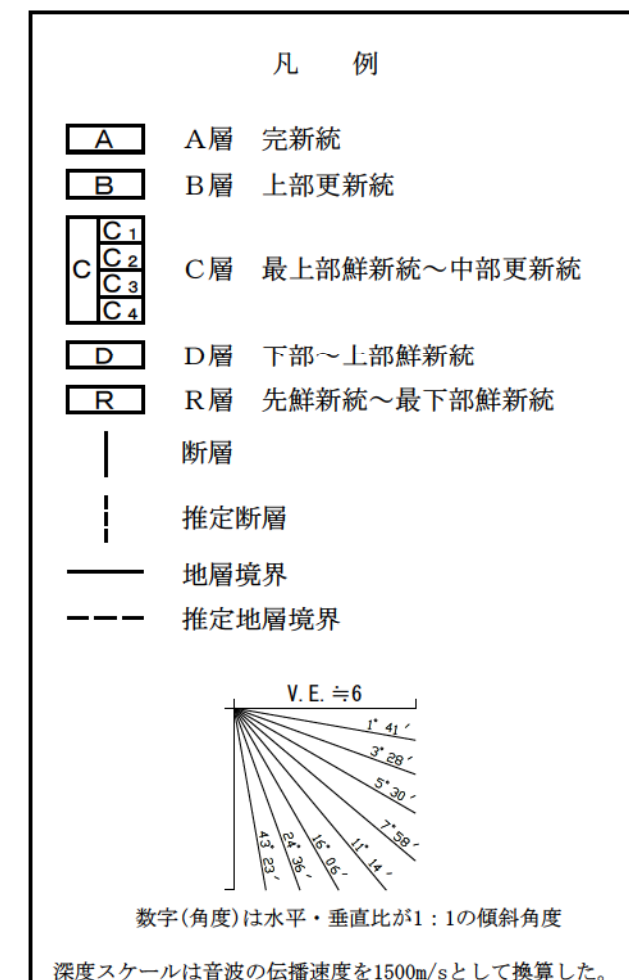
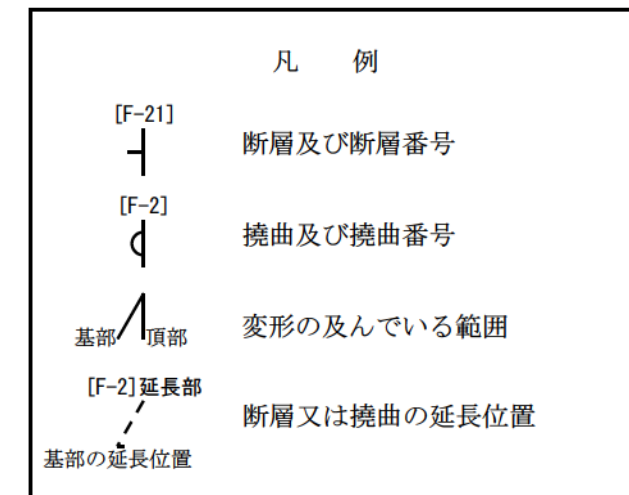
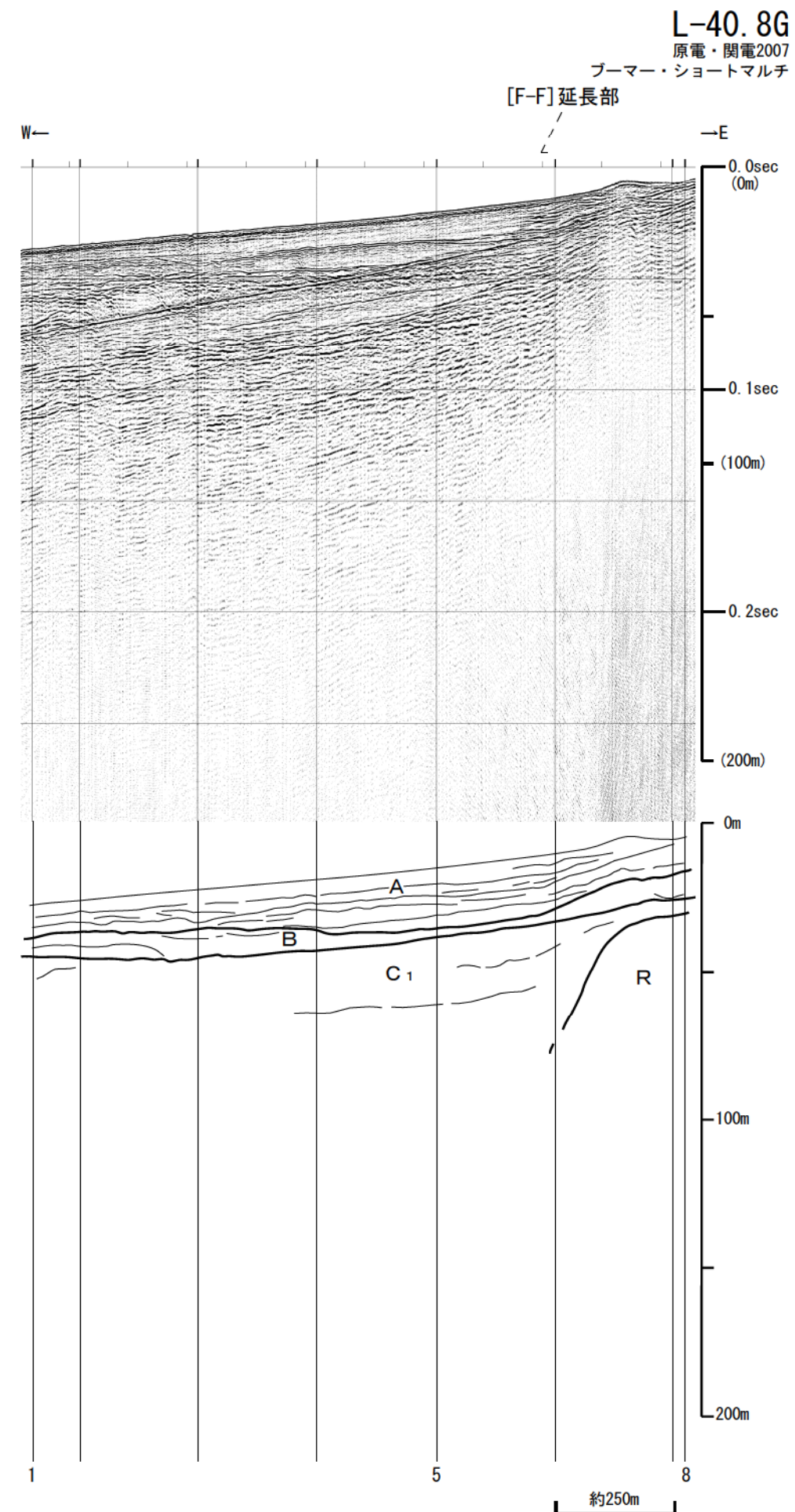
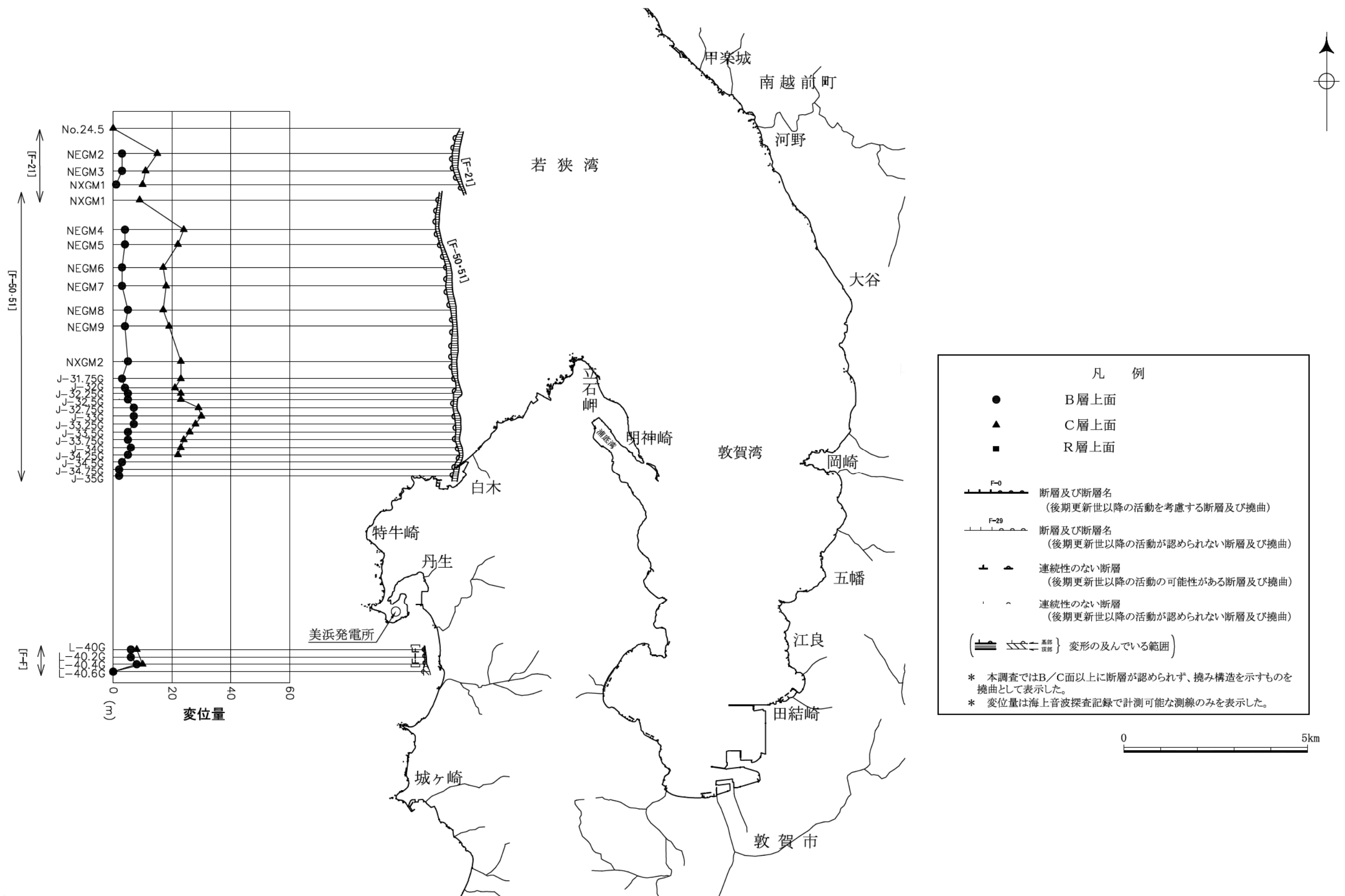
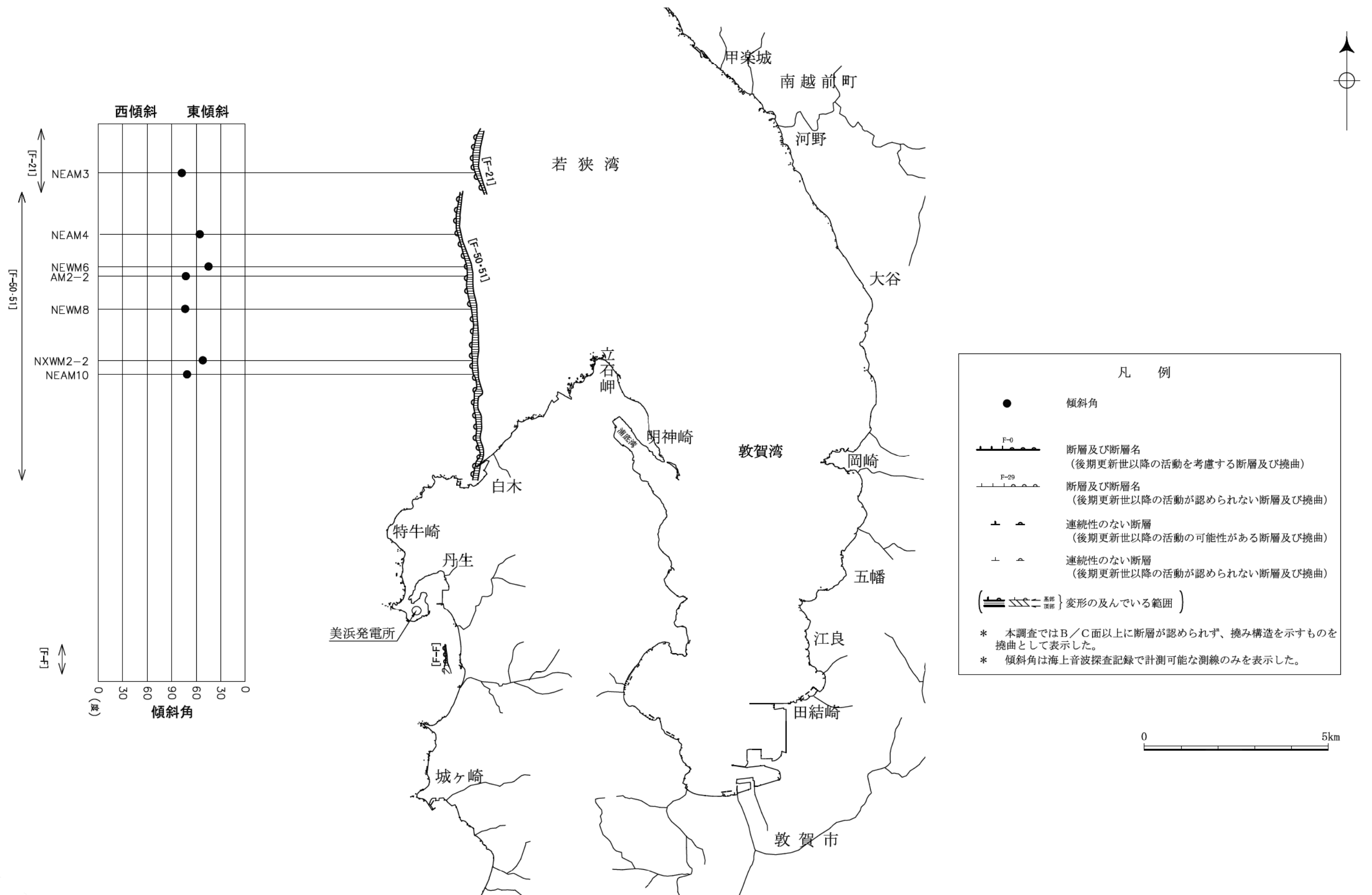




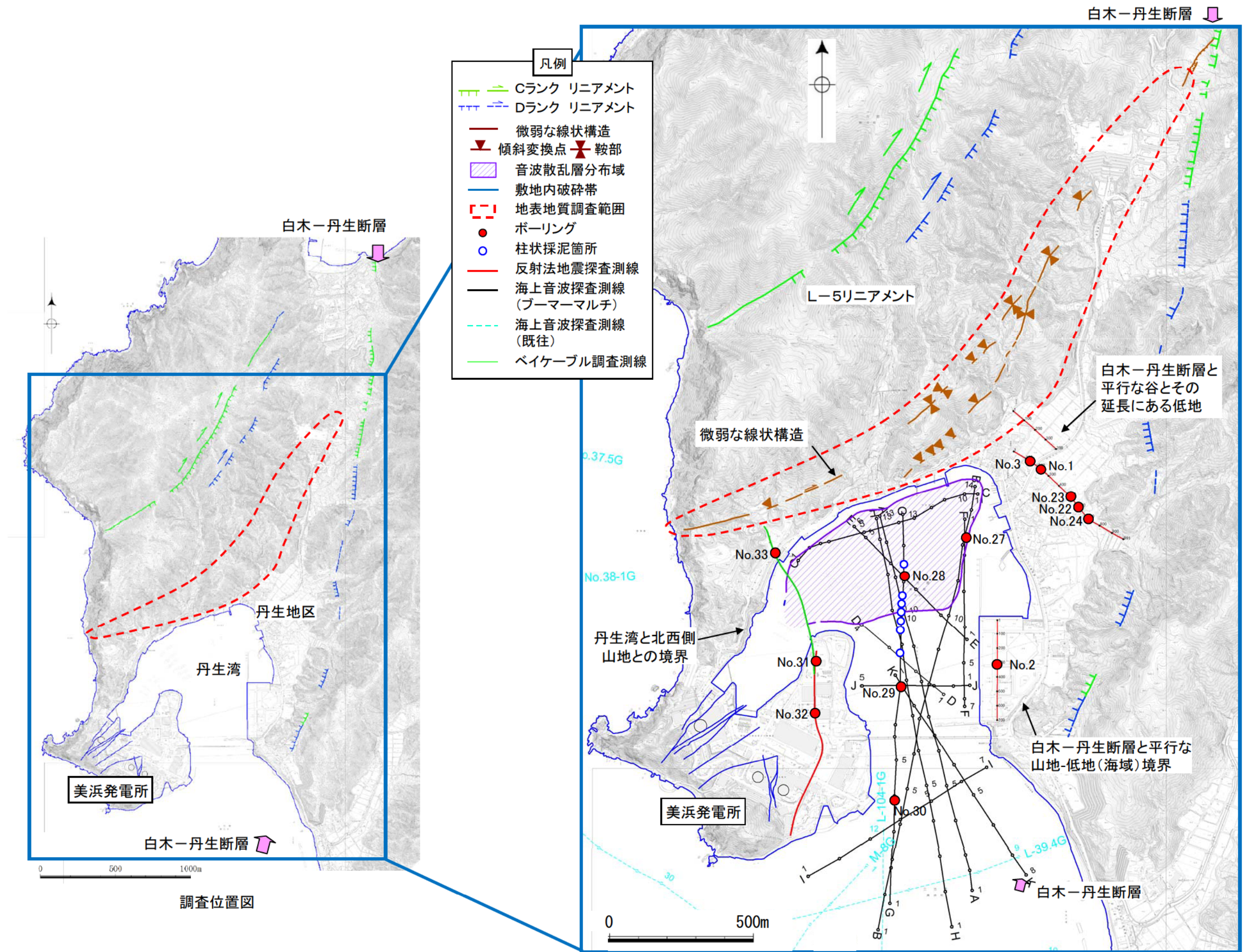
第1.4.41図(8) 白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図 (L-40.8G)



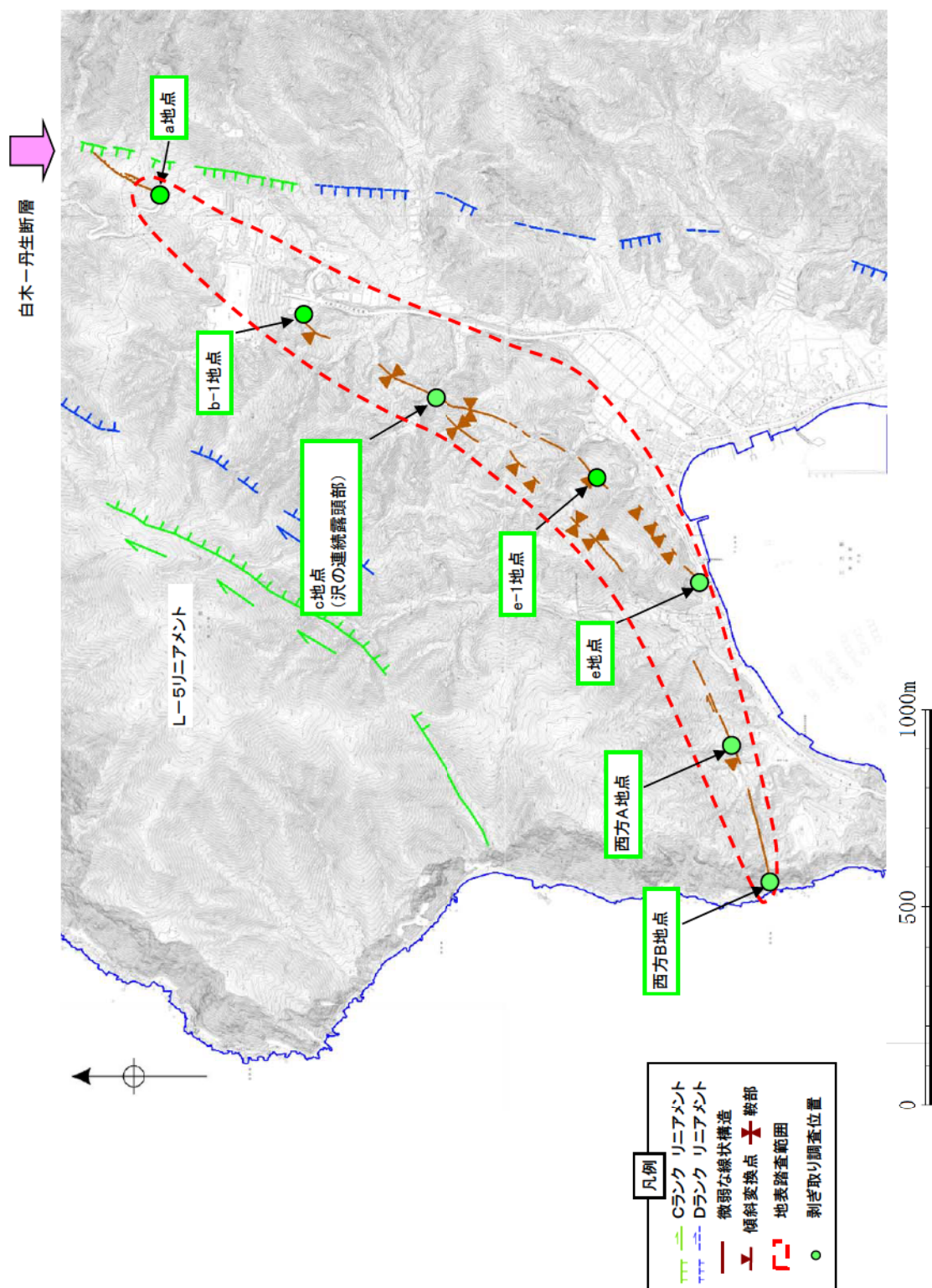
第1. 4. 42図 白木―丹生断層の変位量分布図



第1. 4. 43図 白木－丹生断層の傾斜角分布図

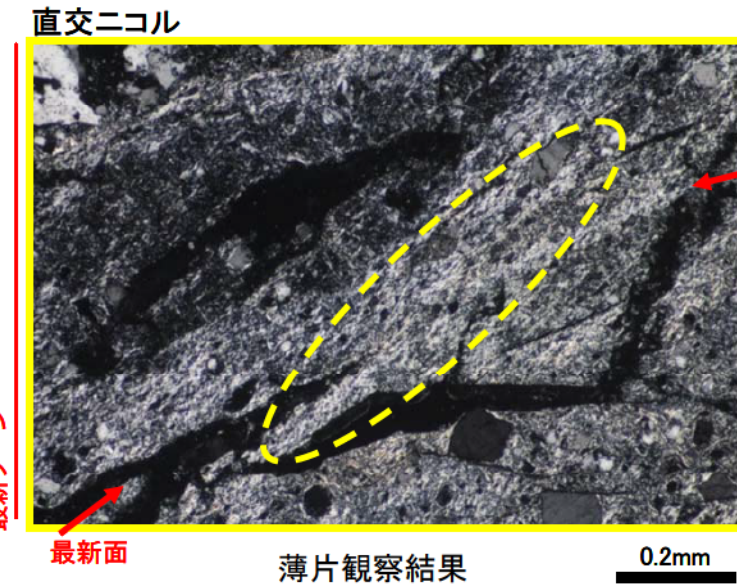
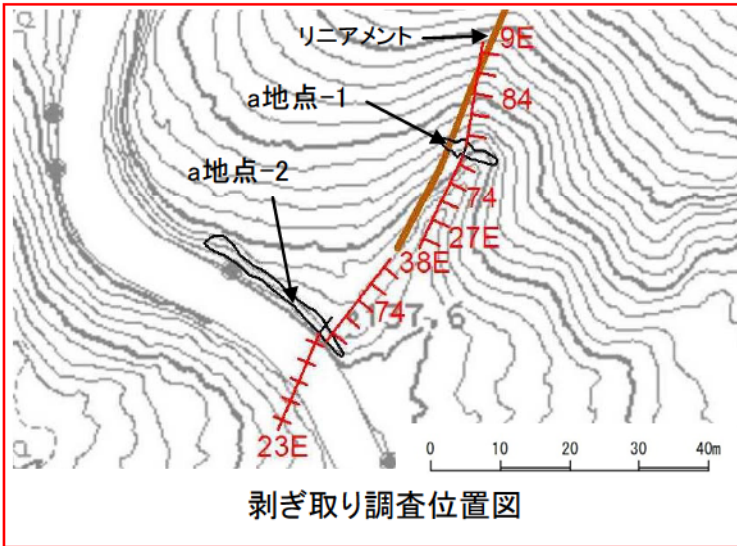
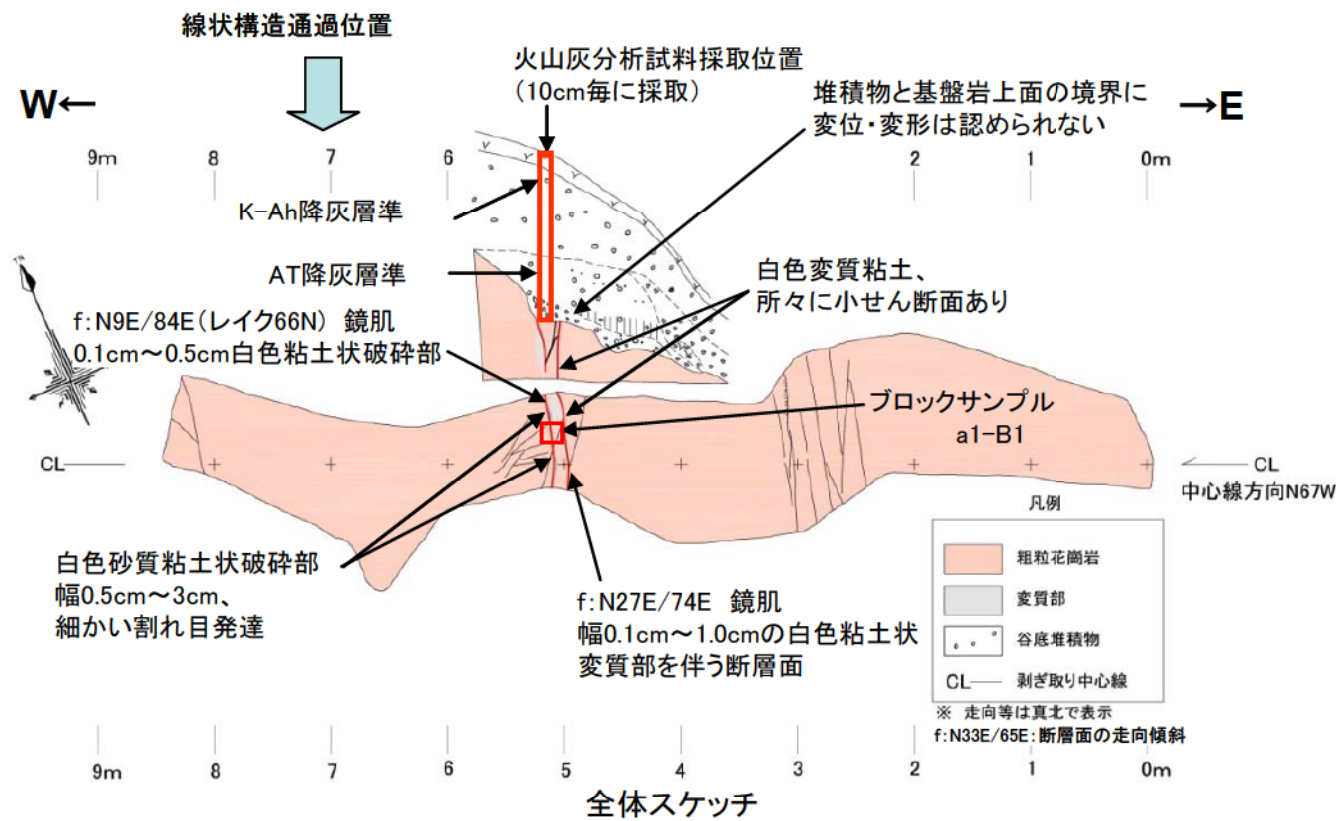


第 1. 4. 44 図 丹生地区北方山地、丹生地区及び敷地内の調査位置図



第1.4.45図 丹生地区北方山地の剥ぎ取り調査位置図

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(a地点-1)

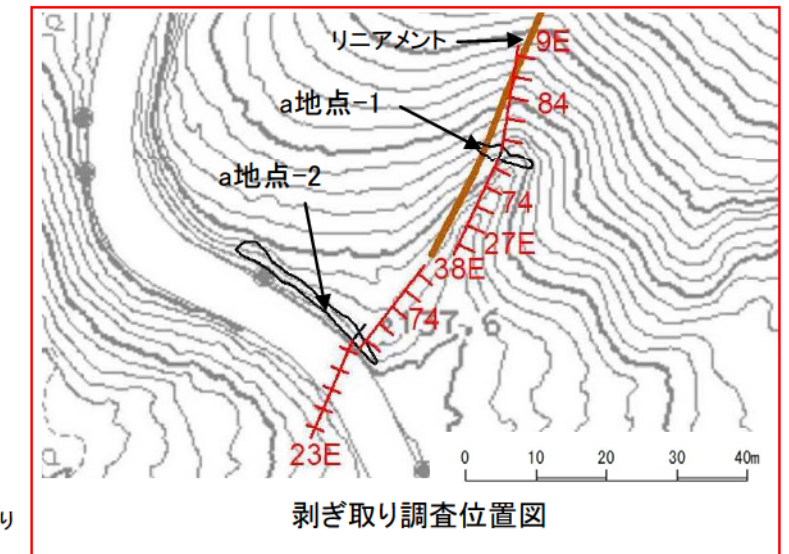
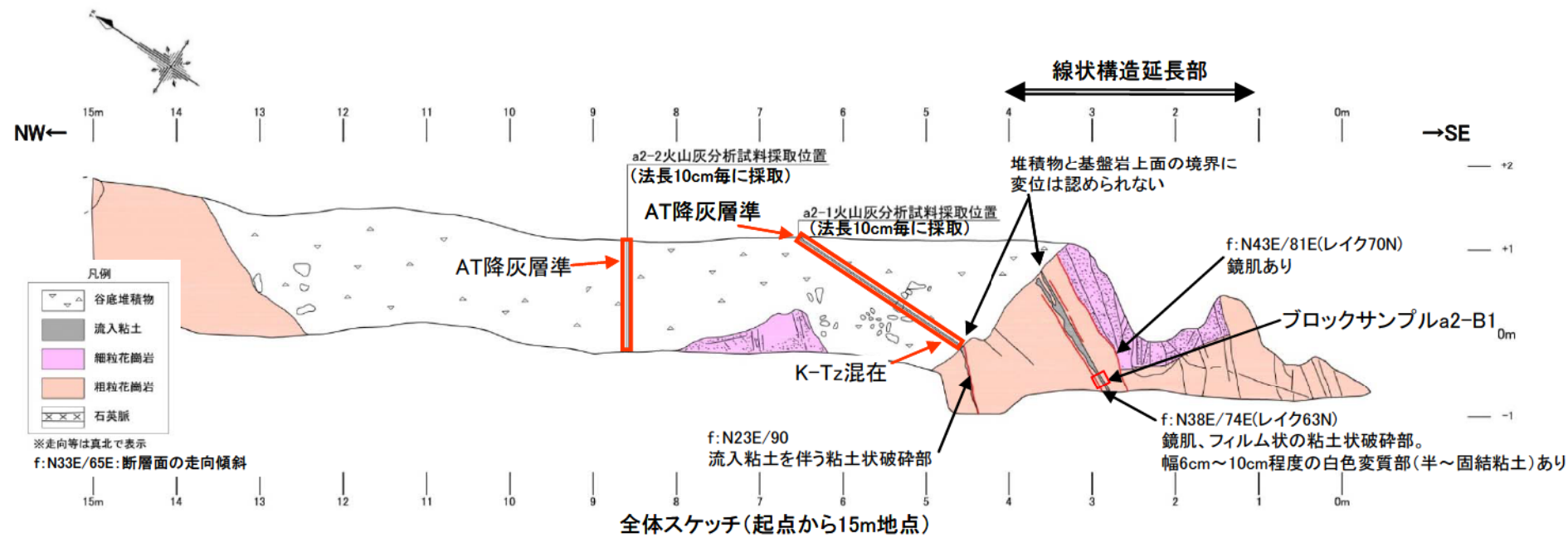


幅0.5cm~3cmの白色の砂質粘土状破碎部(N9E/84E、a1-B1、幅0.1cm~0.5cmの白色の粘土状破碎部を伴う)を確認した。
また、幅0.1cm~1.0cmの白色粘土状変質部を伴う断層面(N27E/74E、a1-B2)を確認した。
せん断面が明瞭で直線的なa1-B1破碎部の性状を把握するために、ブロックサンプリングを行った。
破碎部直上の上載層に変位や変形は認められない。

[破碎部の薄片観察の結果]
・粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
・また、粘土鉱物には最新面を斜めに横切るものもあり、最新面が不連続になっている。
[破碎部のXRD分析の結果]
・新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっており、粘土鉱物としてスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を確認した。

破碎部直上のAT(約2.6万年前~約2.9万年前)の降灰層準を含む堆積物に変位が認められないことから、少なくともAT降灰以降破碎部は活動していない。よって、白木-丹生断層の3万年前以降の複数の活動時に破碎部は活動していない。
破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。

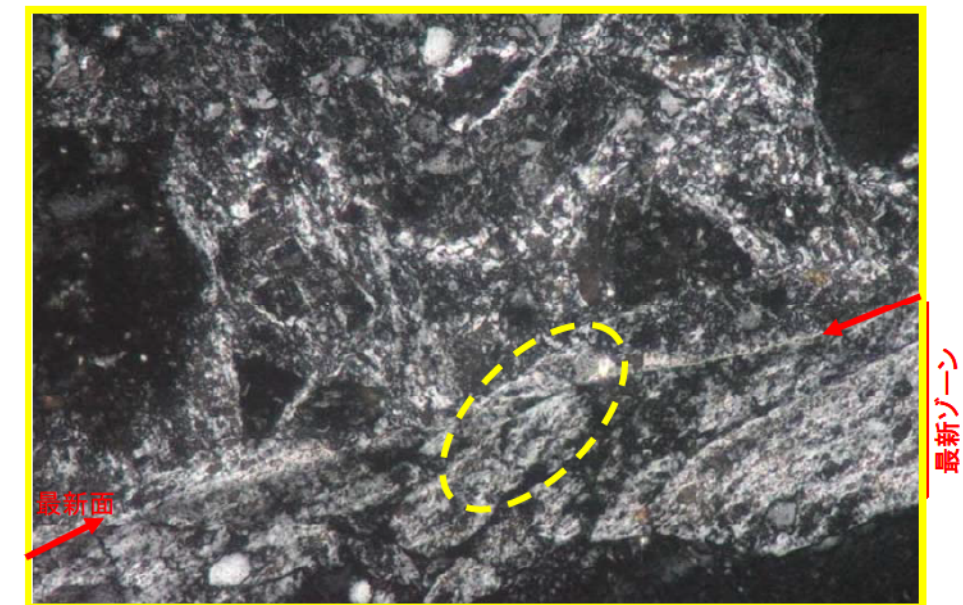
丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(a地点-2)



フィルム状の粘土状破碎部(N38E/74E、a2-B1)および流入粘土を伴う粘土状破碎部(N23E/90)を確認した。a2-B1破碎部の性状を把握するために、ブロックサンプリングを行った。破碎部直上の上載層に変位や変形は認められない。

〔破碎部の薄片観察の結果〕
 ・粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
 ・また、粘土鉱物には最新面を横断しているものがあり、変形していない。
 〔破碎部のXRD分析の結果〕
 ・新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっており、粘土鉱物としてスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を確認

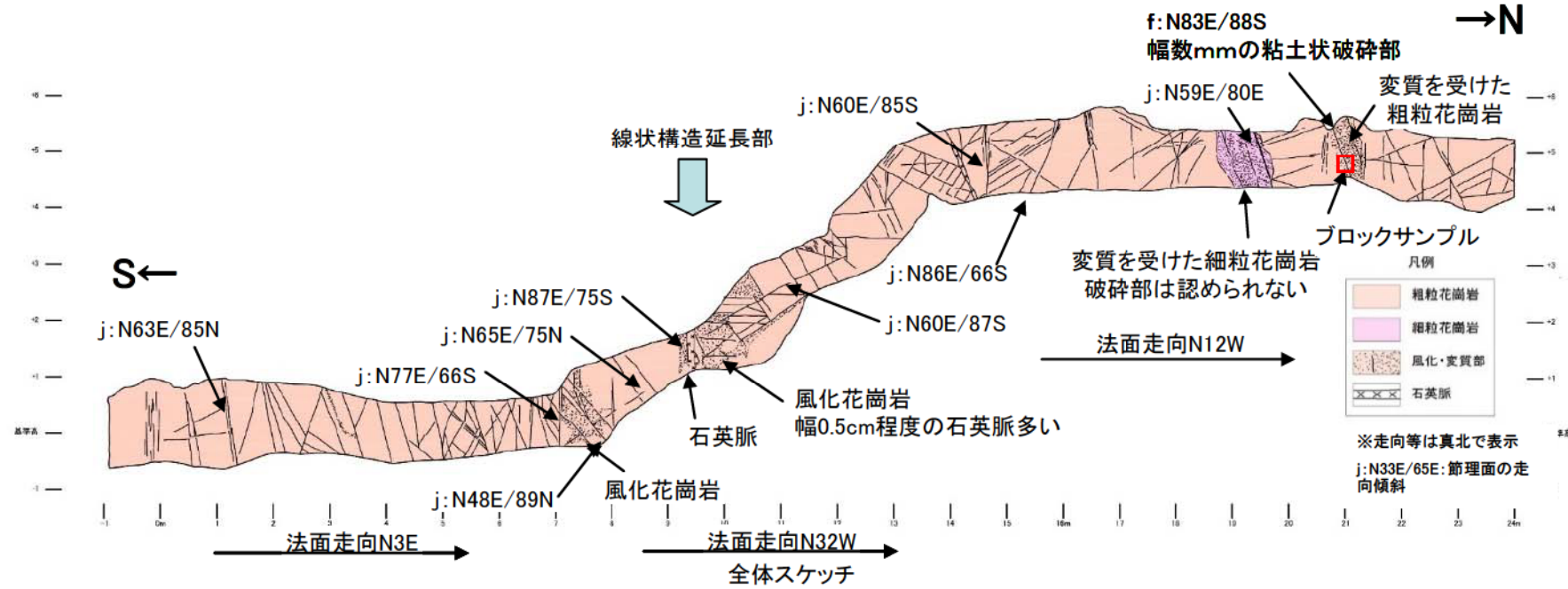
直交ニコル



薄片観察結果 0.1mm

- ・破碎部直上のAT(約2.6万年前～約2.9万年前)の降灰層準を含む堆積物に変位が認められないことから、少なくともAT降灰以降破碎部は活動していない。よって、白木～丹生断層の3万年前以降の複数の活動時に破碎部は活動していない。
- ・破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(b-1地点)



変質を受けた細粒花崗岩に線状構造の走向と調和的な節理は認められるが、破碎部は認められない。
線状構造延長部より12m程度離れた位置の変質を受けた粗粒花崗岩中に、幅数mm程度の粘土状破碎部(N83E/88S)を確認した。破碎部の走向は線状構造方向とやや斜交している。
剥ぎ取り箇所には線状構造の走向と調和的な節理が全体に見られ、線状構造延長部に破碎部は認められない。

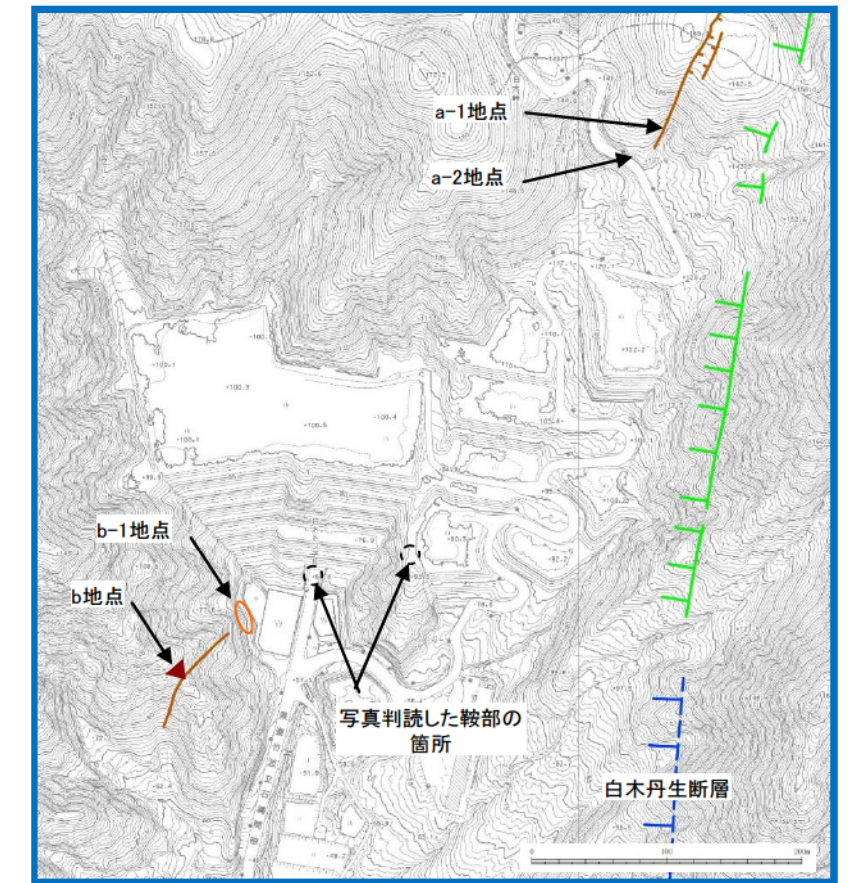
〔破碎部の薄片観察の結果〕

- ・粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
- ・また、粘土鉱物には最新面を斜めに横切るものもあり、最新面が不連続になっている。

〔破碎部のXRD分析の結果〕

- ・新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっており、粘土鉱物としてスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を確認。

- ・剥ぎ取り箇所には線状構造の走向と調和的な節理が全体に見られ、線状構造延長部に破碎部は認められない。
- ・線状構造延長部より12m程度離れた位置の変質を受けた粗粒花崗岩中に、幅数mm程度の粘土状破碎部を確認した。破碎部の走向は線状構造の走向とやや斜交している。
- ・破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。



調査位置図

写真判読によりa地点南側に鞍部列が判読される。判読位置は人工改変され調査できないため、b地点と確認した鞍部列との間にあるb-1地点において剥ぎ取り調査を行った。

直交ニコル

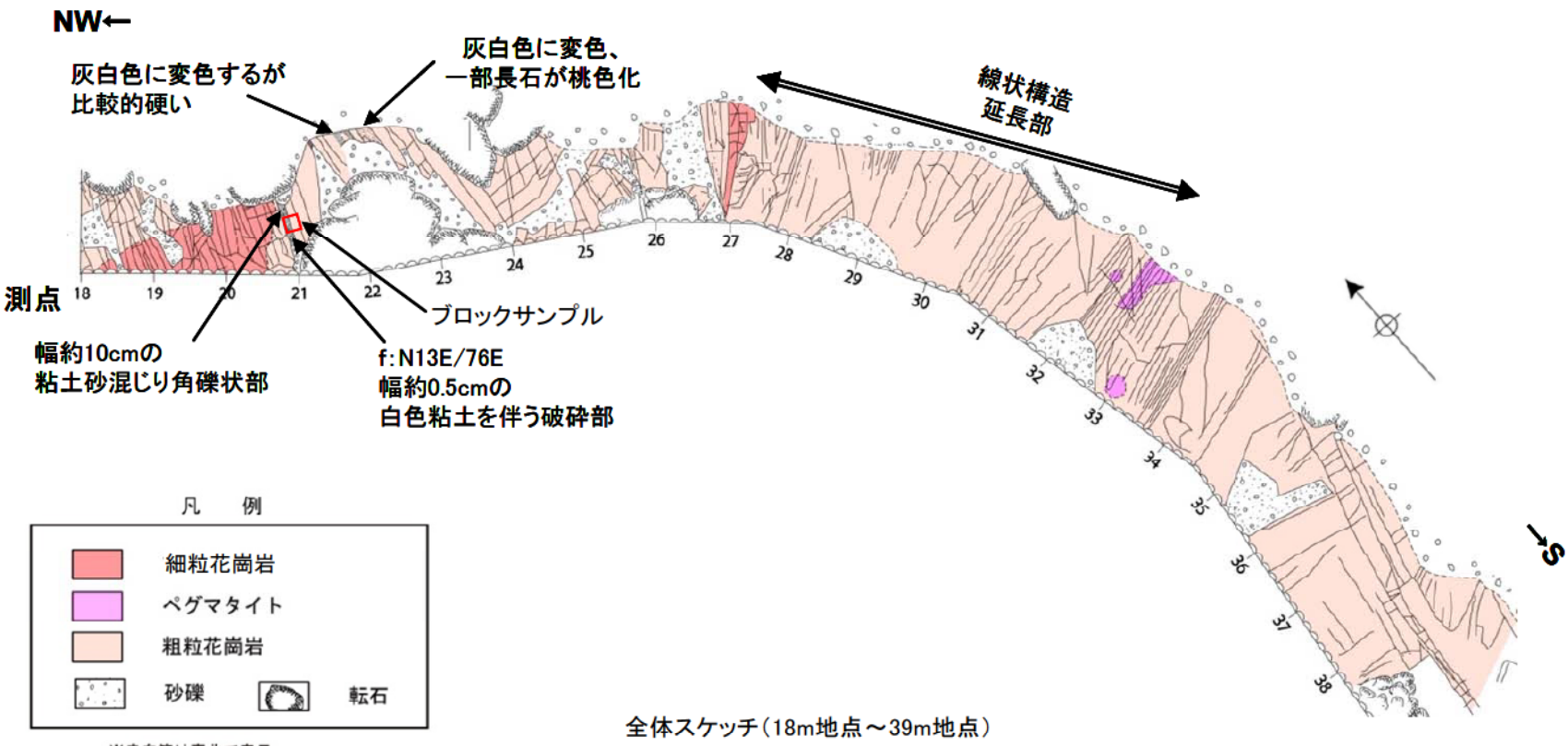


薄片観察結果

最新ゾーン

0.1mm

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(c地点)



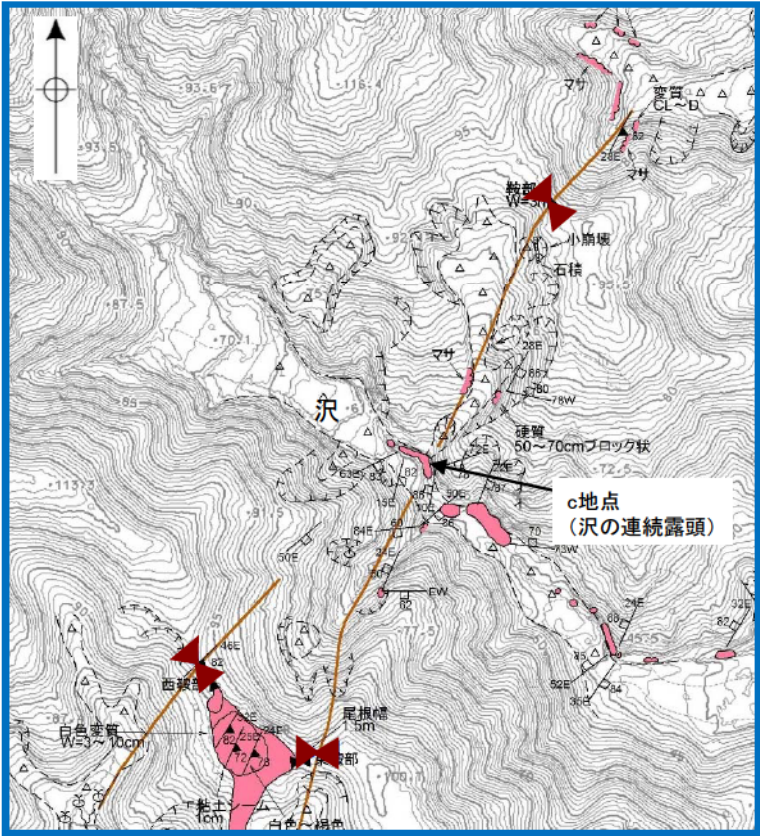
全体スケッチ(18m地点～39m地点)

鞍部と鞍部の間を横切る沢部があり、粗粒花崗岩(一部で細粒花崗岩)の健岩露頭が広く分布(40m程度)しているため、調査を行った。

健岩露頭が広く分布し、測点21m～22.5m付近で変質を受けた花崗岩が認められ、その上流側(測点21m付近)に幅約0.5cm程度の白色粘土を伴う破碎部(N13E/76E)を確認した。調査範囲(約40m区間)には、これ以外に破碎部は認められない。

[破碎部の薄片観察の結果]
・粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
・また、粘土鉱物には最新面を斜めに横切るものもあり、最新面が不連続になっている。
[破碎部のXRD分析の結果]
・新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっており、粘土鉱物としてスメクタイト、雲母粘土鉱物を確認

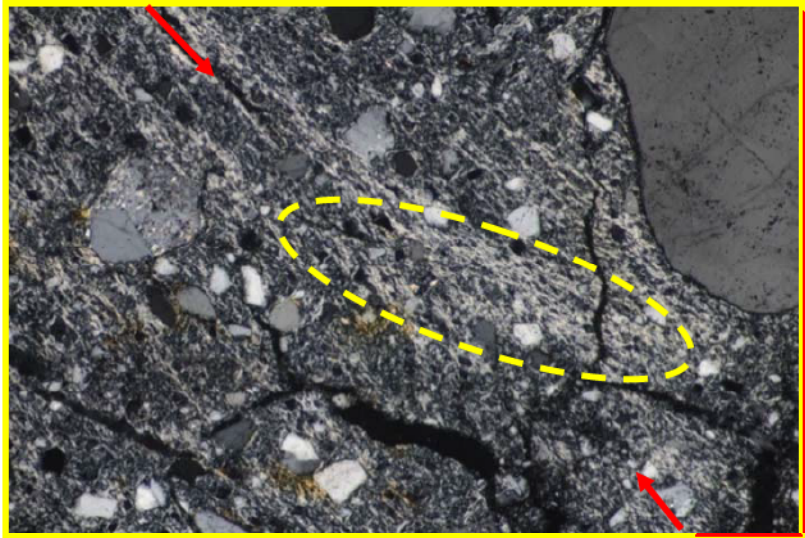
沢の連続露頭部には健岩露頭が広く分布し、線状構造延長部に破碎部は認められない。
測点21m～22.5m付近で変質を受けた花崗岩が認められ、その上流側(測点21m付近)に幅約0.5cm程度の白色粘土を伴う破碎部を確認した。
破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。



調査位置図

写真判読によりc地点北側尾根部および南側尾根部に鞍部が判読される。
鞍部から連続する谷に沿って線状構造を判読し、線状構造が横断する沢部において約40mの連続した花崗岩の露頭を確認した。

直交ニコル



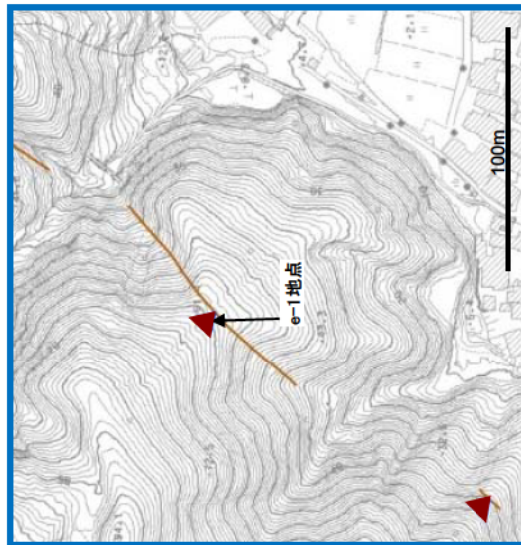
薄片観察結果

最新面

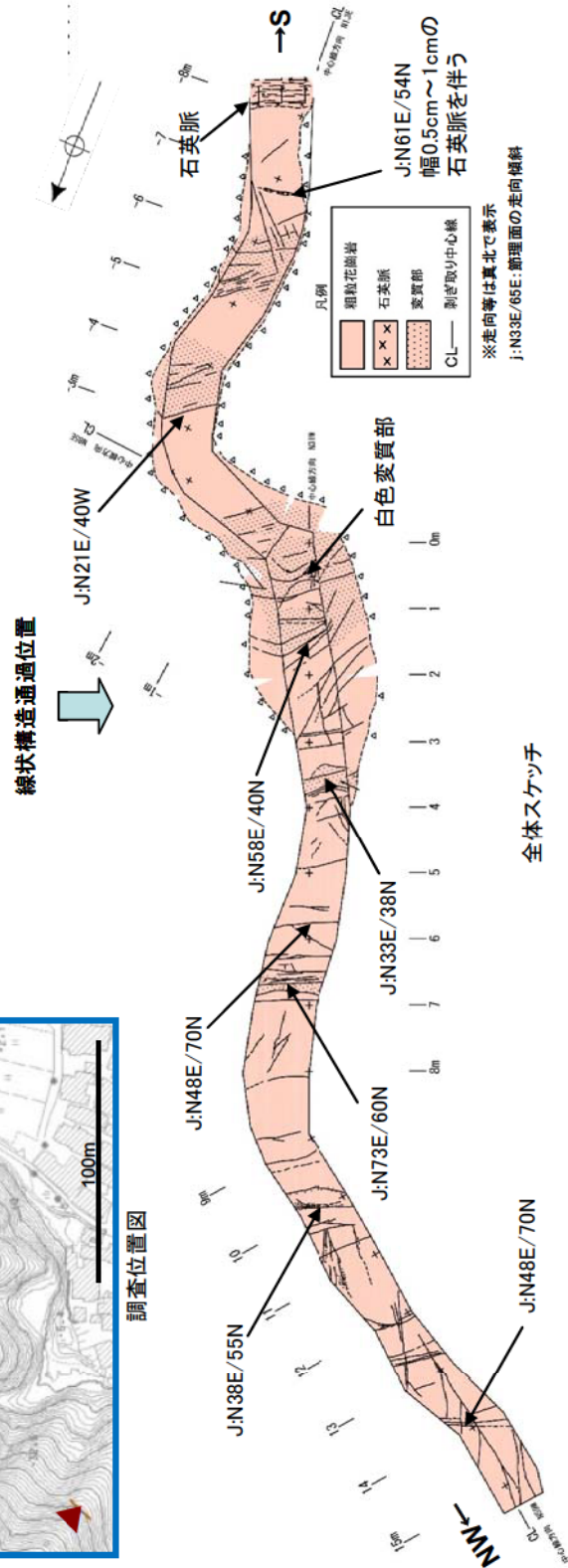
0.2mm

最新ゾーン

丹生地区区北方の剥ぎ取り調査結果(e-1地点)

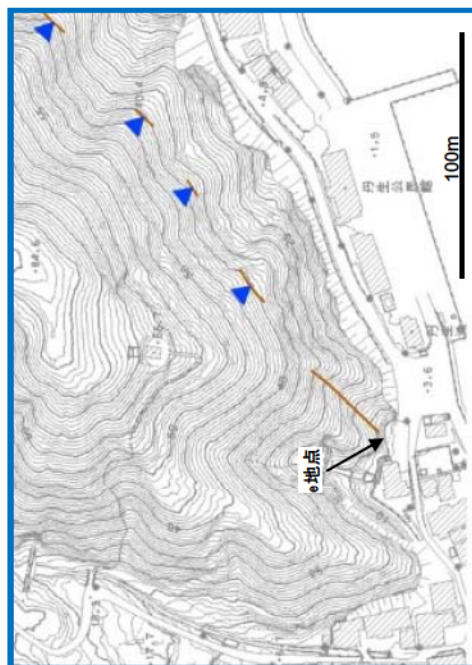


e地点の北側に連続する傾斜変換点のうち、尾根部で判読したe-1地点において、長さ23m程度の剥ぎ取り調査を行った。



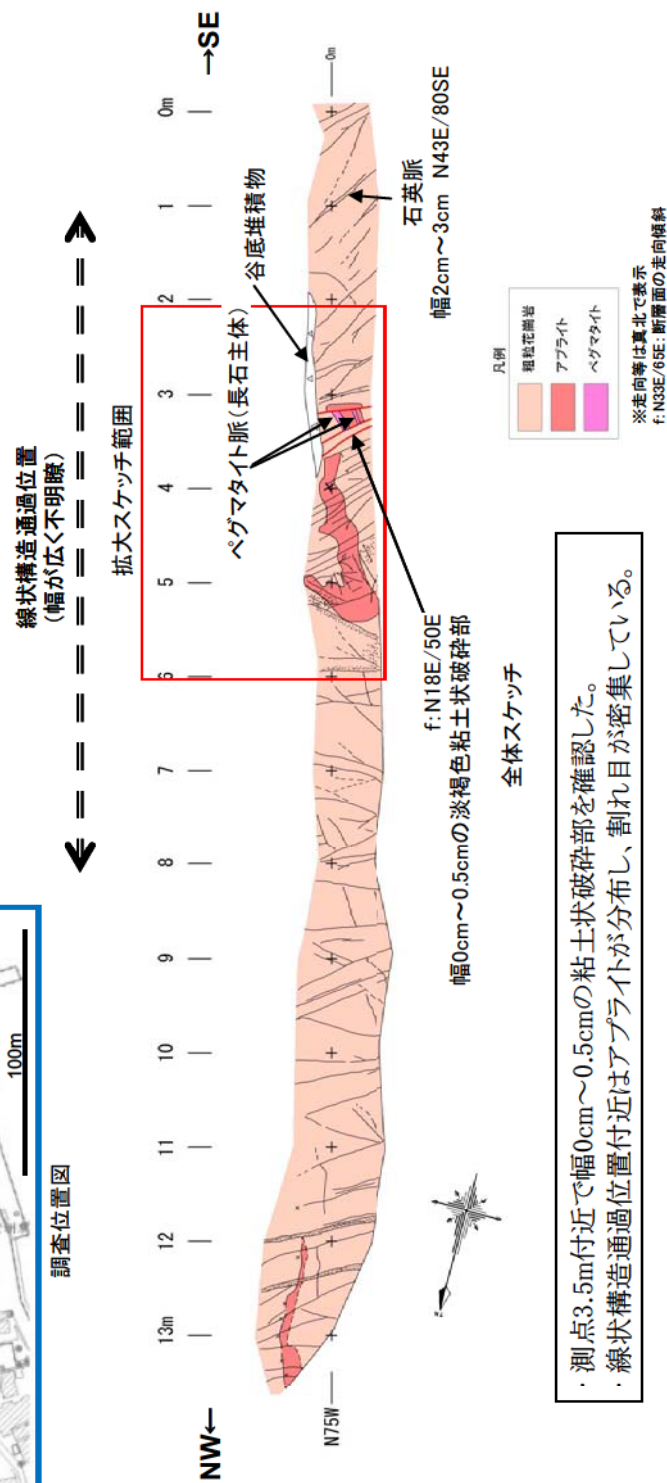
剥ぎ取り箇所には健岩露頭が広く分布し破砕部は認められない。線状構造通過位置に破砕部は認められず、線状構造通過位置から南側付近で変質を受けた花崗岩が認められた。変質を受けた花崗岩には線状構造の走向と調和的な節理が認められる。

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(e地点)

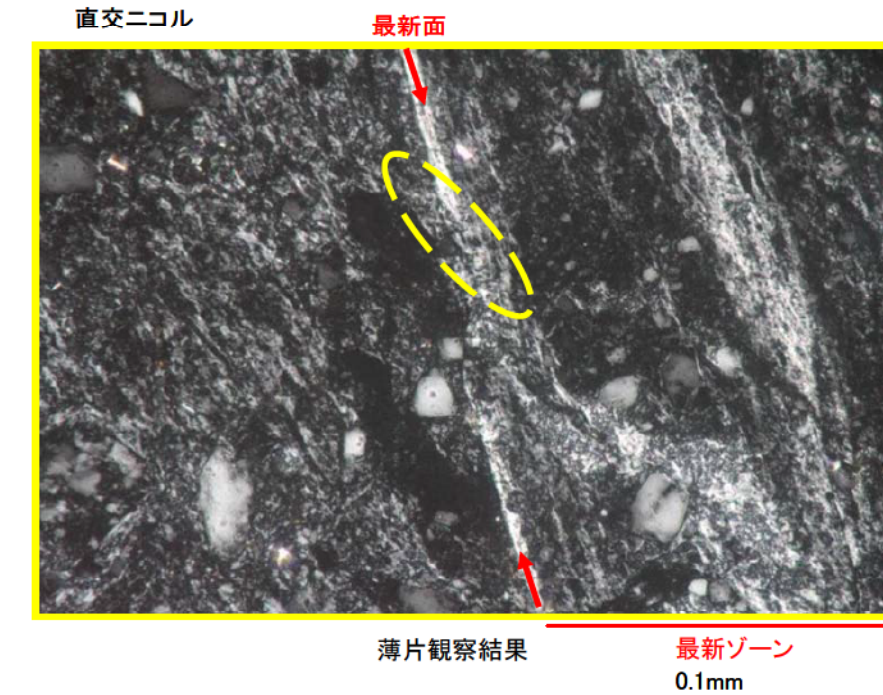
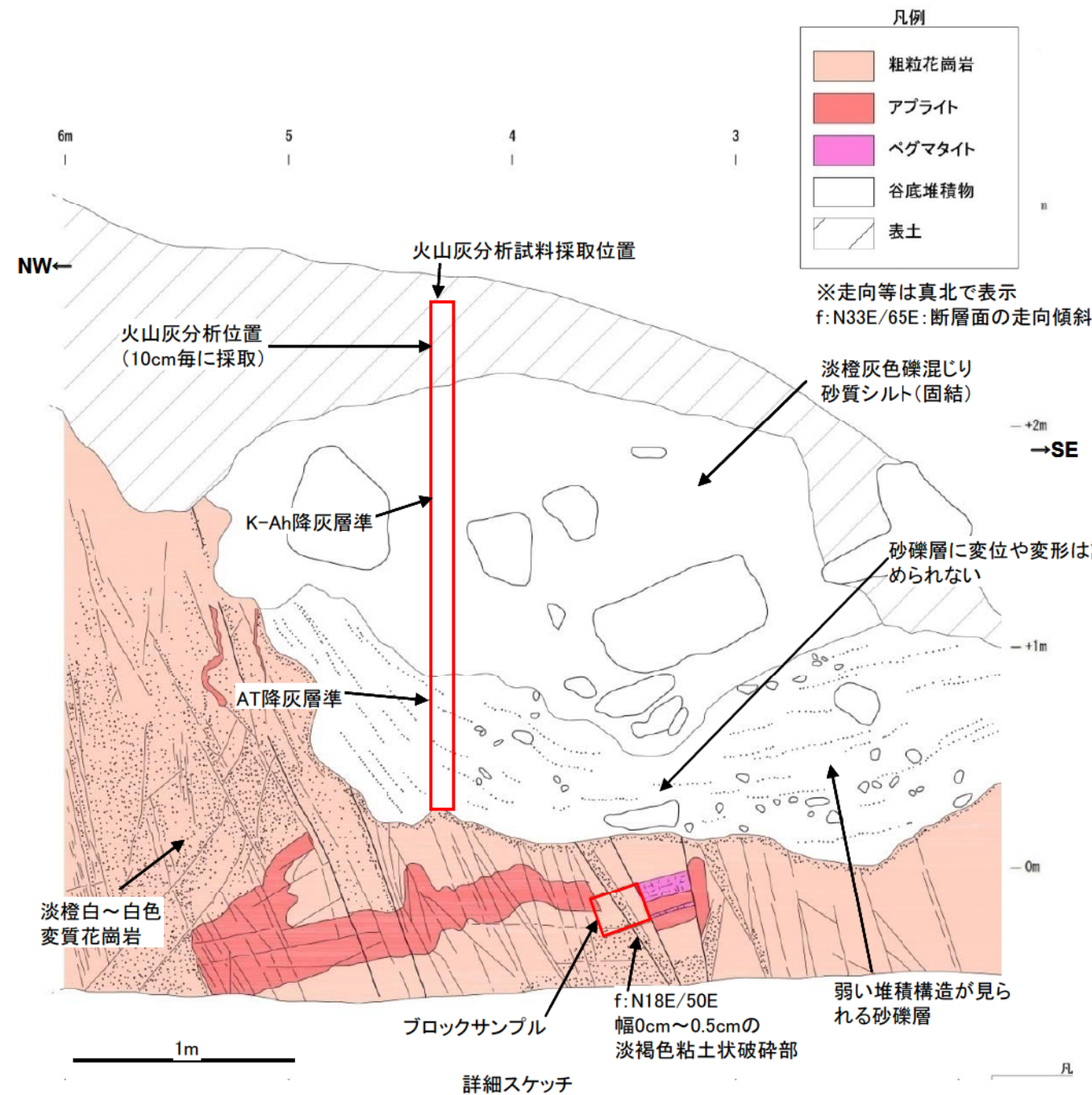


調査位置図

線状構造直下の法面で長さ14m程度の剥ぎ取り調査を行った。



丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(e地点)



〔破碎部の薄片観察の結果〕

- ・粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
- ・また、粘土鉱物には最新面を斜めに横切るものもあり、最新面が不連続になっている。

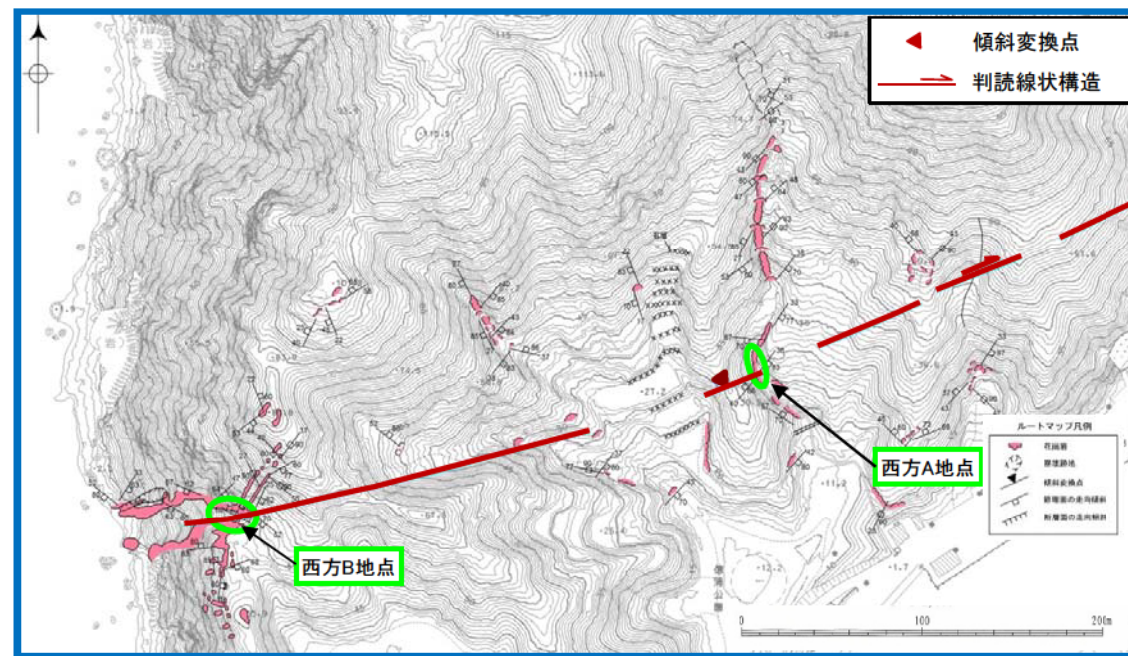
〔破碎部のXRD分析の結果〕

- ・新鮮花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっており、粘土鉱物としてスメクタイト、カオリン鉱物を確認。

線状構造通過位置付近に幅0cm～0.5cmの淡褐色粘土状破碎部(N18E/50E)を確認した。剥ぎ取り範囲で粘土を伴う破碎部はこれのみである。
破碎部直上の上載層に変位や変形は認められない。

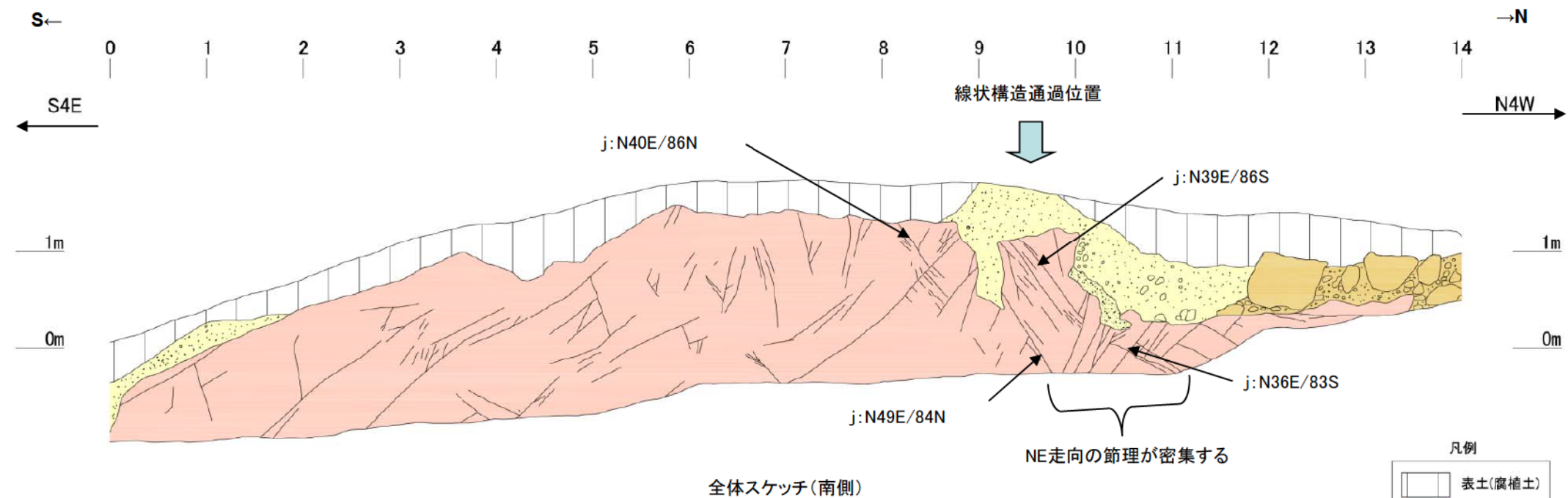
破碎部直上のAT(約2.6万年前～約2.9万年前)の降灰層準を含む堆積物に変位が認められないことから、少なくともAT降灰以降破碎部は活動していない。よって、白木ー丹生断層の3万年前以降の複数回の活動時に破碎部は活動していない。
破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(西方A地点)



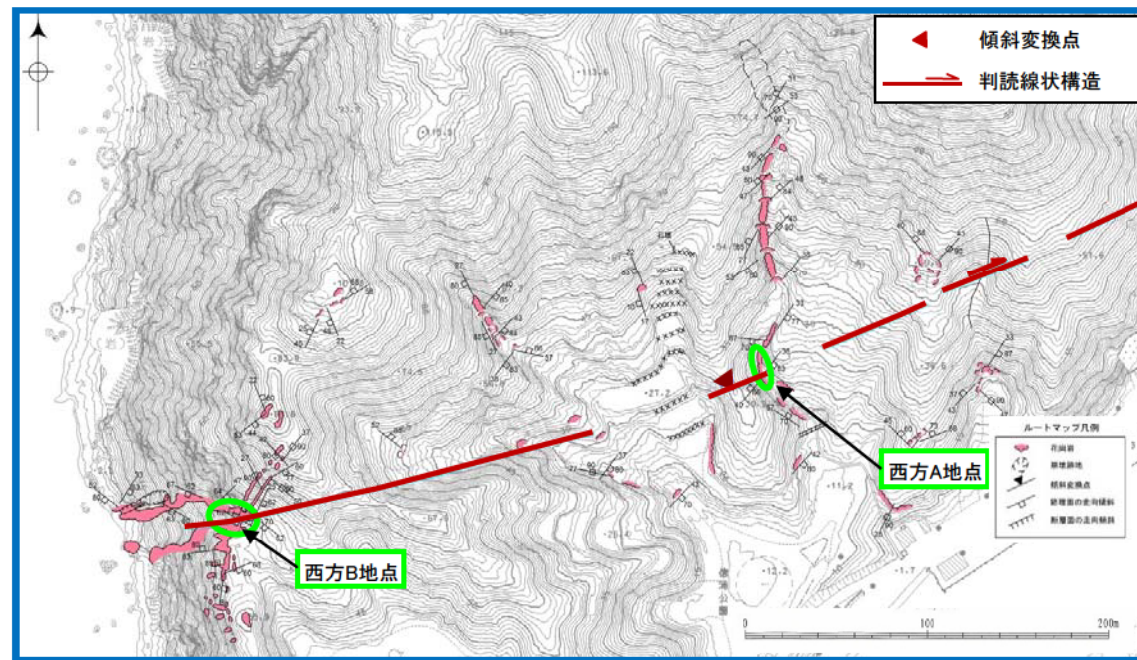
線状構造西方のルートマップ

線状構造西方部の踏査を行った。
線状構造周辺では、NE系とNW系の節理が発達する。
線状構造直下の西方A地点及び西方B地点で連続露頭を確認した。
西方A地点は、傾斜変換点近傍の線状構造通過位置を横切る河床部で露頭調査を行った。



剥ぎ取り箇所(北側の延長部も含め24m区間)には健岩露頭が広く分布し破碎部は認められない。
線状構造通過位置に破碎部は認められず、線状構造通過位置付近に線状構造の走向と調和的なNE走向の節理密集部を確認した。

丹生地区北方の剥ぎ取り調査結果(西方B地点)



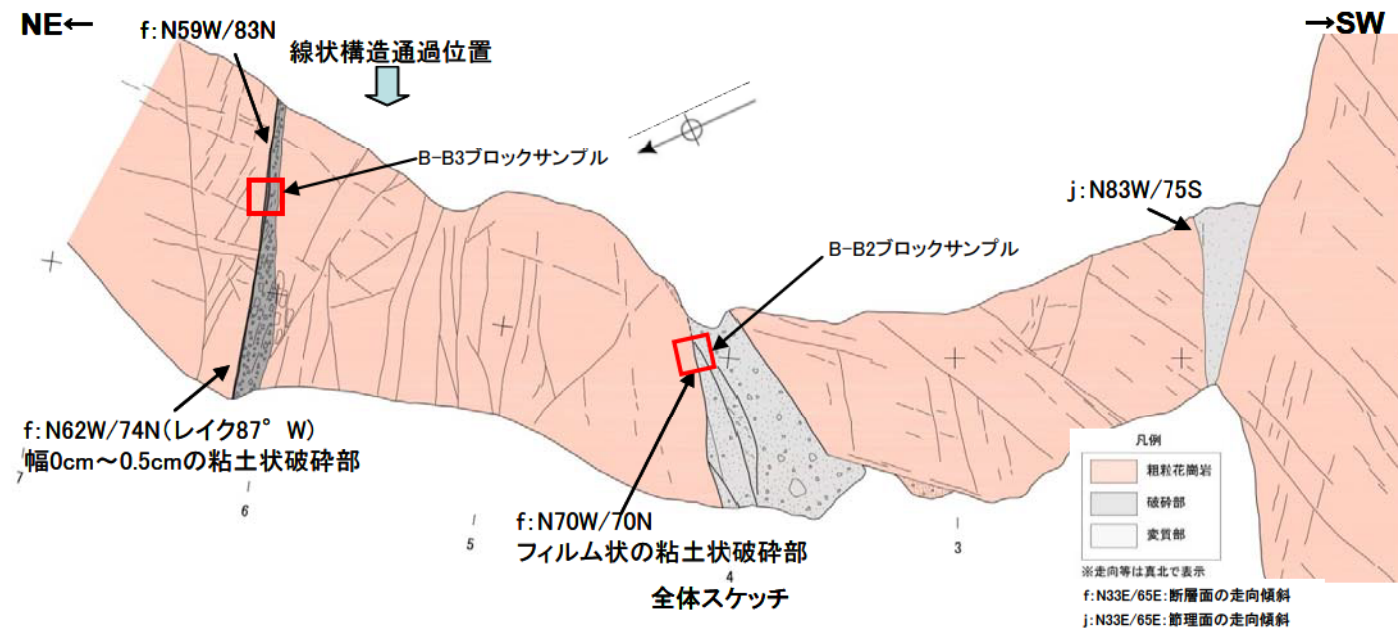
線状構造西方のルートマップ

線状構造西方部の踏査を行った。
線状構造周辺では、NE系とNW系の節理が発達する。
線状構造直下の西方A地点及び西方B地点で連続露頭を確認した。
西方B地点は、線状構造直下の沢底において、露頭調査を行った。



薄片観察結果(B-B2破碎部)

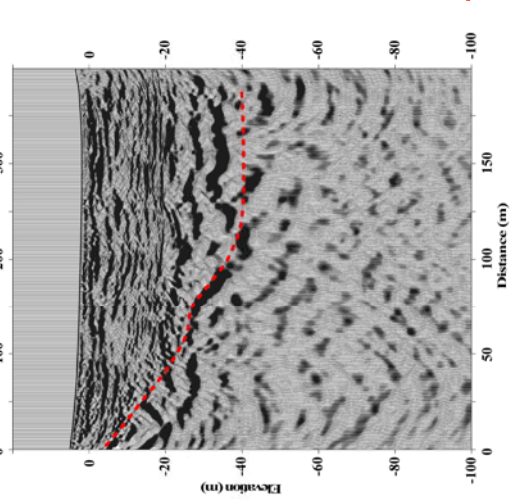
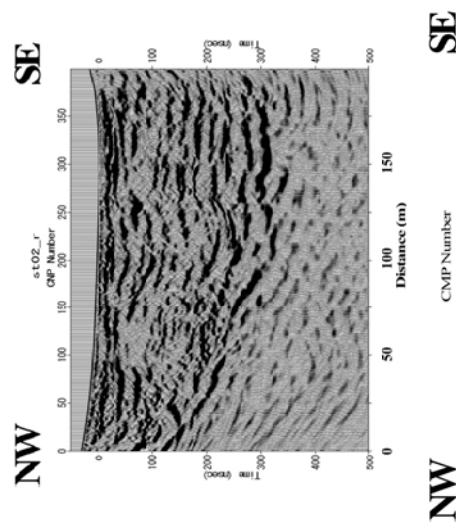
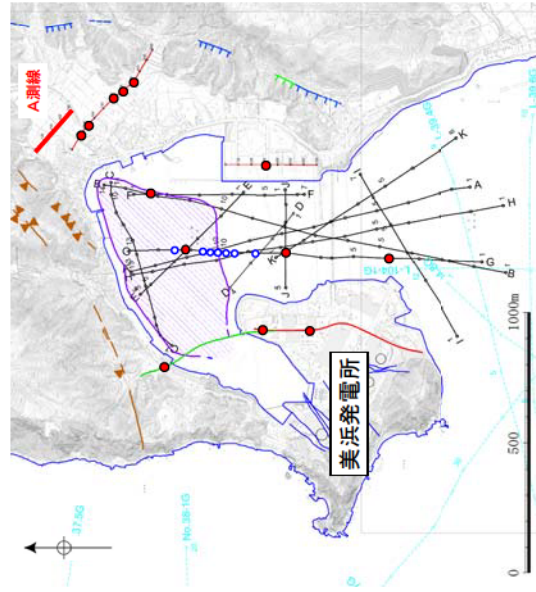
〔破碎部の薄片観察の結果〕
・B-B2及びB-B3破碎部では、粘土鉱物が網目状に発達し、最新面が粘土鉱物で充填されて不明瞭になっている。
・また、粘土鉱物には最新面を横断しているものがあり、変形していない。
〔破碎部のXRD分析の結果〕
・新鮮花崗岩と比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。B-B2破碎部では、粘土鉱物としてスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を確認。B-B3破碎部では、スメクタイト、カオリン鉱物を確認した。



線状構造通過位置付近に幅0cm～0.5cmの粘土状破碎部(N62W/74N、B-B3)およびフィルム状の粘土状破碎部(N70W/70N、B-B2)と変質部を確認した。NW走向で線状構造の走向と斜交している。
露頭部には、これら以外に破碎部は認められない。

線状構造通過位置付近に破碎部と変質部を確認したがNW走向で線状構造の走向と斜交している。
破碎部の薄片観察の結果、最新の熱水変質作用以降、破碎部は活動していない。

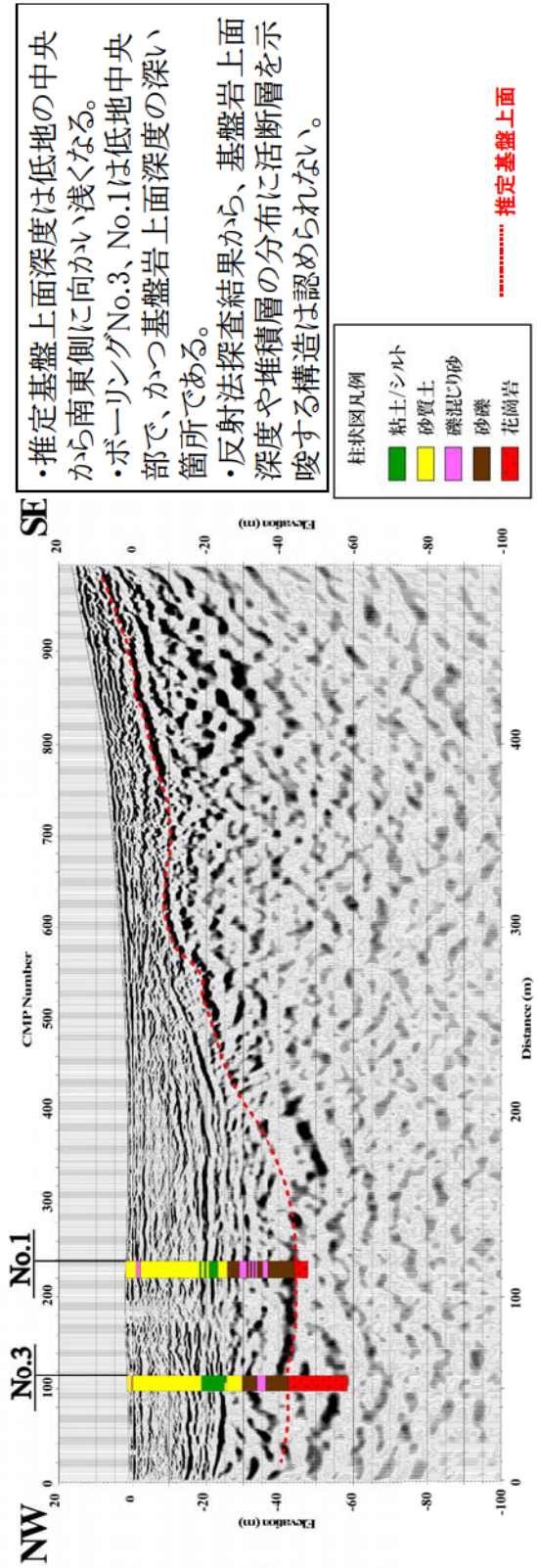
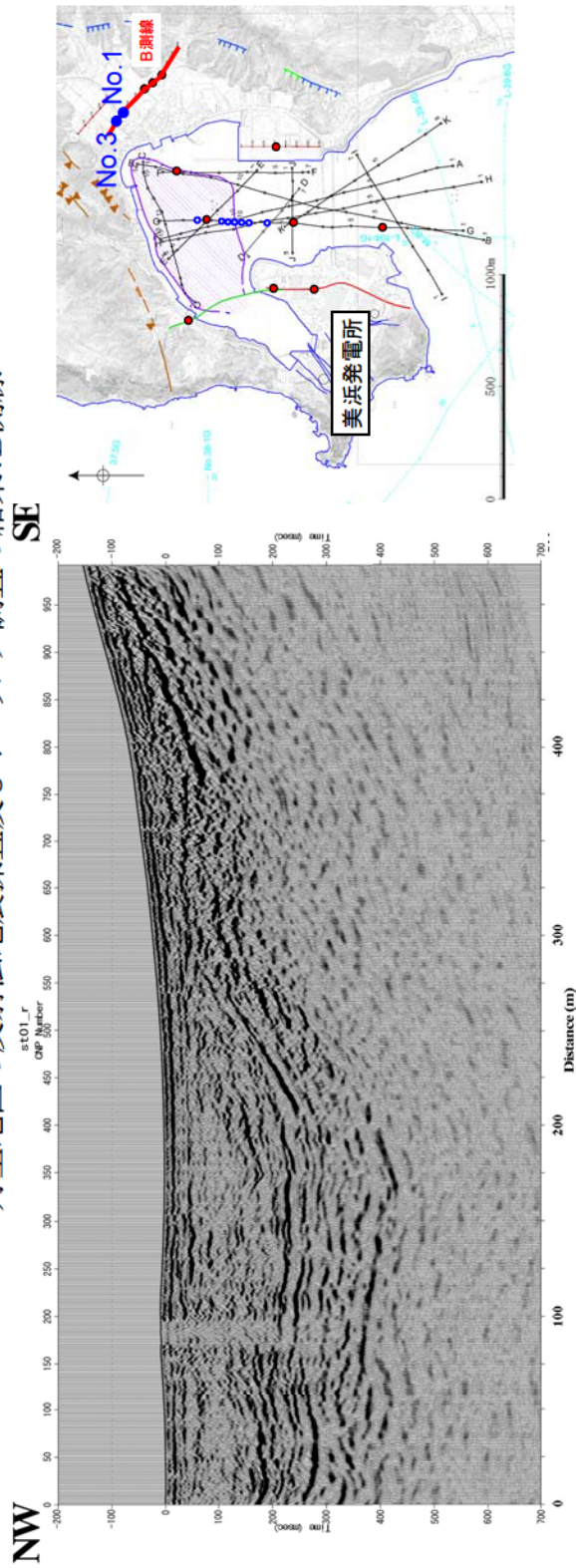
丹生地区の反射法地震探査及びボーリング調査の結果：A測線



- 推定基盤上面深度は北西側から、低地に中央の南東側に向かい深度を増す。
- 反射法探査結果から、推定基盤上面深度や堆積層の分布に活断層を示唆する構造は認められない。

..... 推定基盤上面

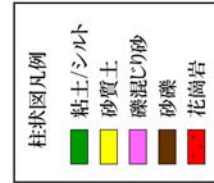
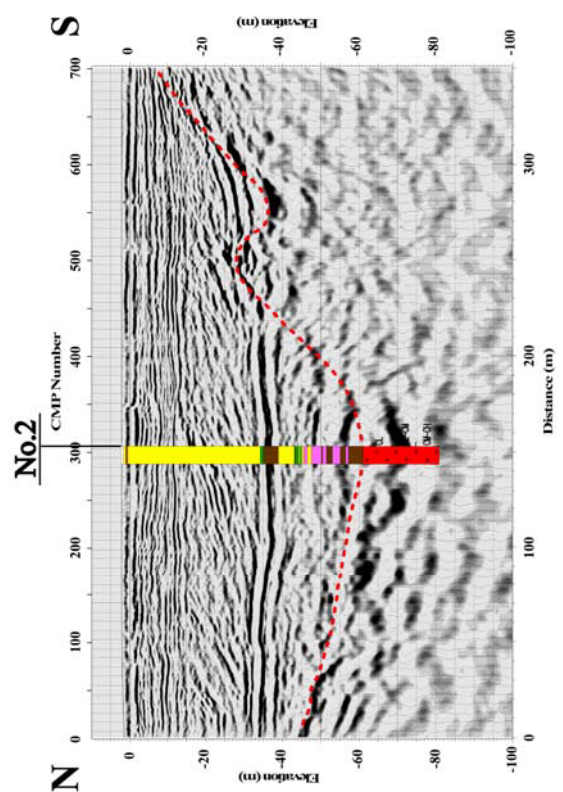
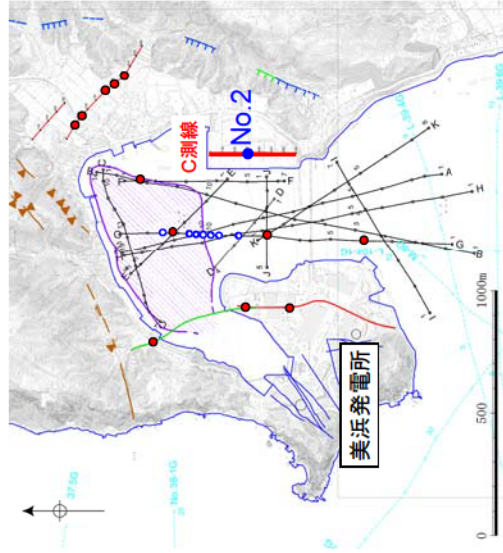
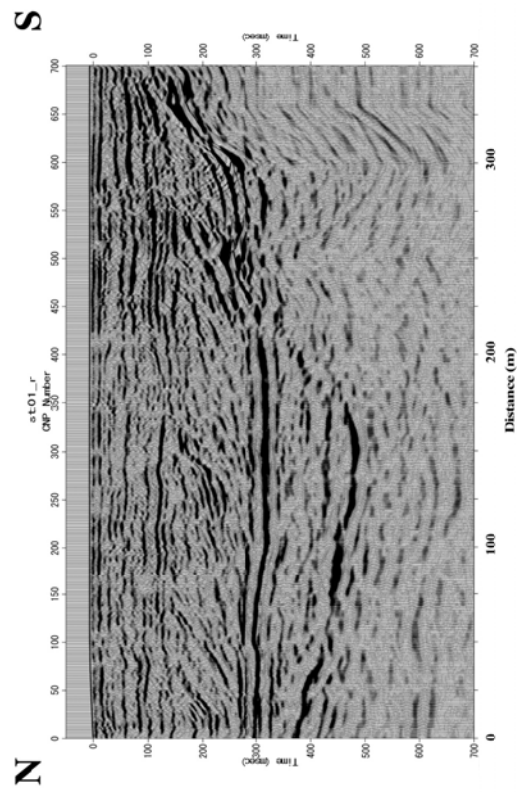
丹生地区の反射法地震探査及びボーリング調査の結果:B測線



・推定基盤上面深度は低地の中央から南東側に向かい浅くなる。
 ・ボーリングNo.3、No.1は低地中央部で、かつ基盤岩上面深度の深い箇所である。
 ・反射法探査結果から、基盤岩上面深度や堆積層の分布に活断層を示唆する構造は認められない。

第 1. 4. 47 図 (2) 丹生地区の反射法地震探査記録 (B 測線)

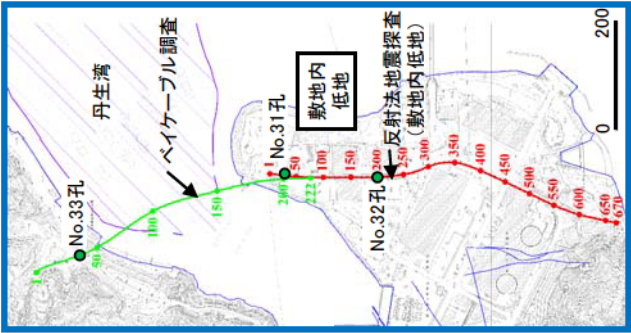
丹生地区の反射法地震探査及びボーリング調査の結果：C測線



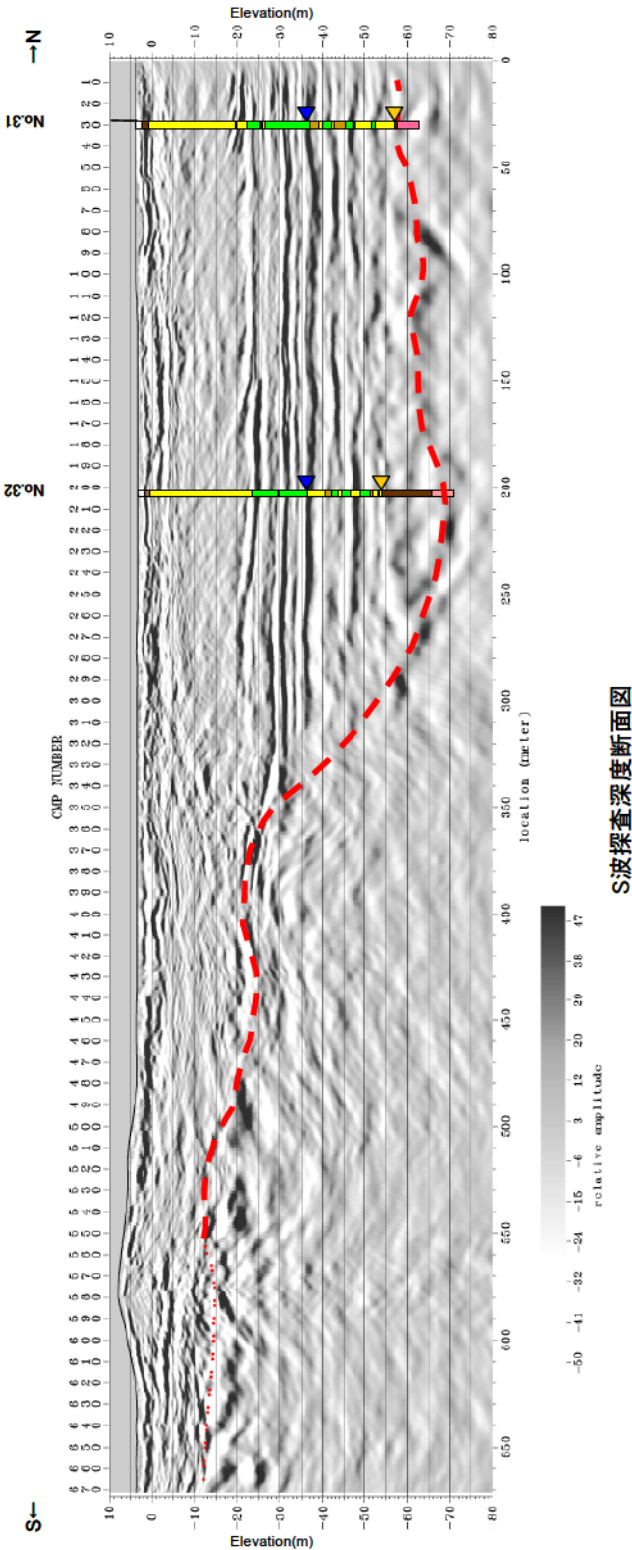
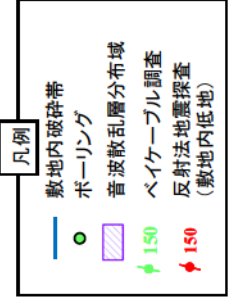
推定基盤上面

• 推定基盤上面深度は、南側の陸地に向かい浅くなる。ボーリングNo.2はこの測線で基盤岩上面深度が、最も深い箇所である。
• 反射法探査結果から、基盤岩上面深度や堆積層の分布に活断層を示唆する構造は認められない。

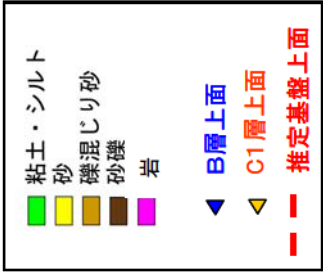
敷地内の反射法地震探査結果



解析測線図

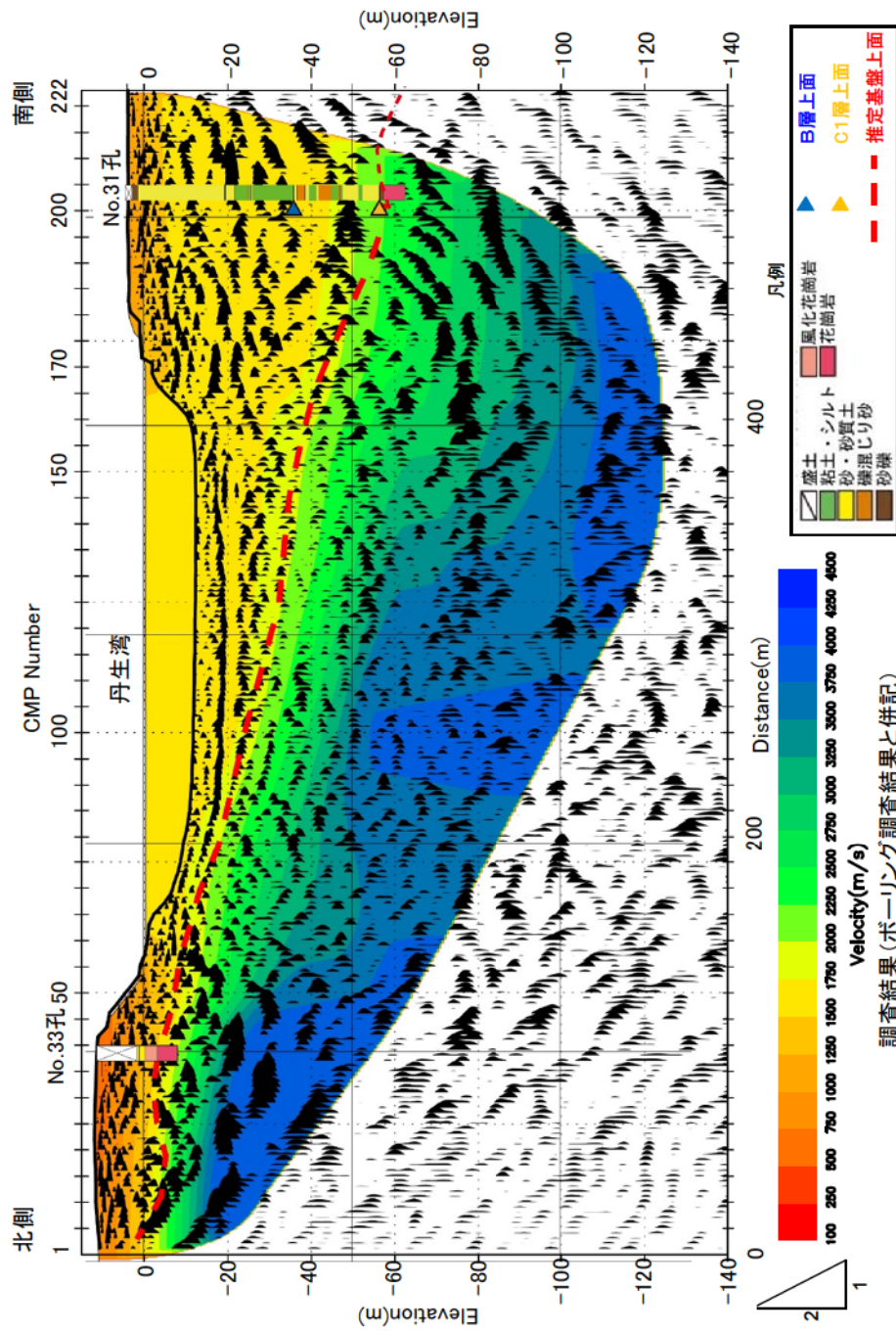


S波探査深度断面図

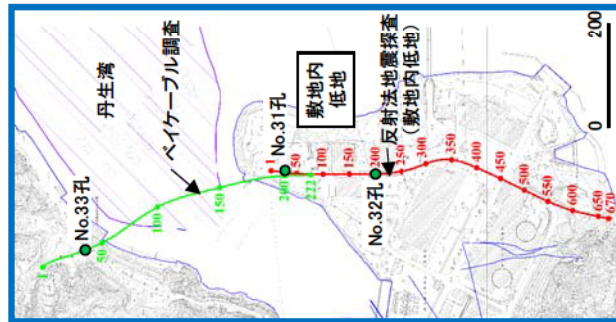


反射断面で見られたバリア構造はNo.31、32孔で砂層が確認された。その下部は粘土・シルト層が水平に堆積している。
また、基盤標高は北側では多少の凹凸は見られるもののE.L.-60m~-70mとほぼ水平に分布しており、測線の中ほどから南の山地に向かって浅くなっていく様子が認められ、地形に即した形状が見られる。

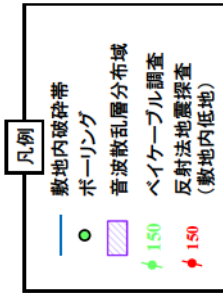
丹生湾北縁部のバインケブル調査結果



ボーリング調査結果から基盤上面および堆積層の境界を推定した。

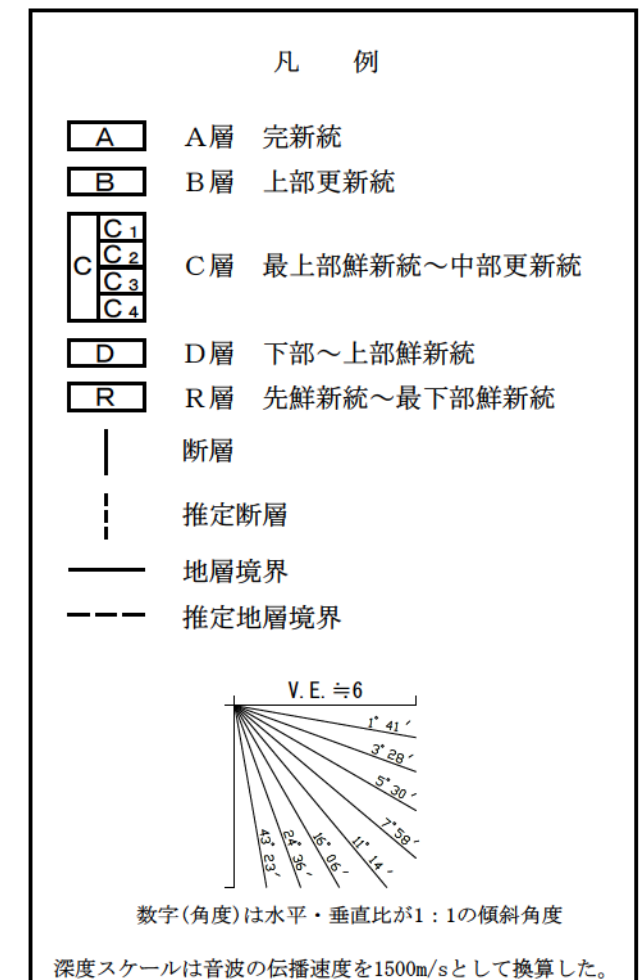
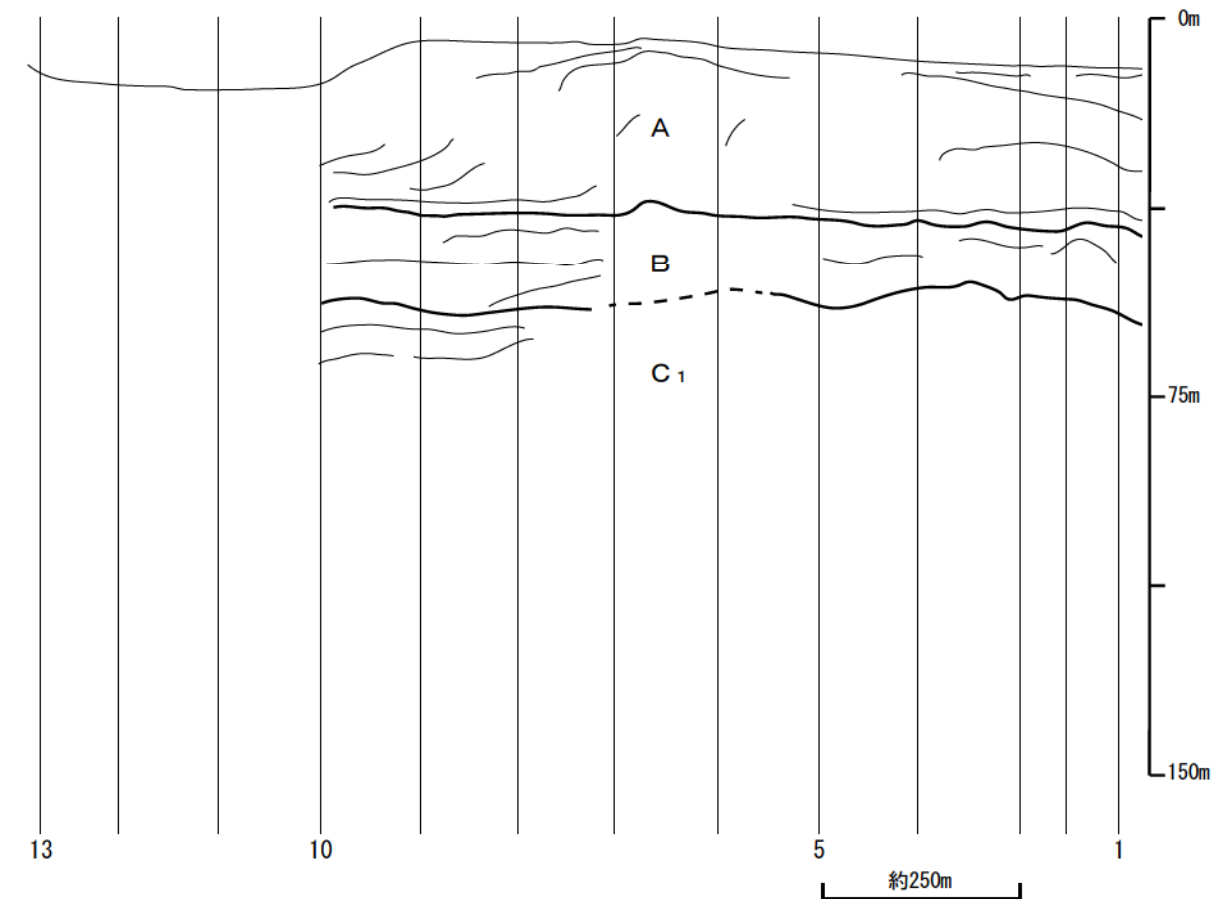
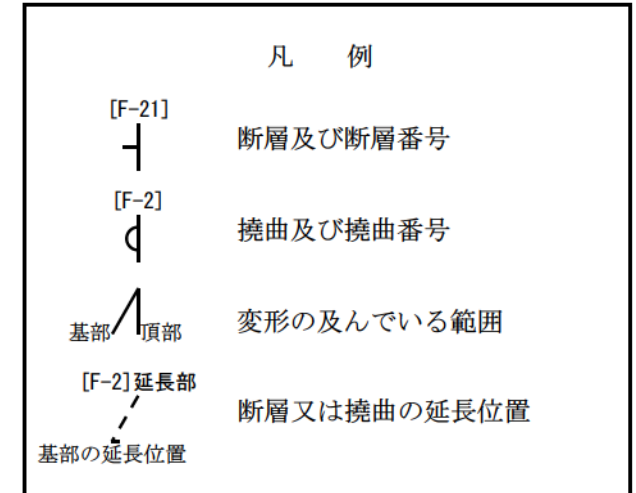
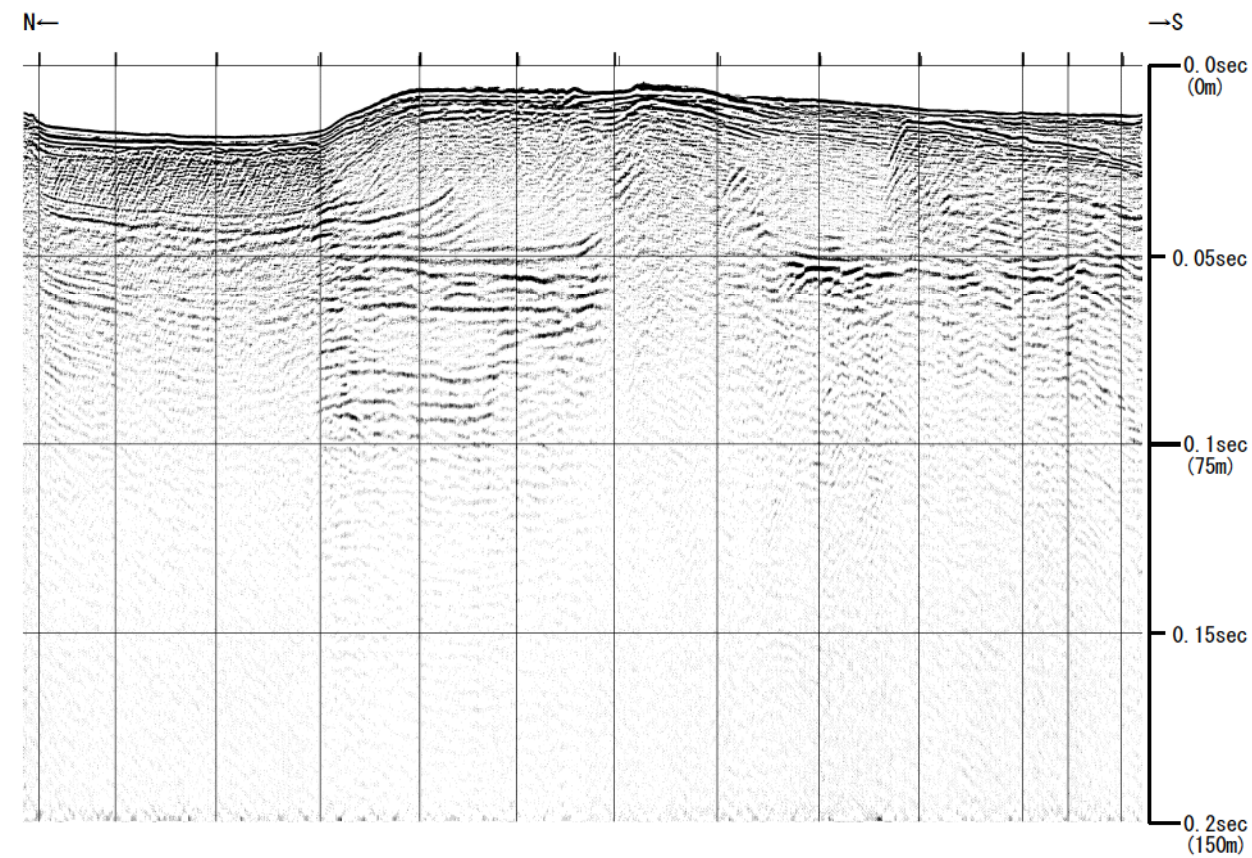


解析測線図

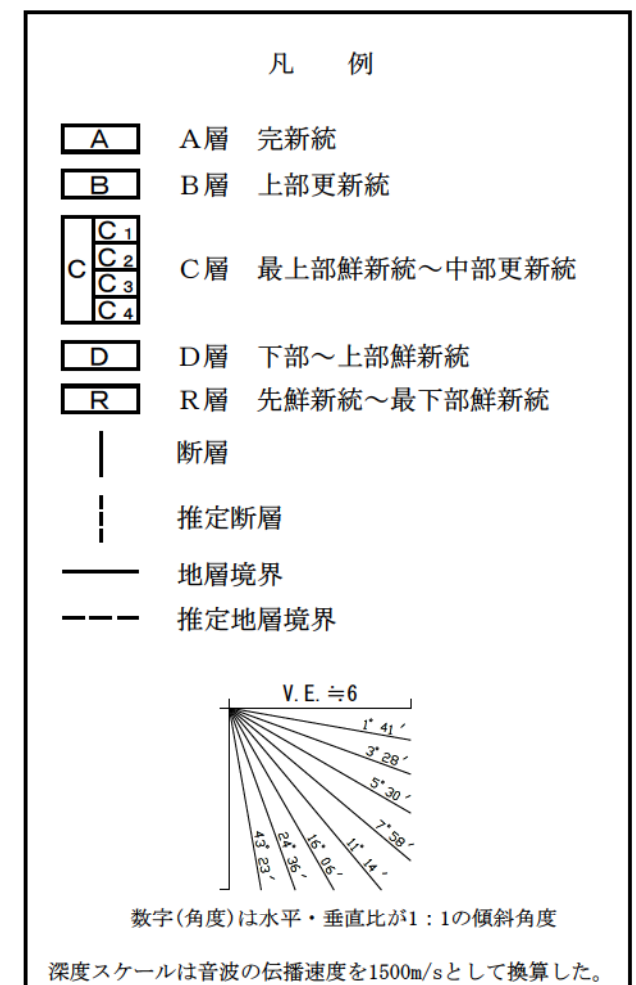
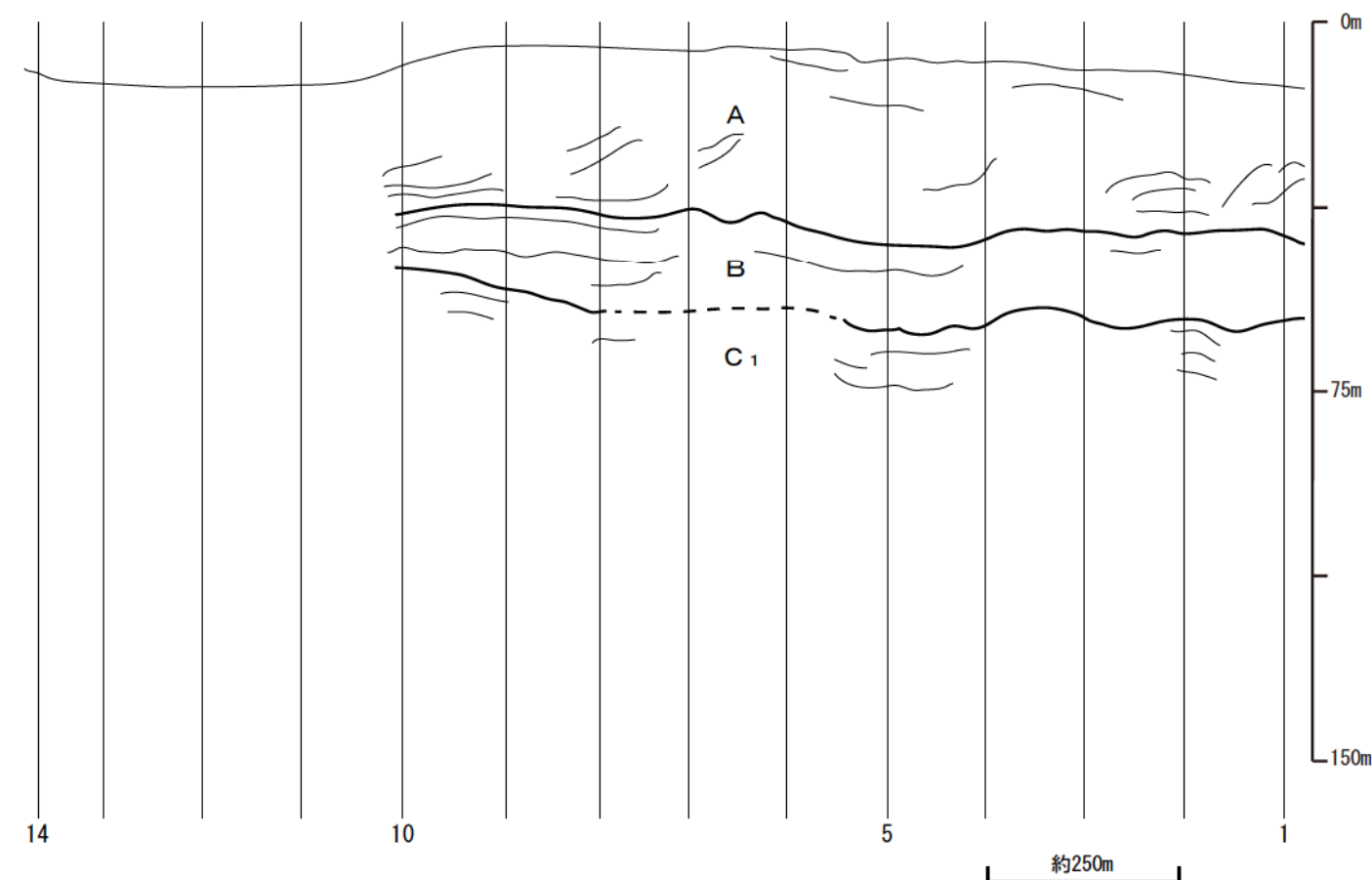
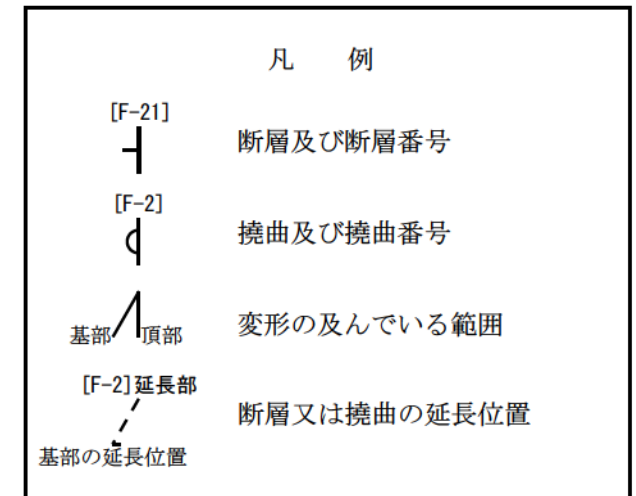
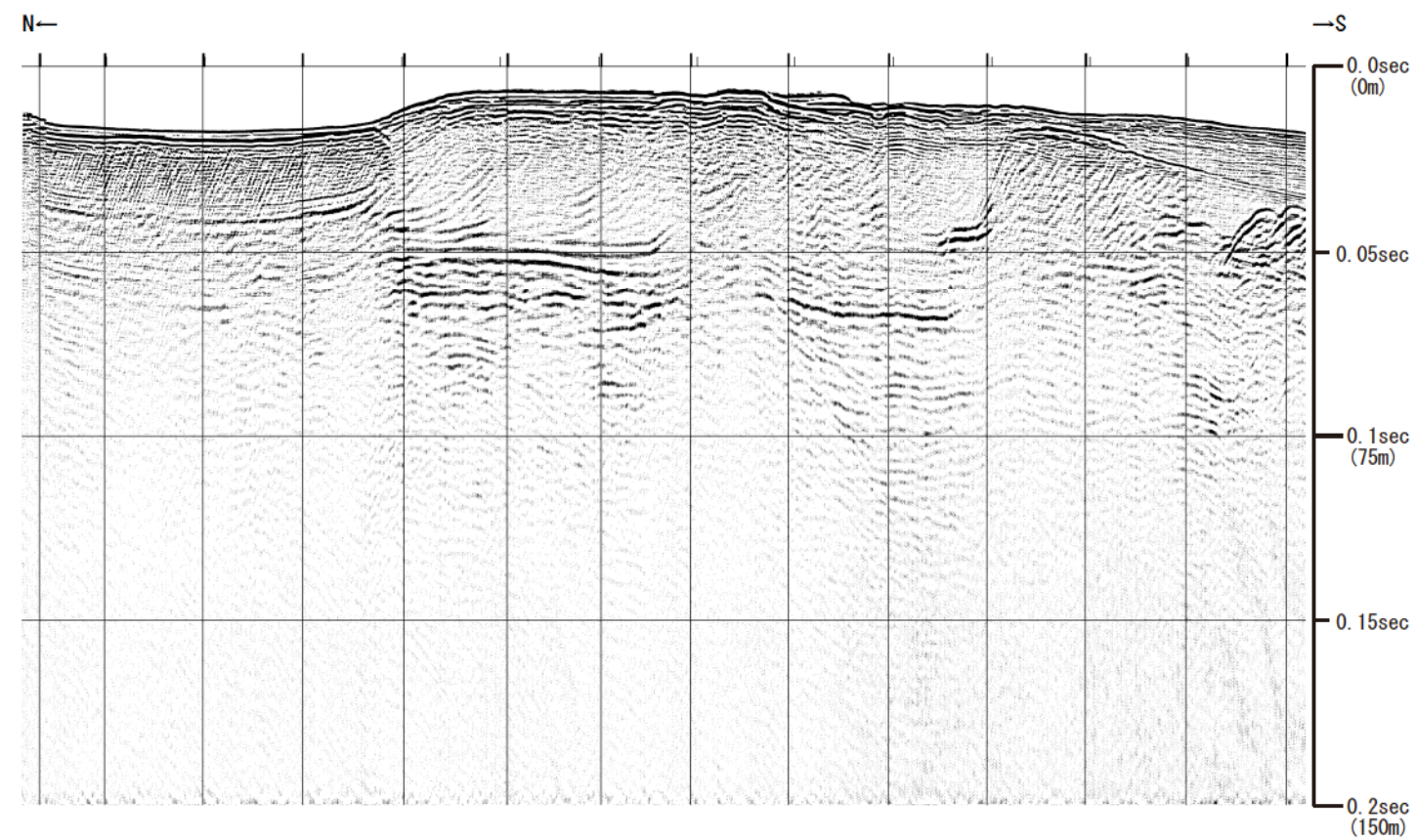


- ・ 反射法で推定した基盤上面は、屈折法の数値分布と同様、丹生湾北西側山地から敷地内低地へ向かって、滑らかに下がっている。
- ・ 丹生湾と北西側山地の境界には、基盤上面や堆積層の分布に活断層を示唆する地形や地質構造は認められない。

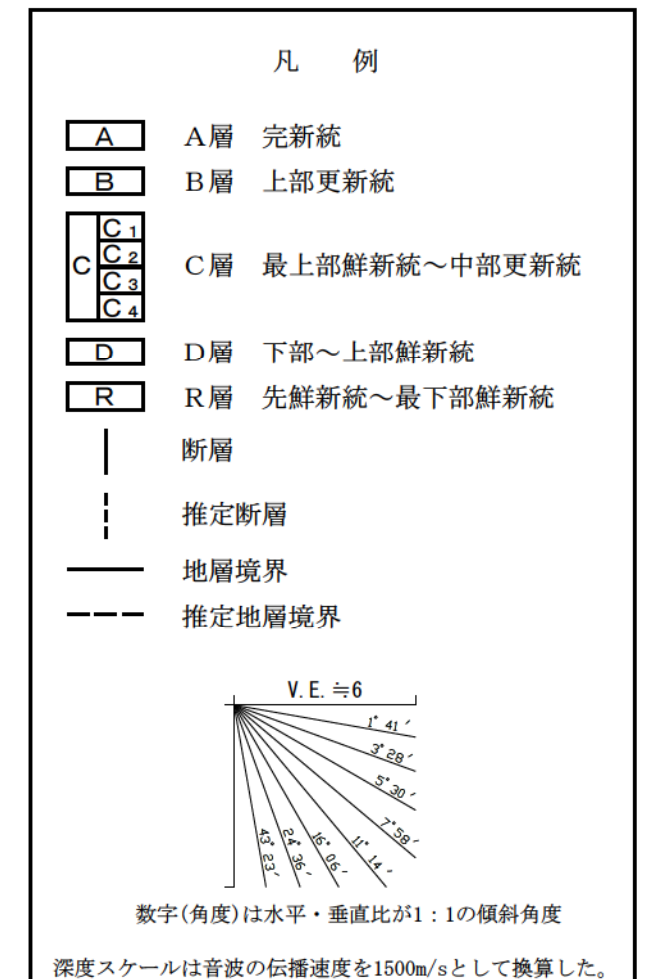
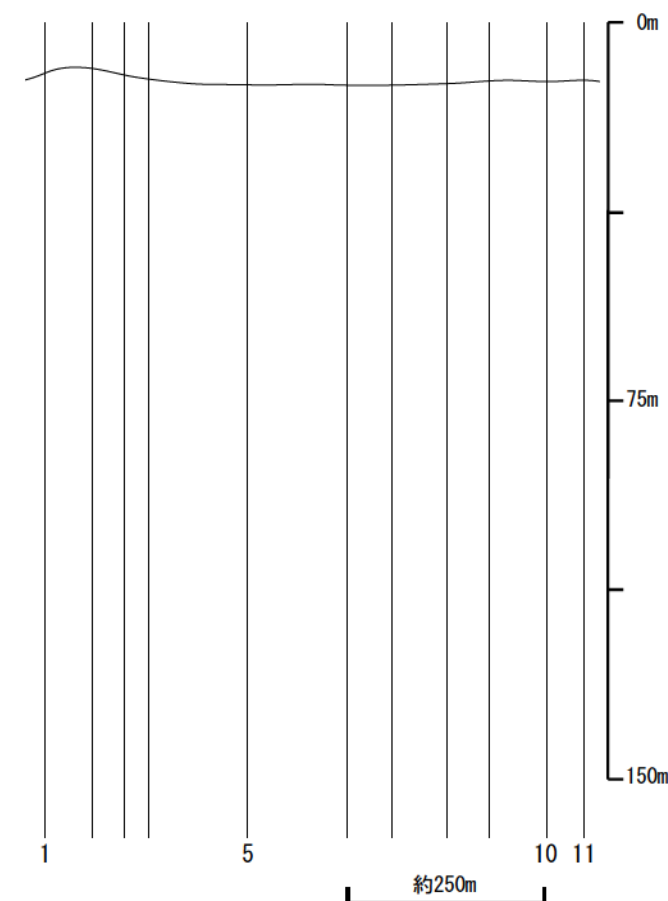
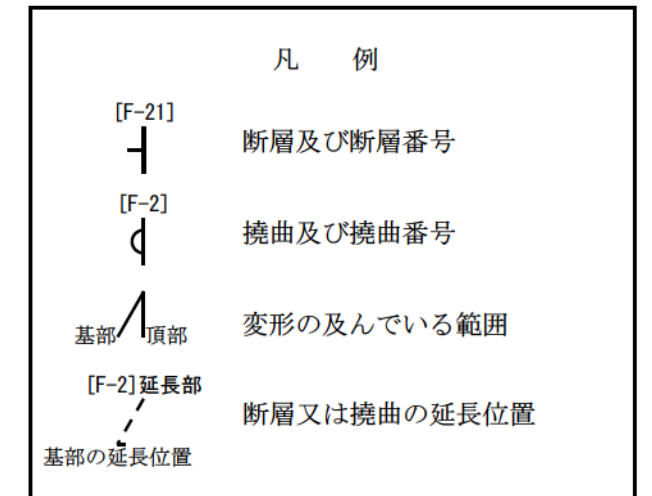
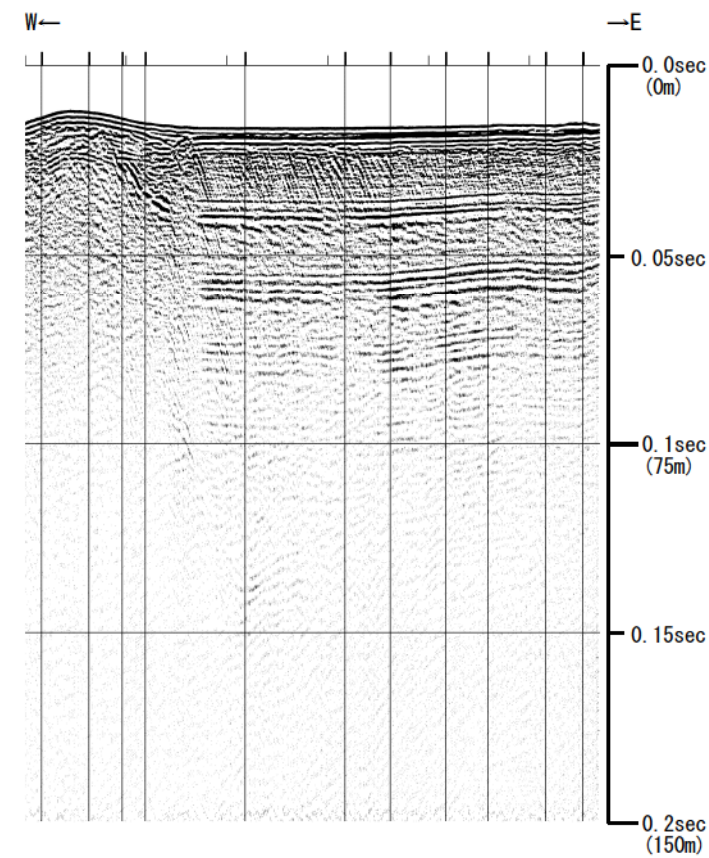
A測線
 関西電力2012
 プーマー・ショートマルチ



第1. 4. 50図(1) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (A測線)

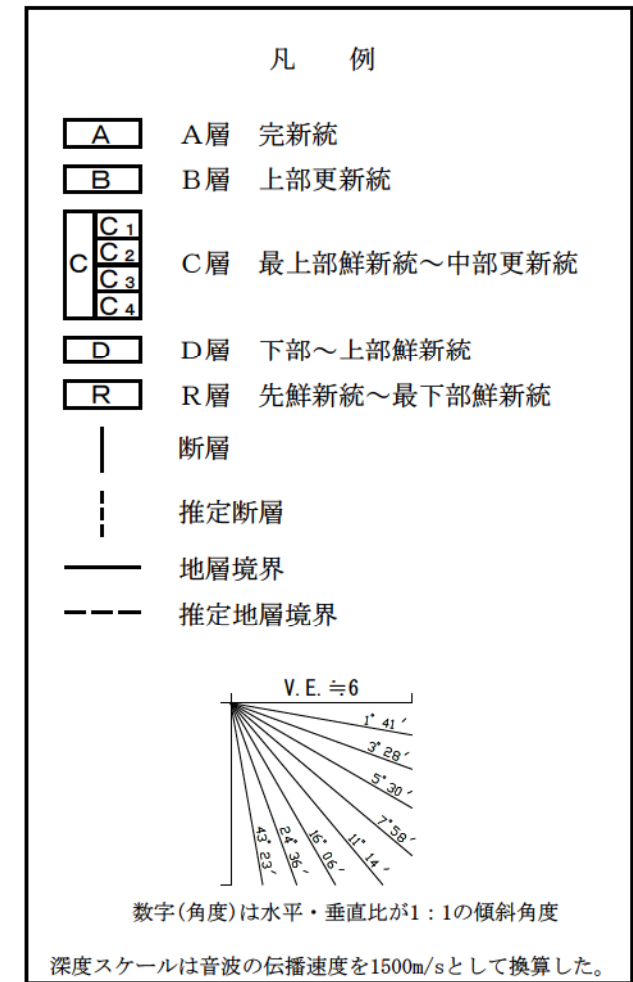
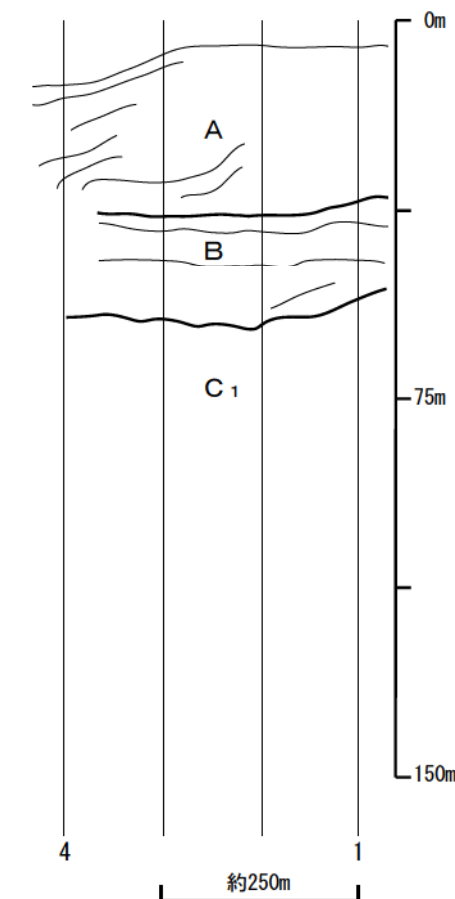
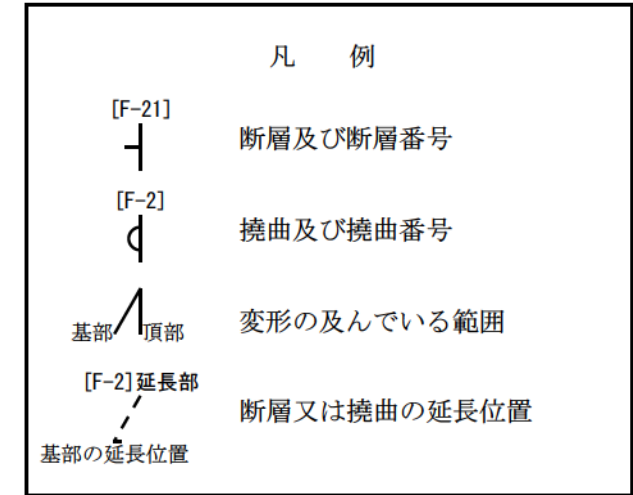
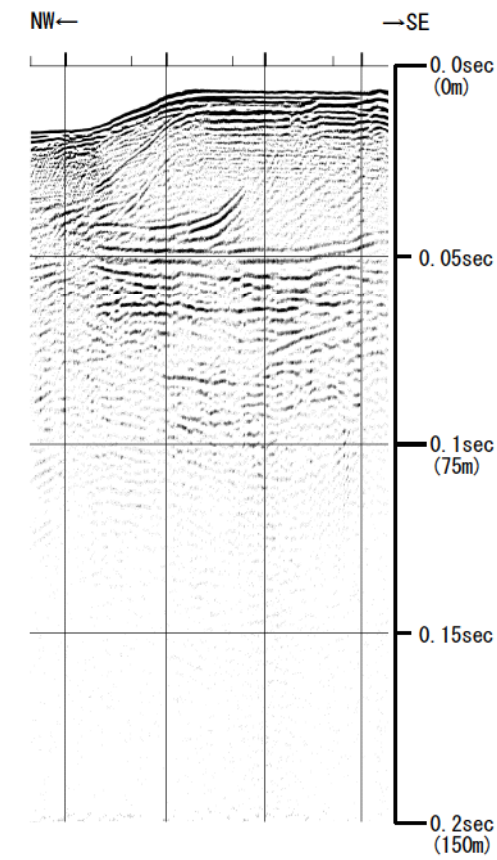


第1. 4. 50図(2) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (B測線)



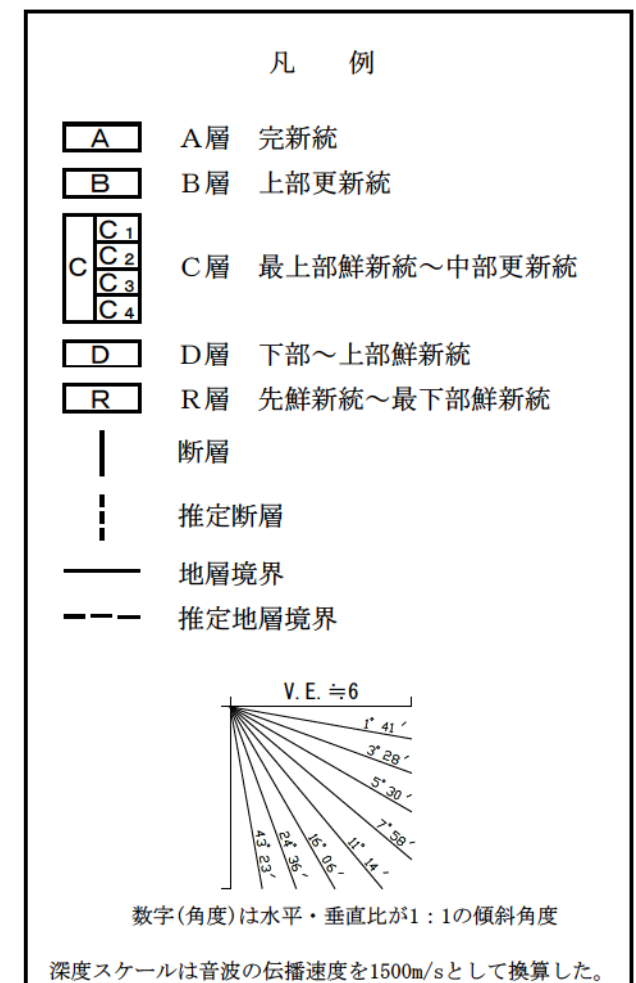
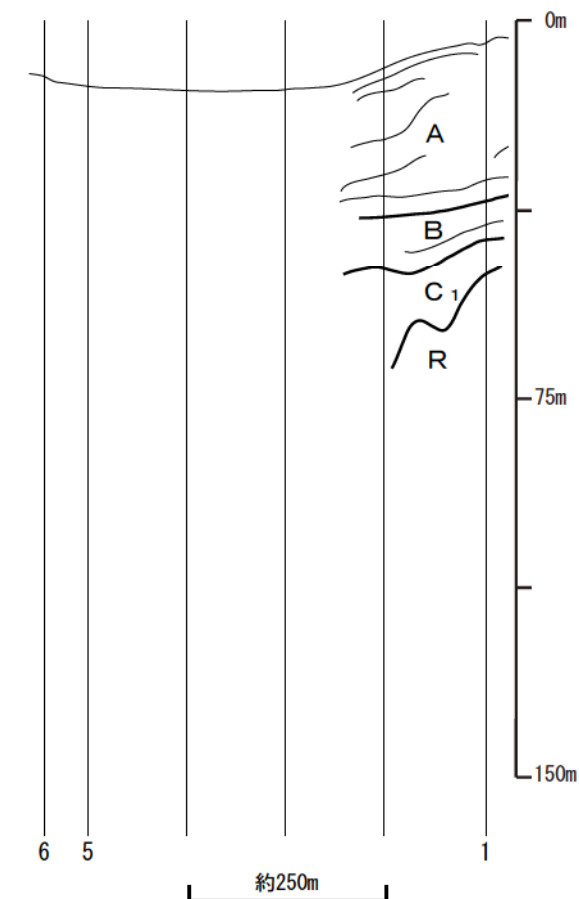
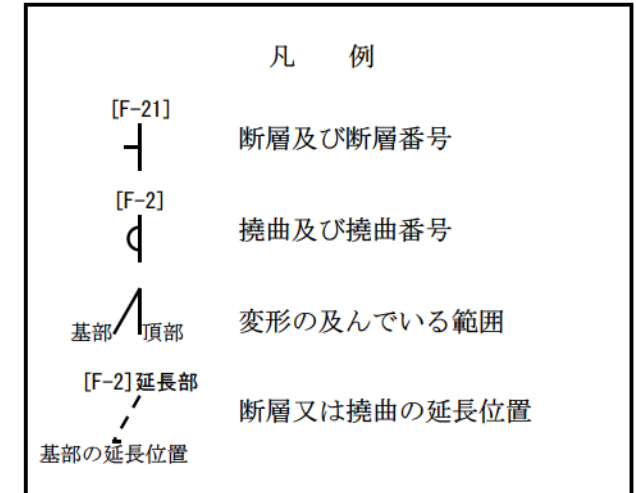
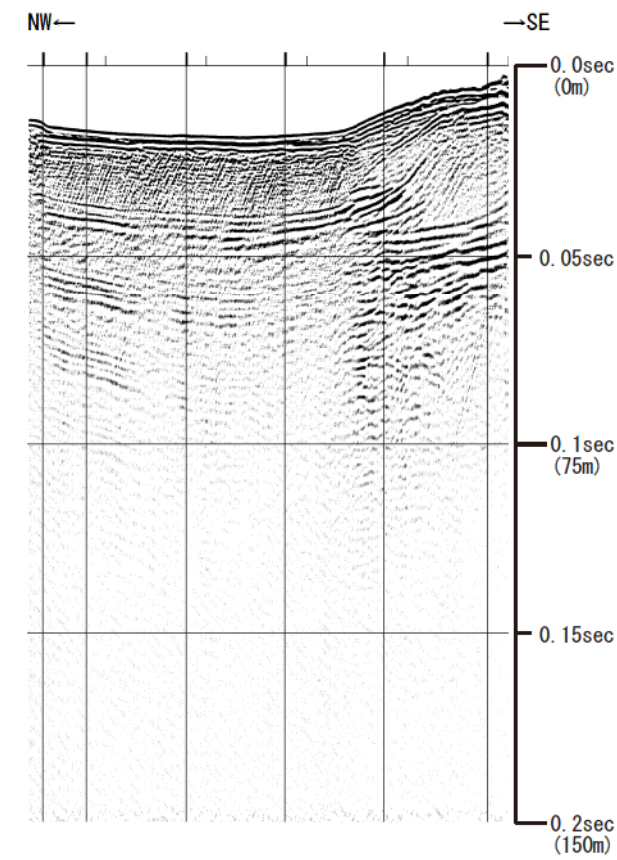
第1. 4. 50図(3) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (C測線)

D測線
 関西電力2012
 ブーマー・ショートマルチ

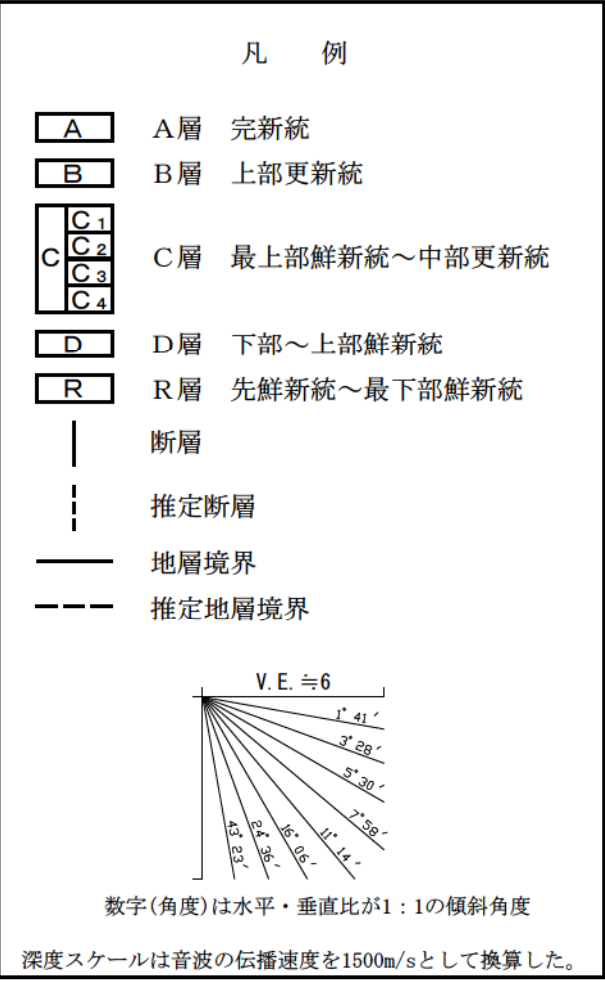
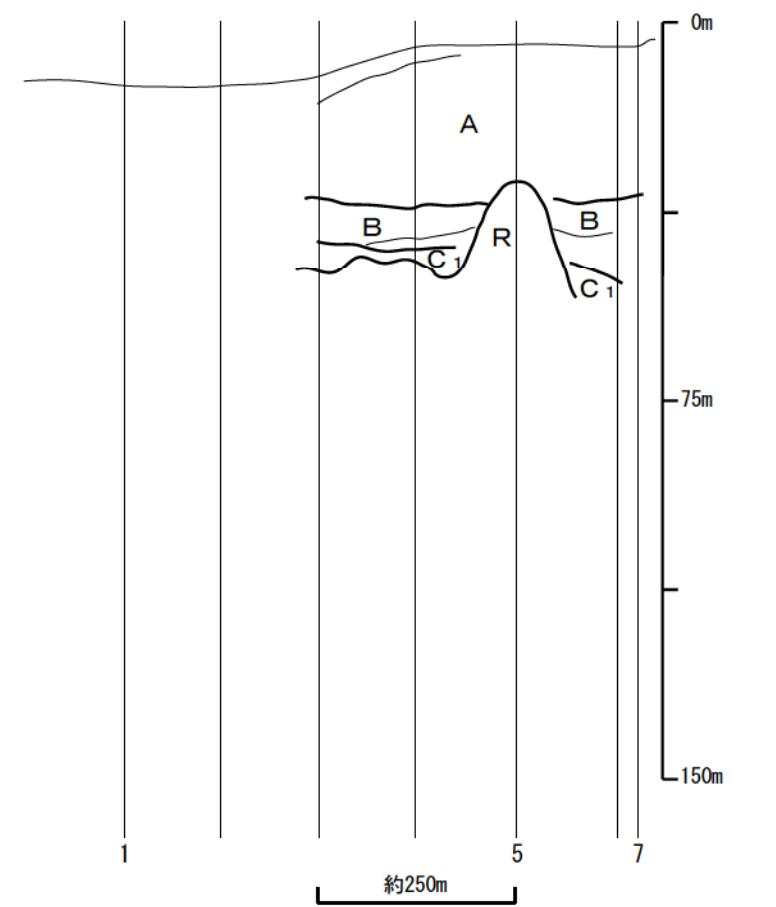
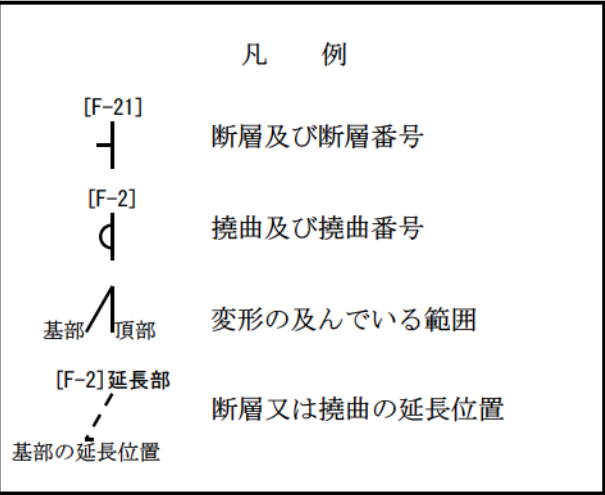
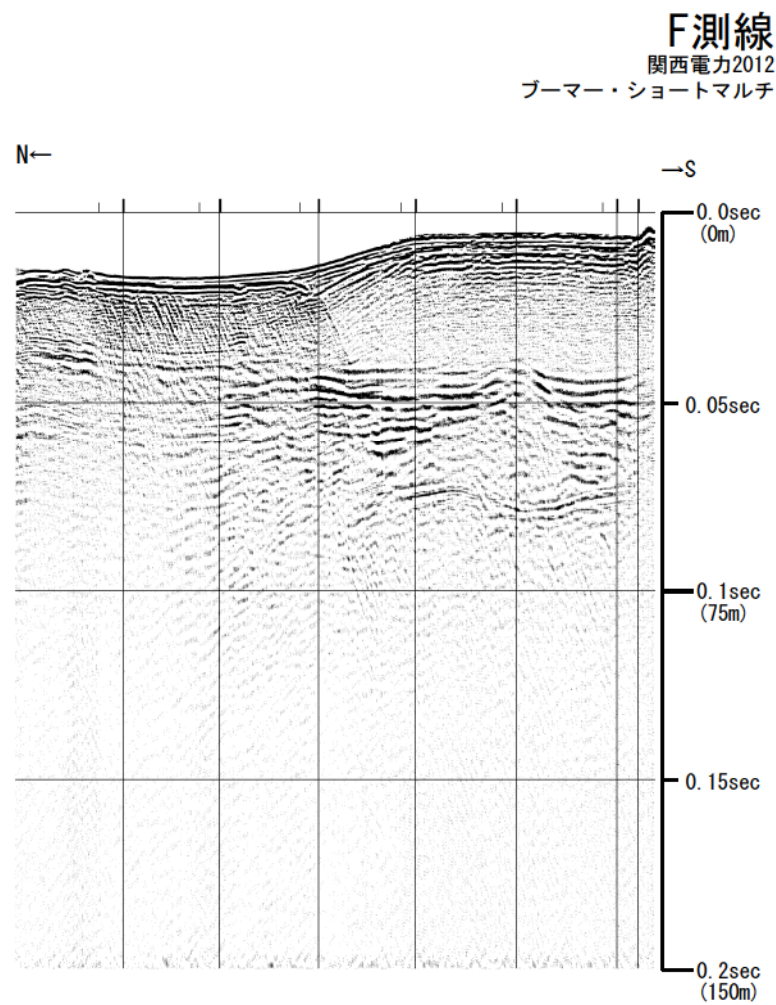


第1. 4. 50図(4) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (D測線)

E測線
関西電力2012
ブーマー・ショートマルチ

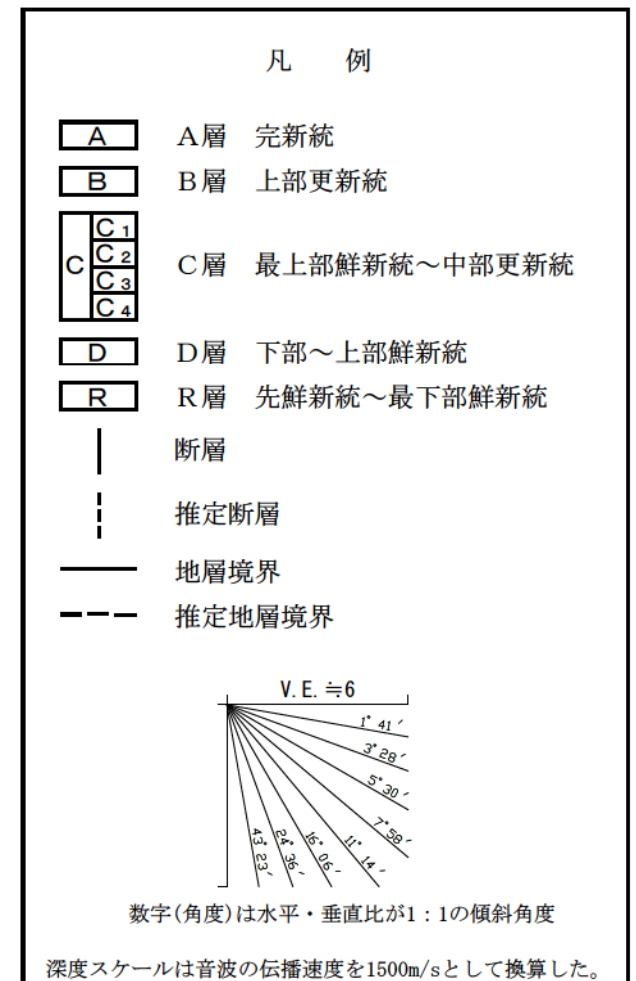
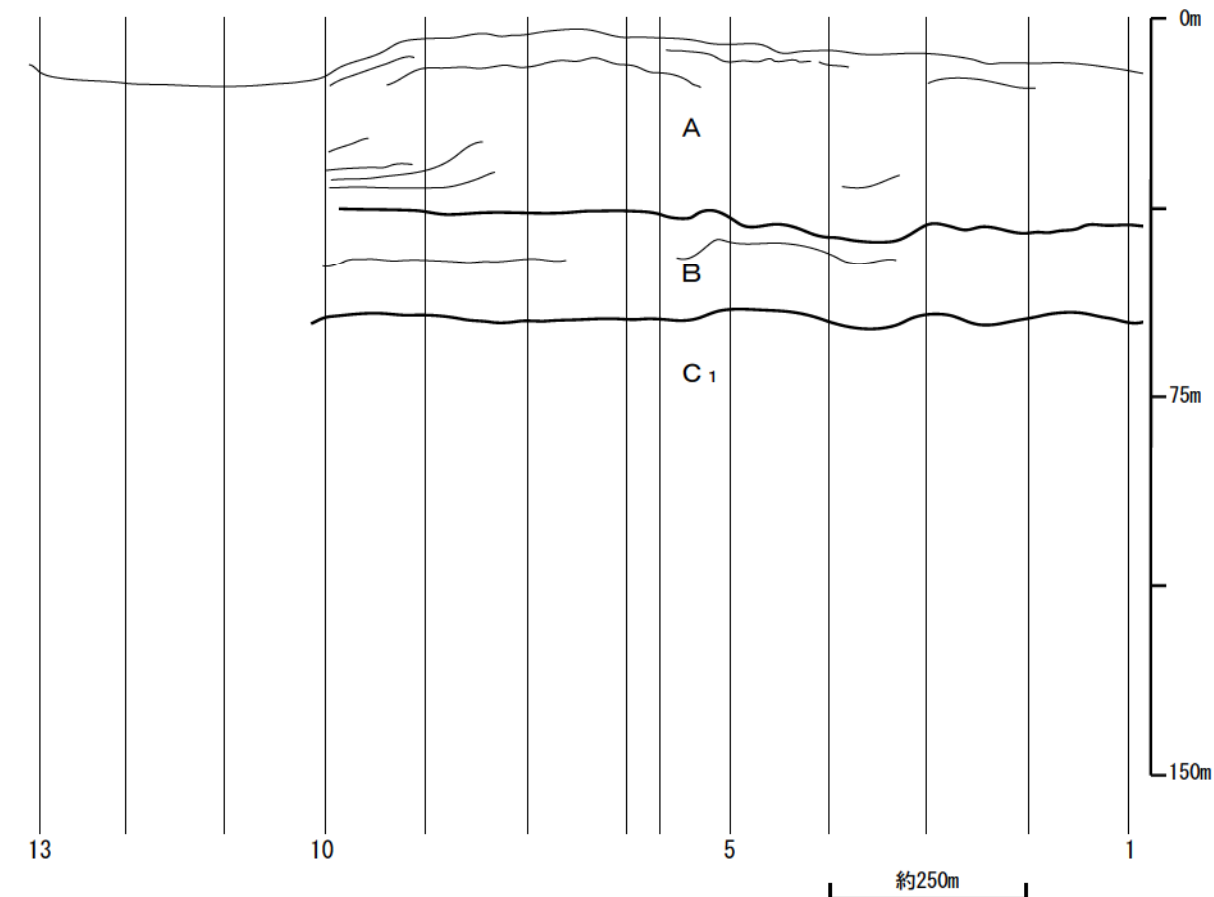
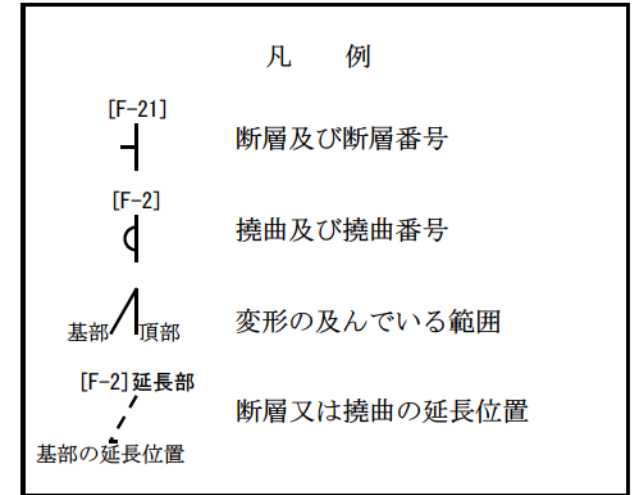
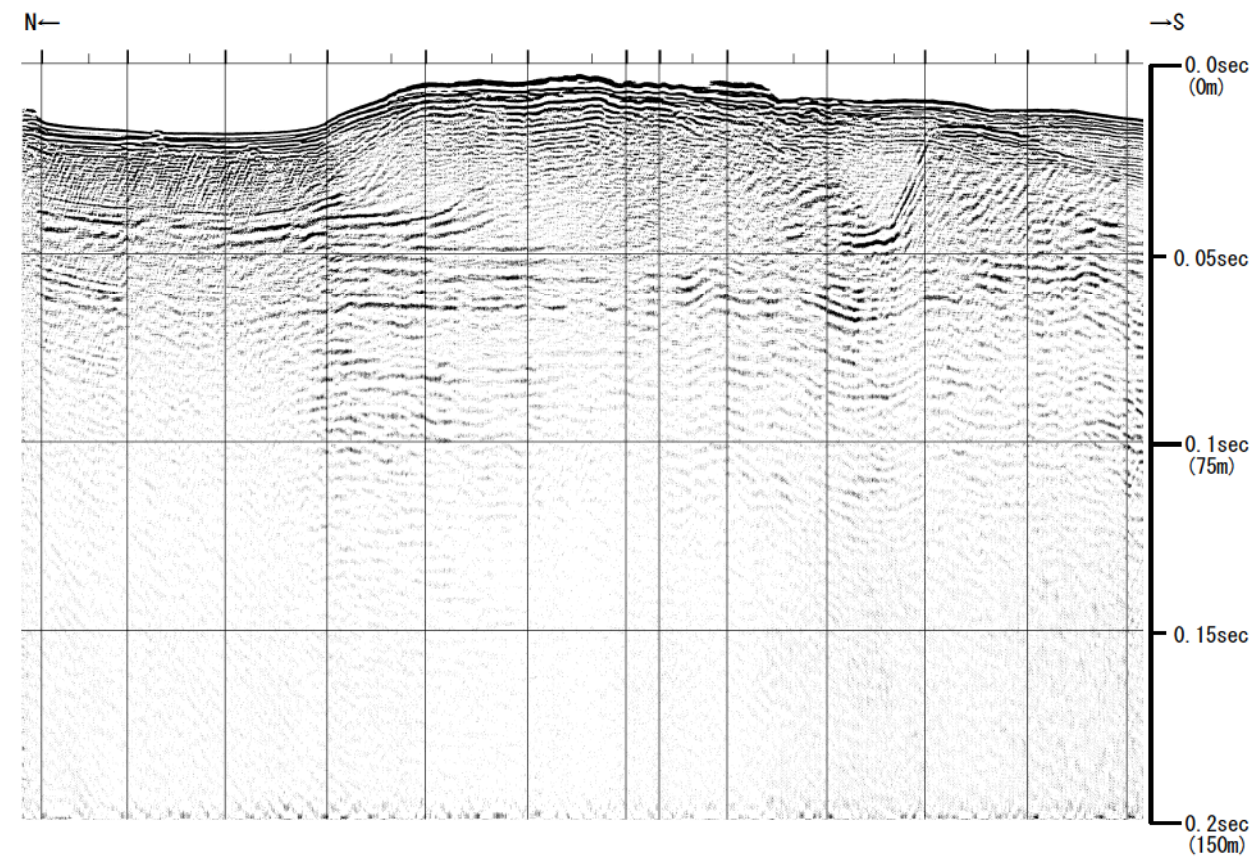


第1. 4. 50図(5) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (E測線)

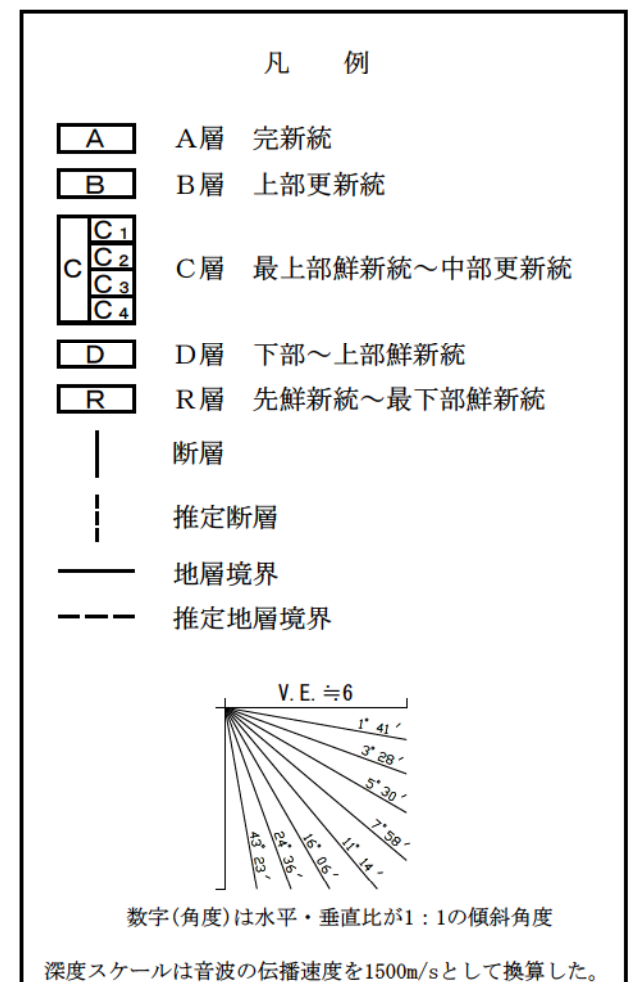
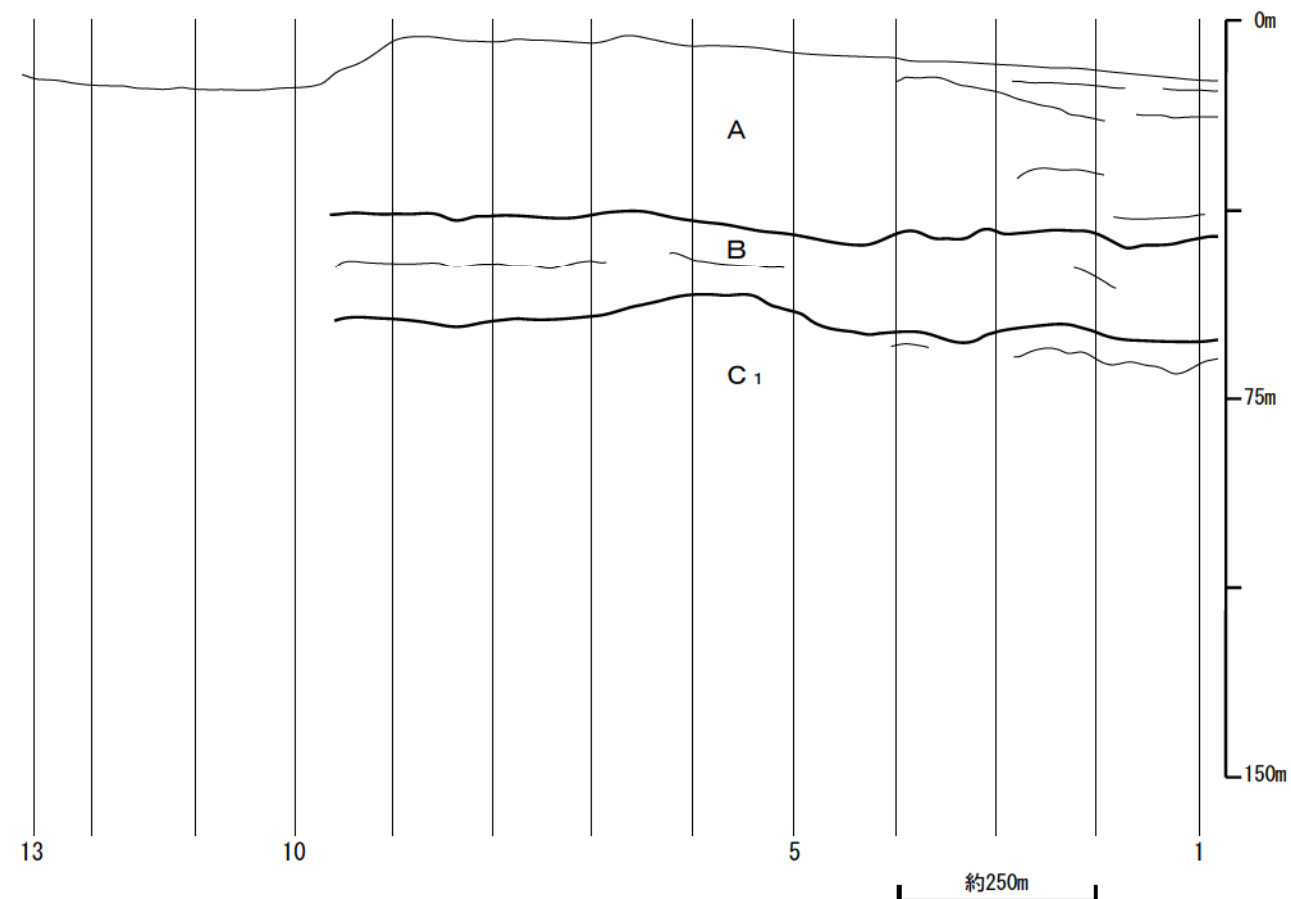
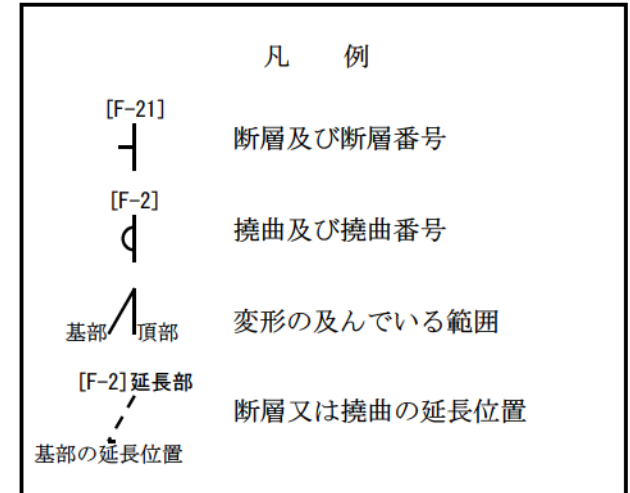
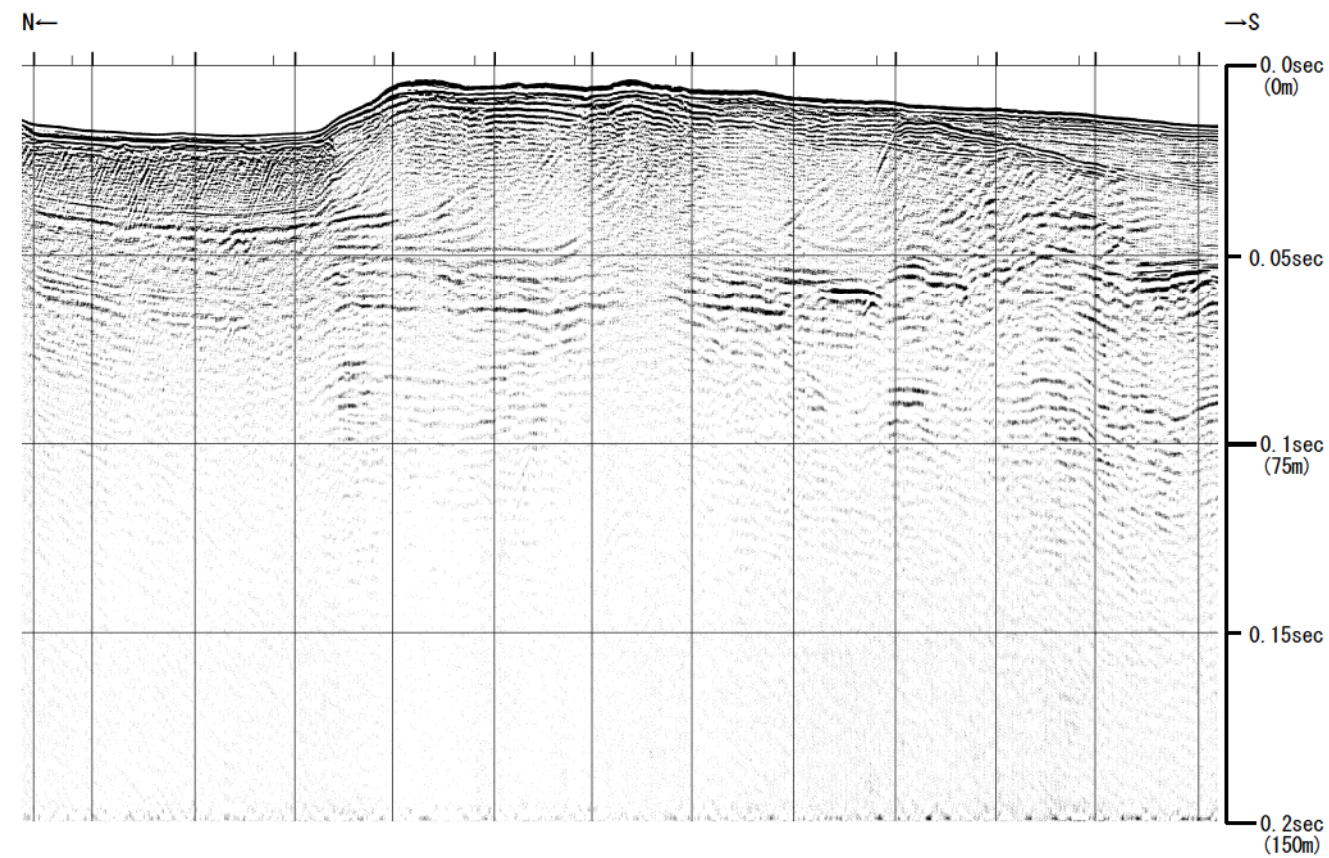


第1. 4. 50図(6) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (F測線)

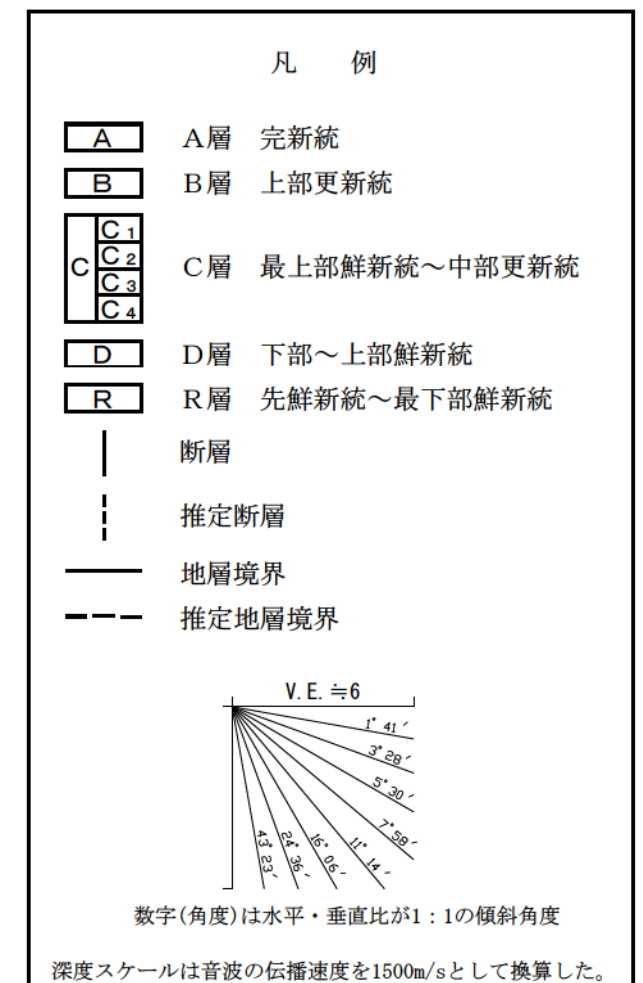
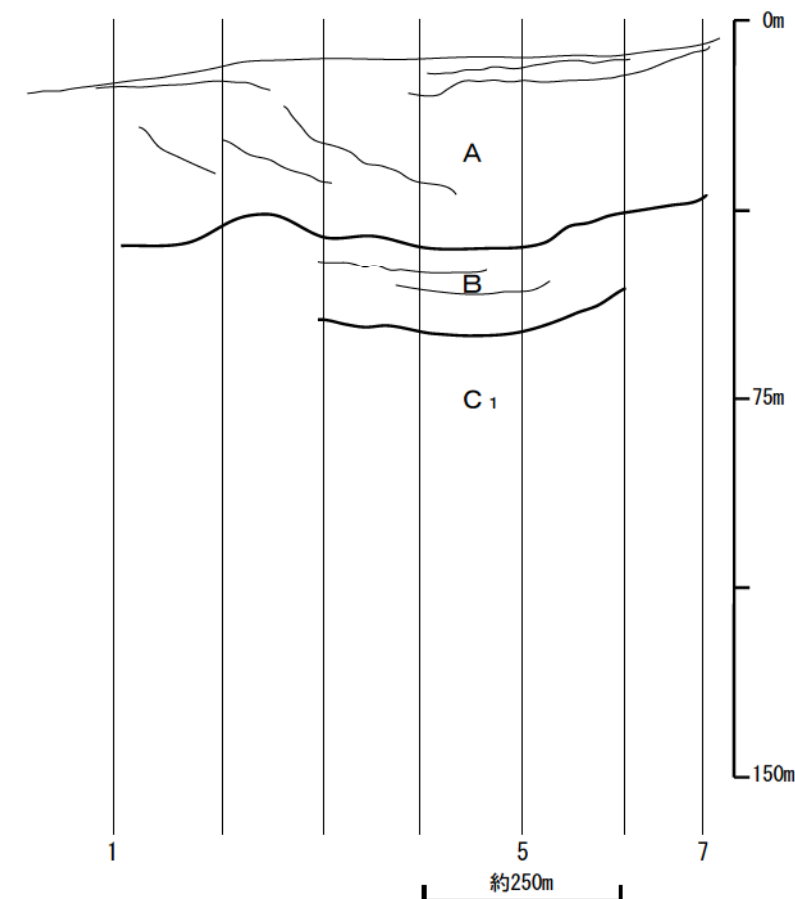
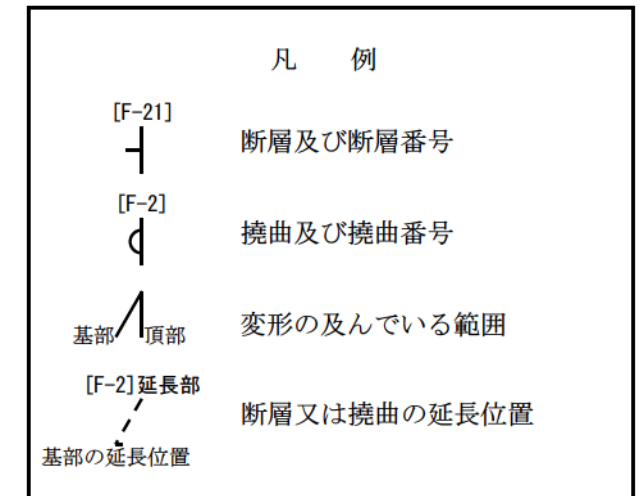
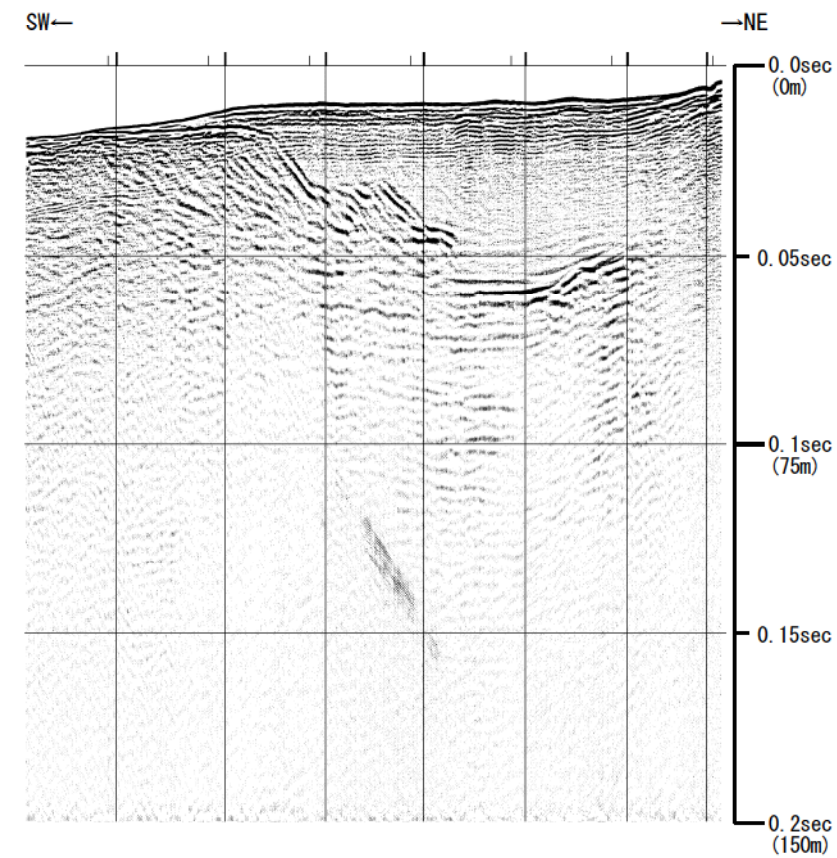
6-1-651



第1. 4. 50図(7) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (G測線)

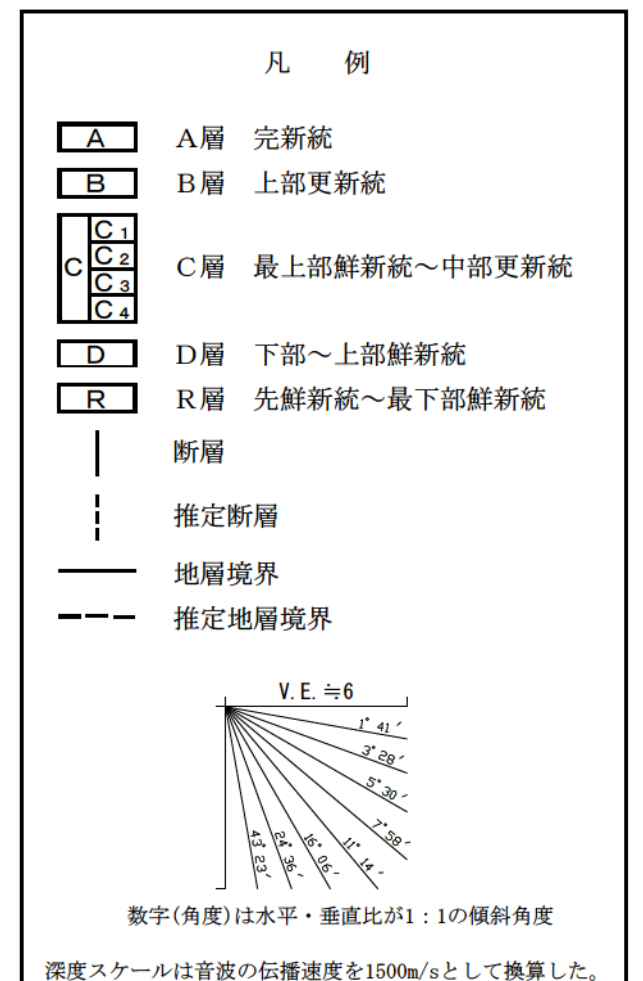
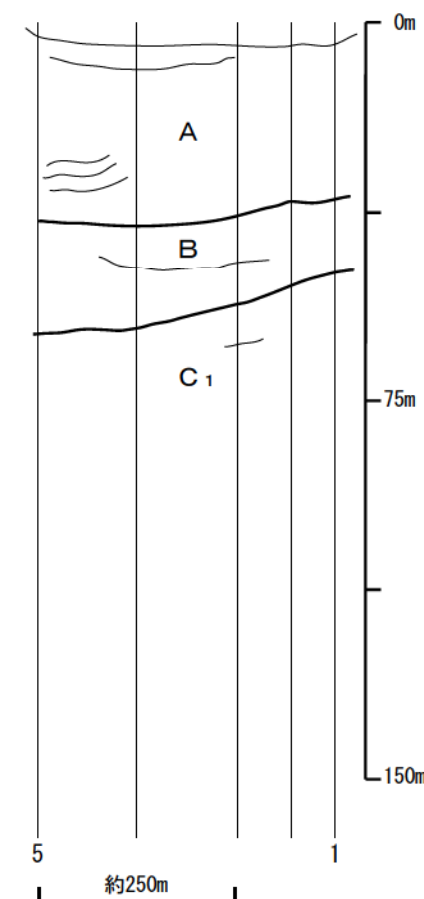
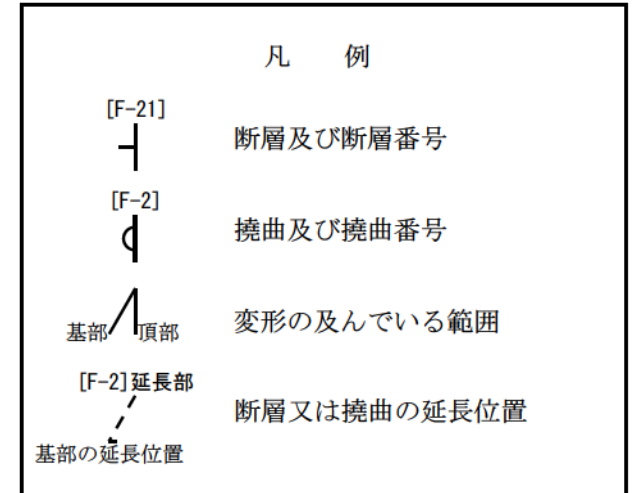
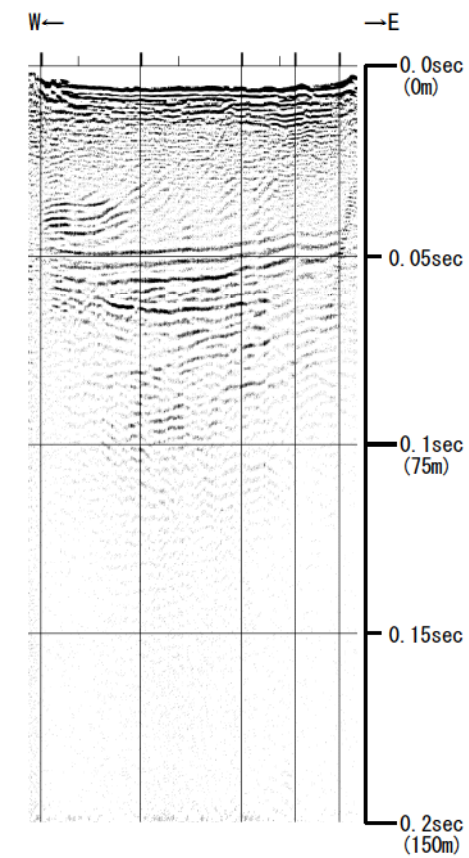


第1.4.50図(8) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (H測線)



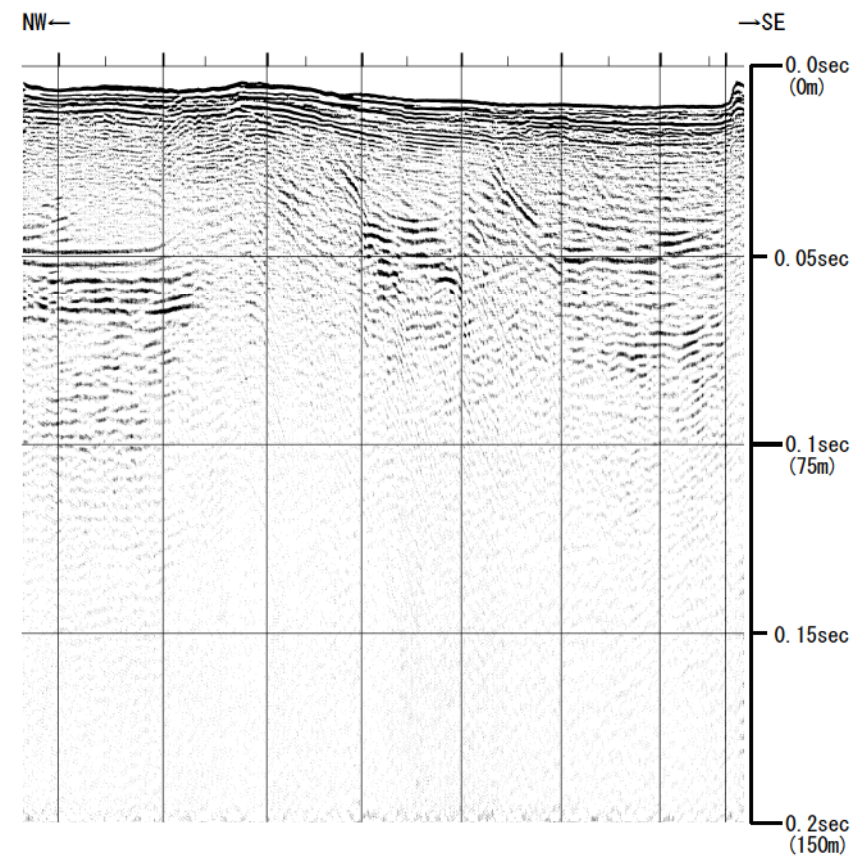
第1. 4. 50図(9) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (I測線)

J測線
 関西電力2012
 プーマー・ショートマルチ

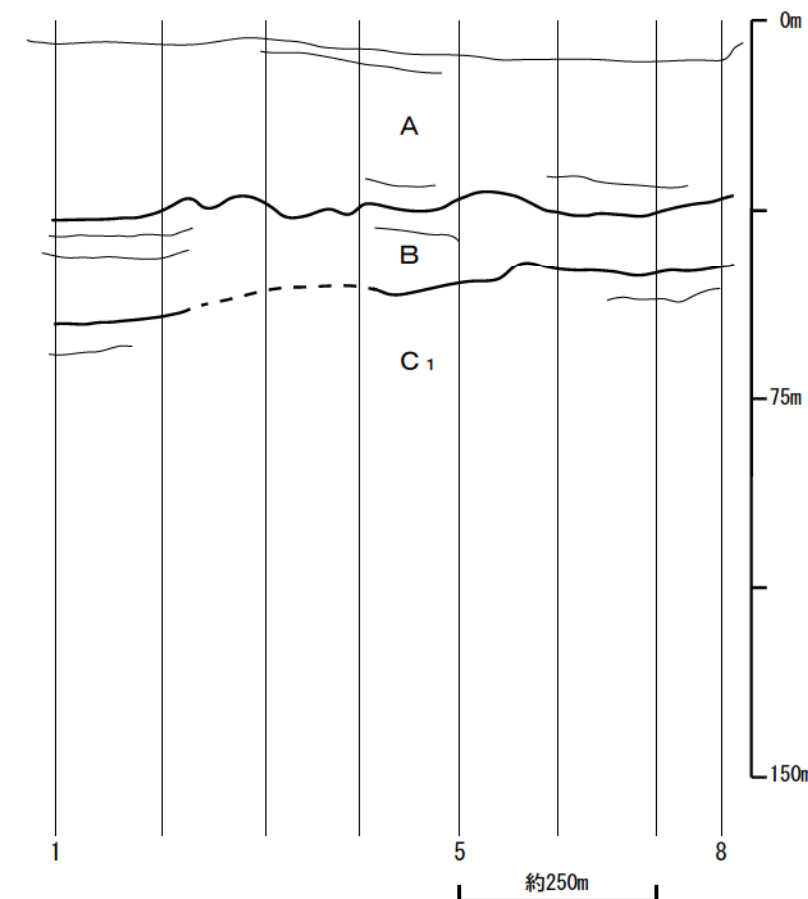


第1.4.50図(10) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (J測線)

K測線
関西電力2012
ブーマー・ショートマルチ



凡 例	
[F-21]	断層及び断層番号
[F-2]	撓曲及び撓曲番号
基部 頂部	変形の及んでいる範囲
[F-2]延長部 基部の延長位置	断層又は撓曲の延長位置



凡 例	
A	A層 完新統
B	B層 上部更新統
C C ₁ C ₂ C ₃ C ₄	C層 最上部鮮新統～中部更新統
D	D層 下部～上部鮮新統
R	R層 先鮮新統～最下部鮮新統
— —	断層
- - -	推定断層
— —	地層境界
- - -	推定地層境界

V. E. ≒ 6

1° 41' 30"

3° 28' 30"

5° 30' 00"

7° 58' 00"

11° 14' 00"

16° 06' 00"

22° 38' 00"

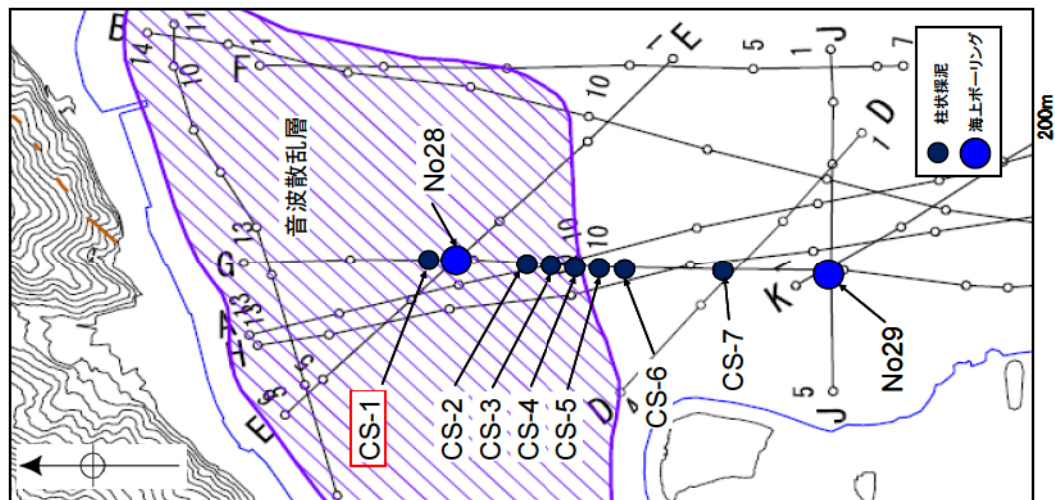
43° 00' 00"

数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度

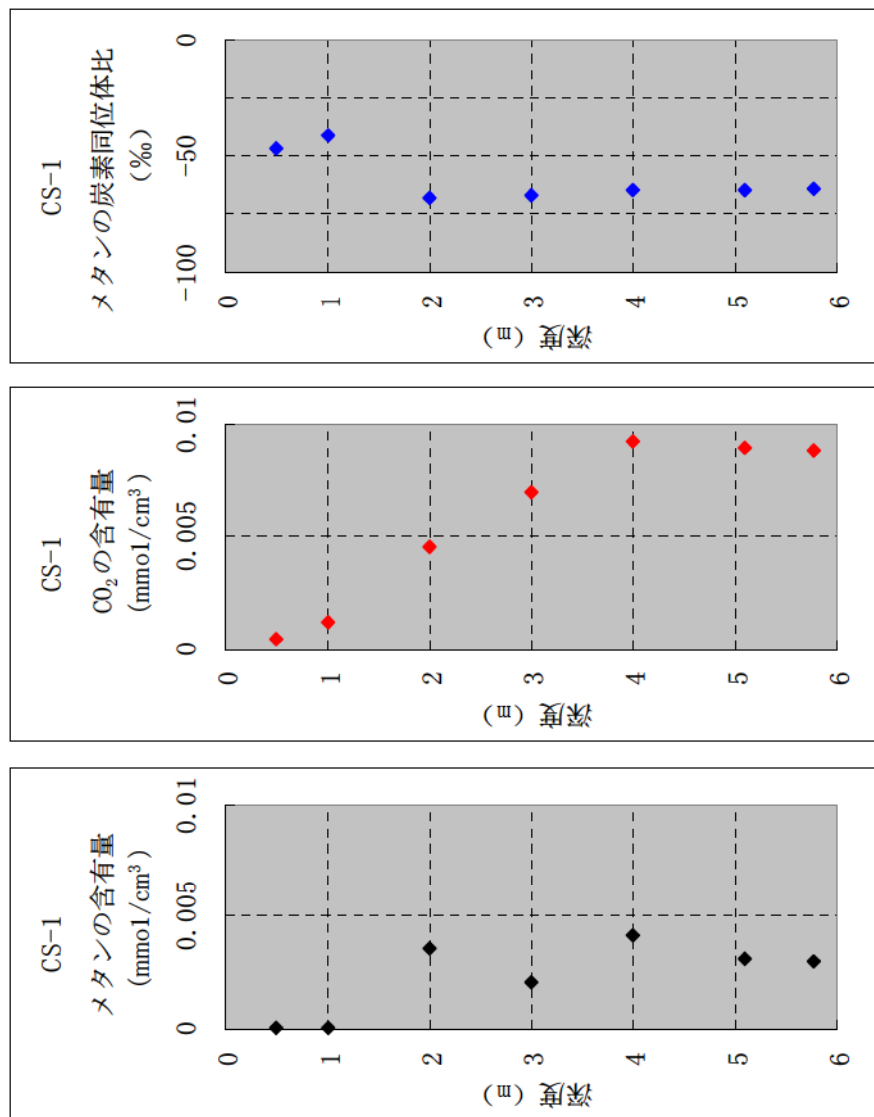
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1. 4. 50図(11) 丹生湾内の海上音波探査記録及び地質断面図 (K測線)

柱状採泥した試料のガス分析結果(CS-1、採取長さ5.85m)



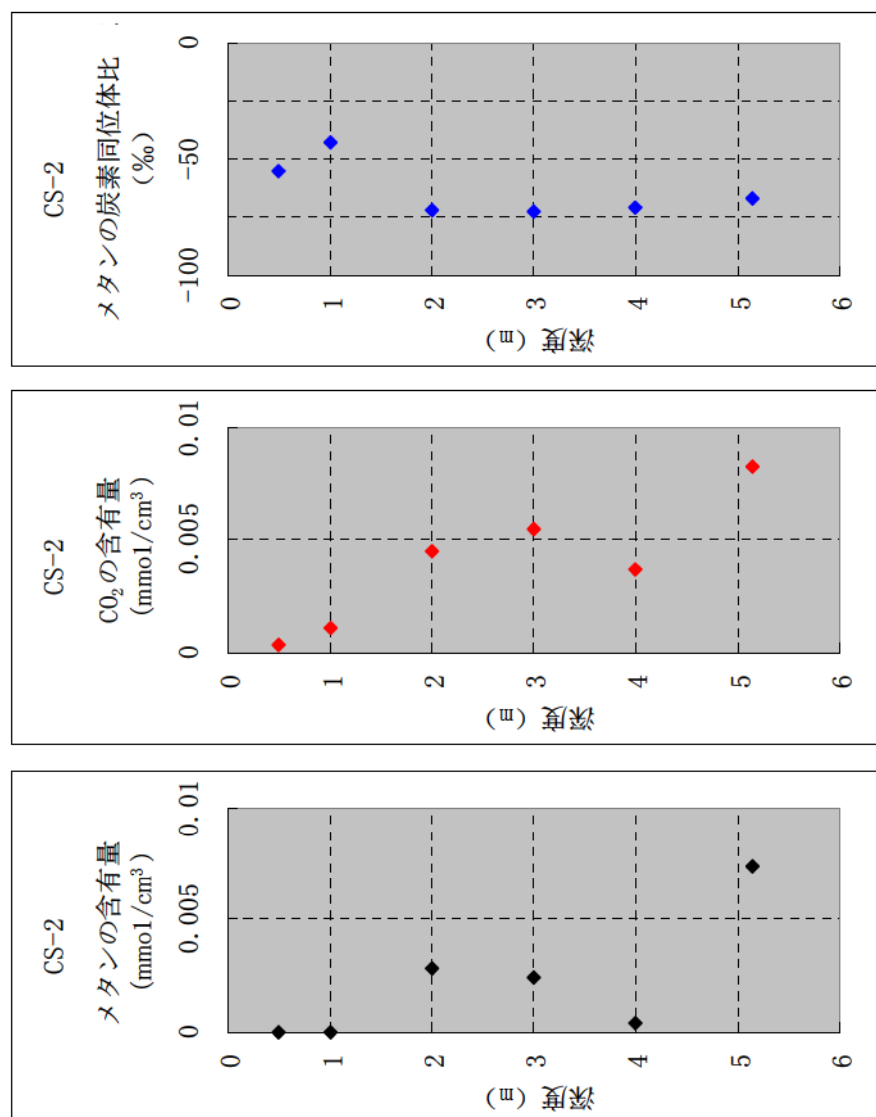
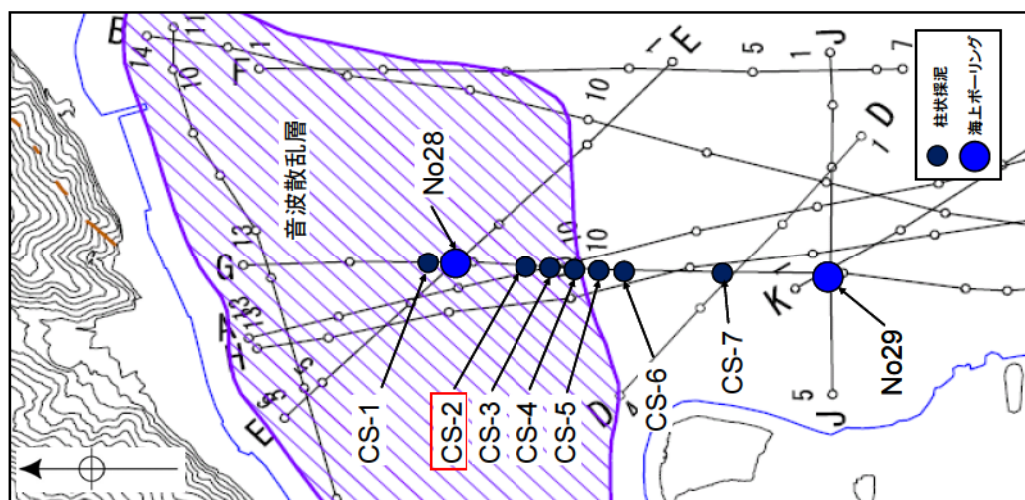
調査位置図



採取した深度範囲では、表層2mより深い箇所ではメタンガスを確認した。
CO₂含有量は深くなるにつれ増加している傾向が認められる。
表層2mより深い箇所では、メタンの炭素同位体比は-65‰前後と小さいため、
このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

第 1.4.51 図 (1) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (1)

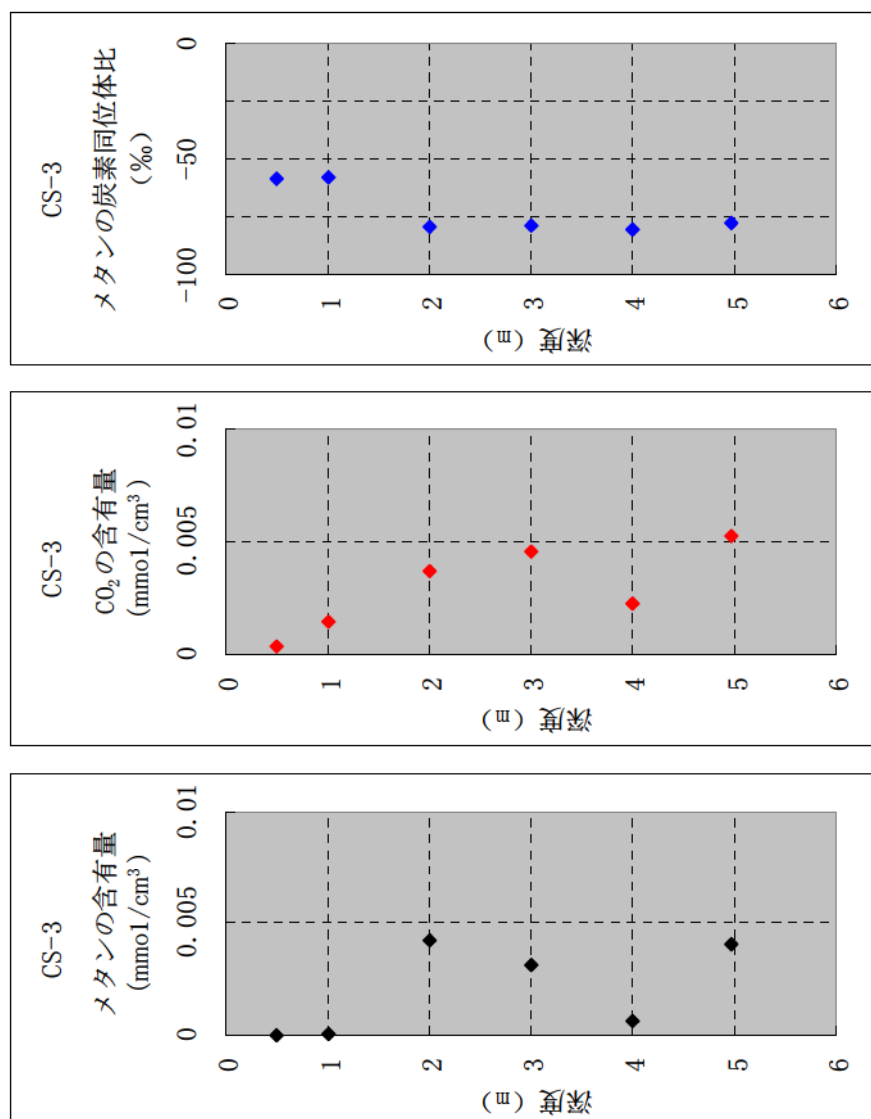
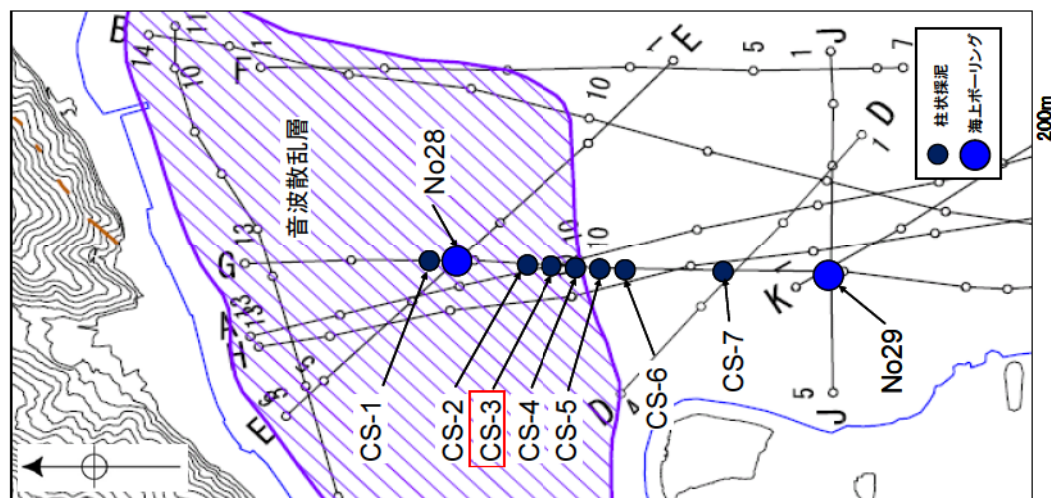
柱状採泥した試料のガス分析結果 (CS-2、採取長さ5.26m)



採取した深度範囲では、表層2mより深い箇所ではメタンガスを確認した。
CO₂含有量は深くなるにつれ増加している傾向が認められる。
表層2mより深い箇所では、メタンの炭素同位体比は-70‰前後と小さいため、
このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

第 1. 4. 51 図 (2) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (2)

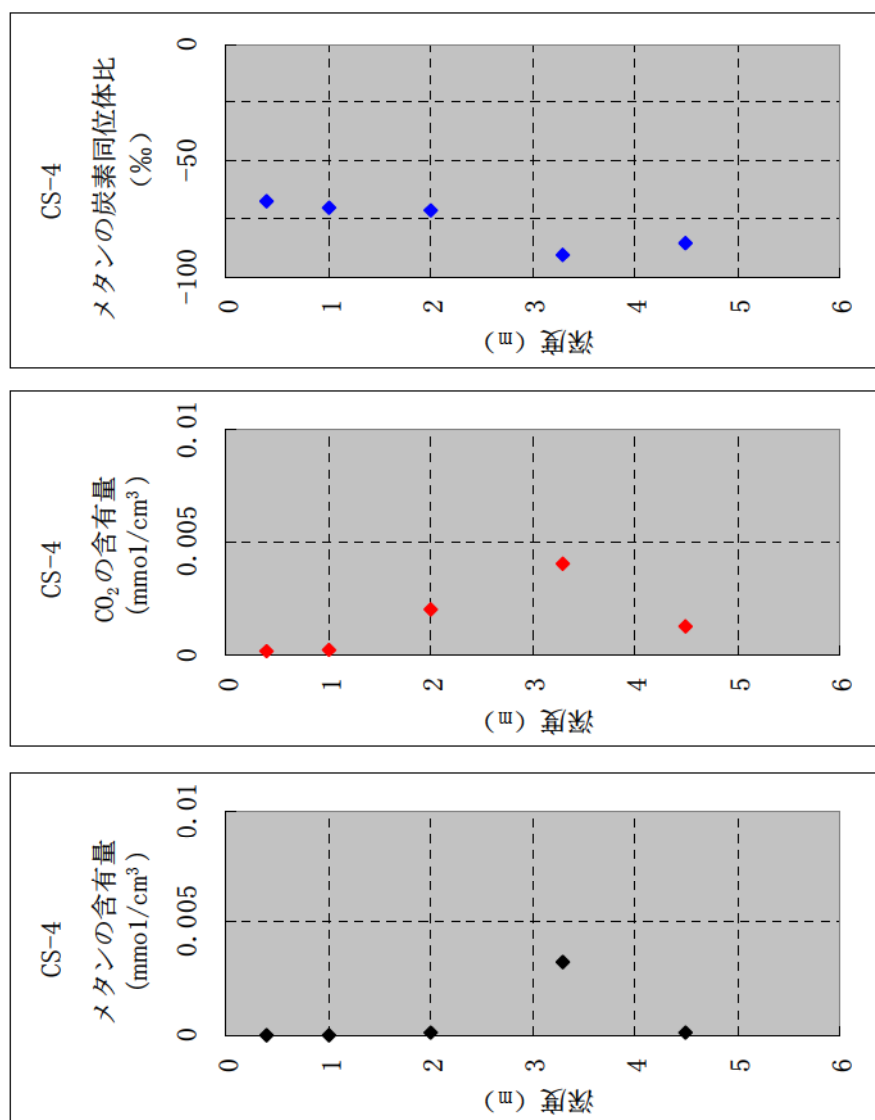
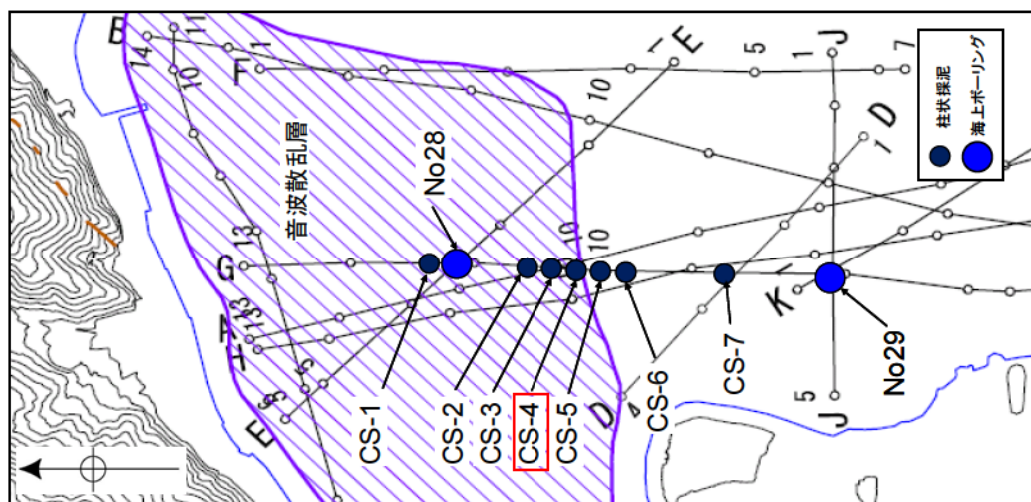
柱状採泥した試料のガス分析結果(CS-3、採取長さ5.15m)



採取した深度範囲では、表層2mより深い箇所ではメタンガスを確認した。
CO₂含有量は深くなるにつれ増加している傾向が認められる。
表層2mより深い箇所では、メタンの炭素同位体比は-75‰程度と小さいため、
このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

第 1.4.51 図 (3) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (3)

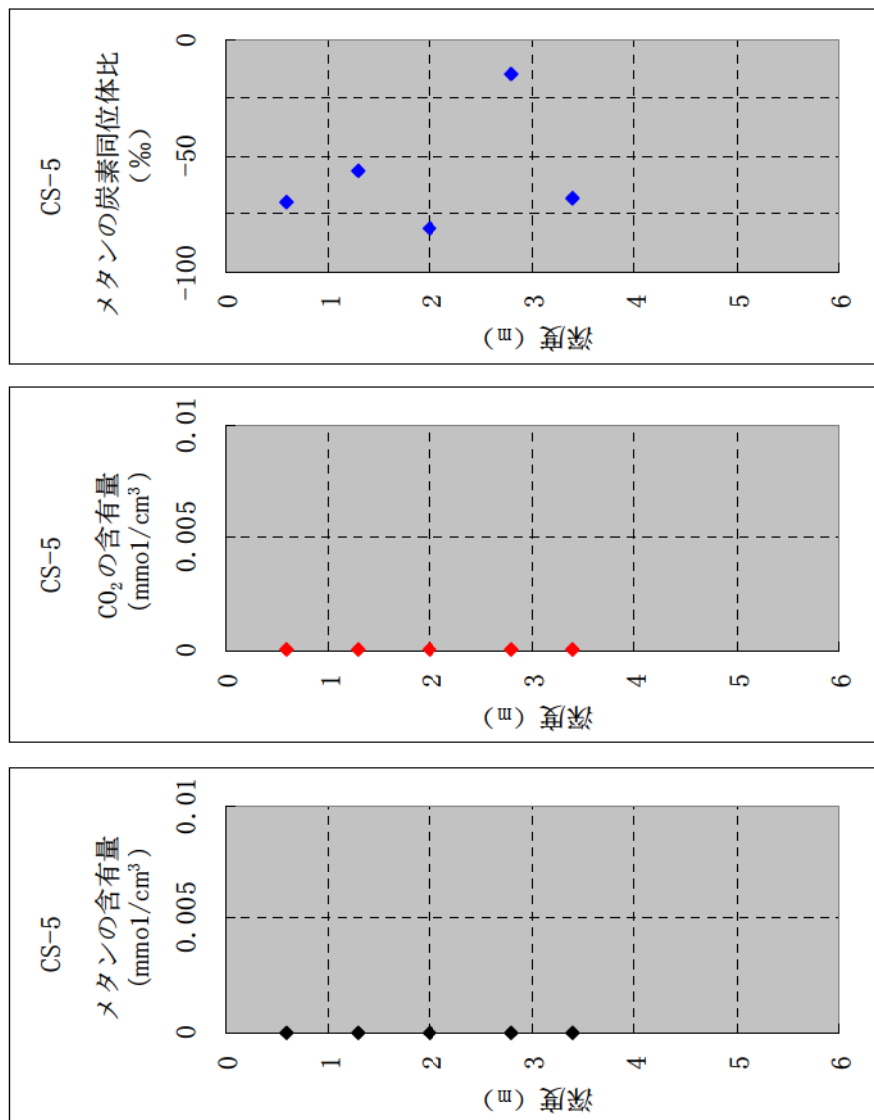
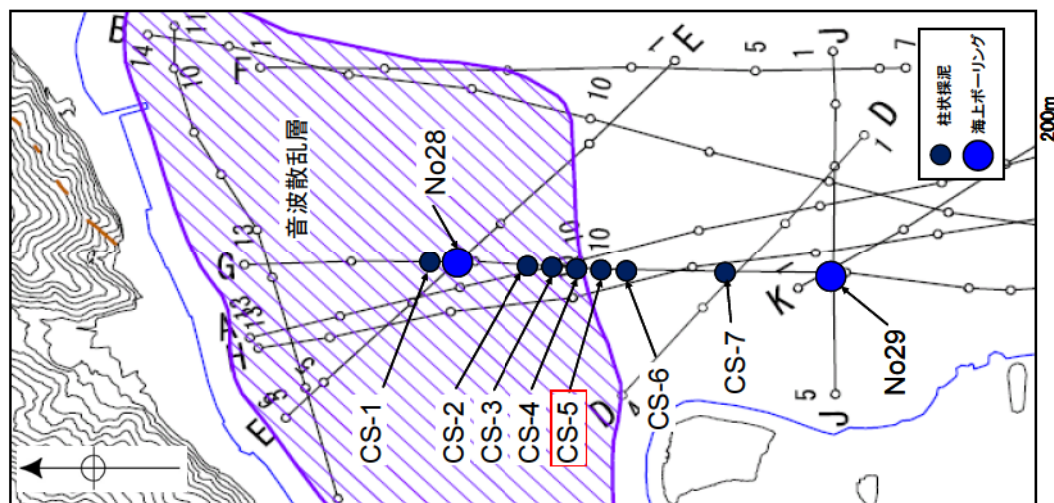
柱状採泥した試料のガス分析結果 (CS-4、採取長さ4.90m)



CS-4は音波散乱層境界付近にある採取した深度範囲では、シルト層内にはメタンガスを確認したが、砂層内ではほとんど確認できない。CO₂含有量は砂層内で減少している。表層2mより深い箇所では、メタンの炭素同位体比は-85‰前後と小さいため、このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

第 1.4.51 図 (4) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (4)

柱状採泥した試料のガス分析結果 (CS-5、採取長さ3.50m)

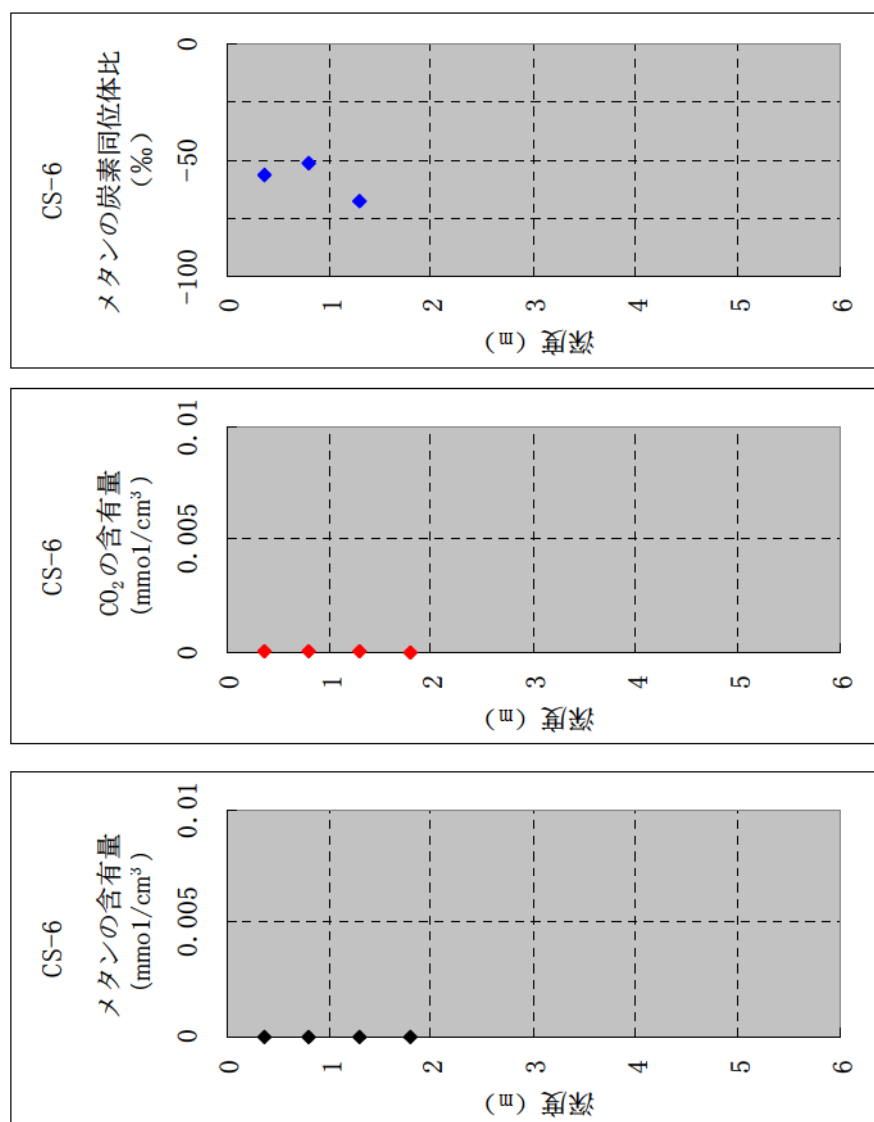
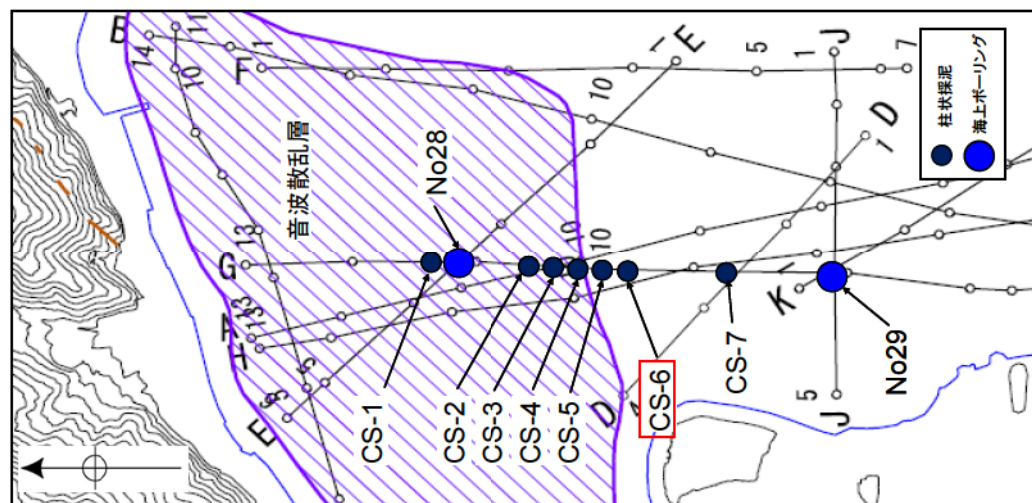


メタンガスおよびCO₂ともほとんど含まれていない。

調査位置図

第 1. 4. 51 図 (5) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (5)

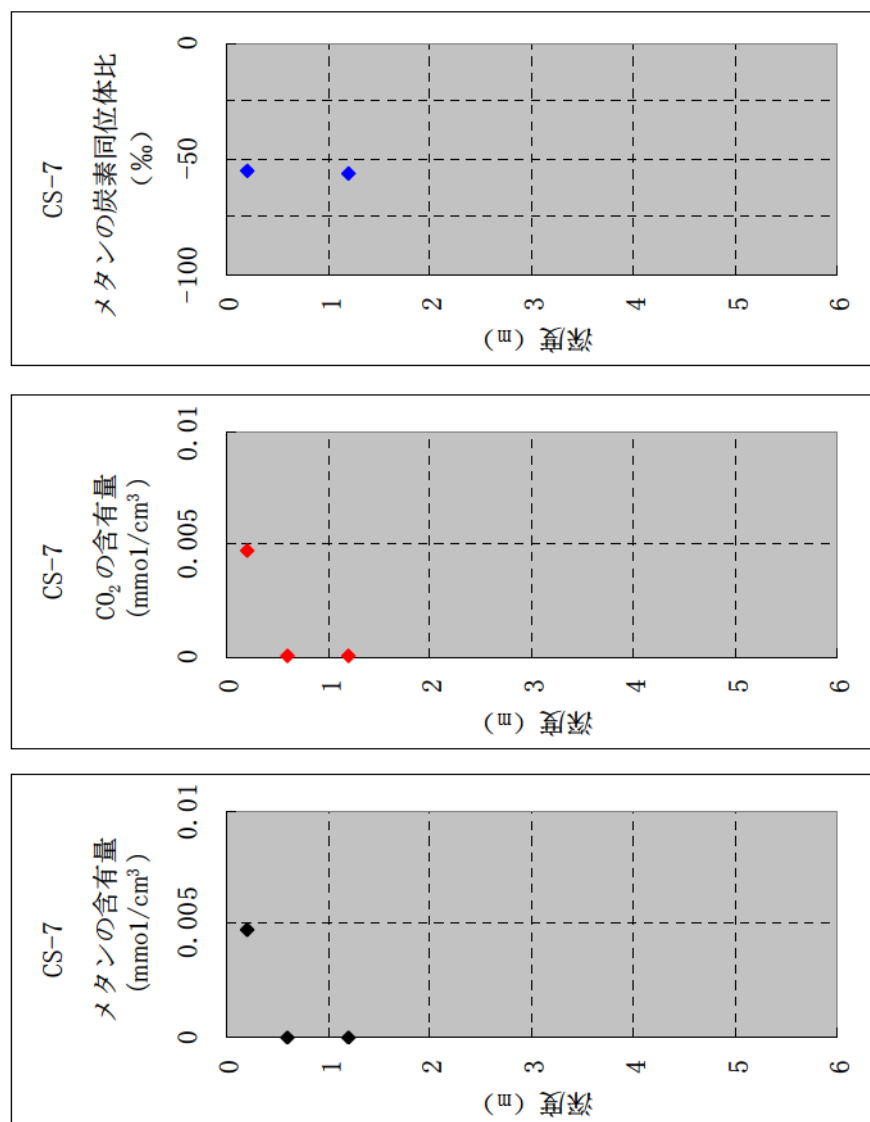
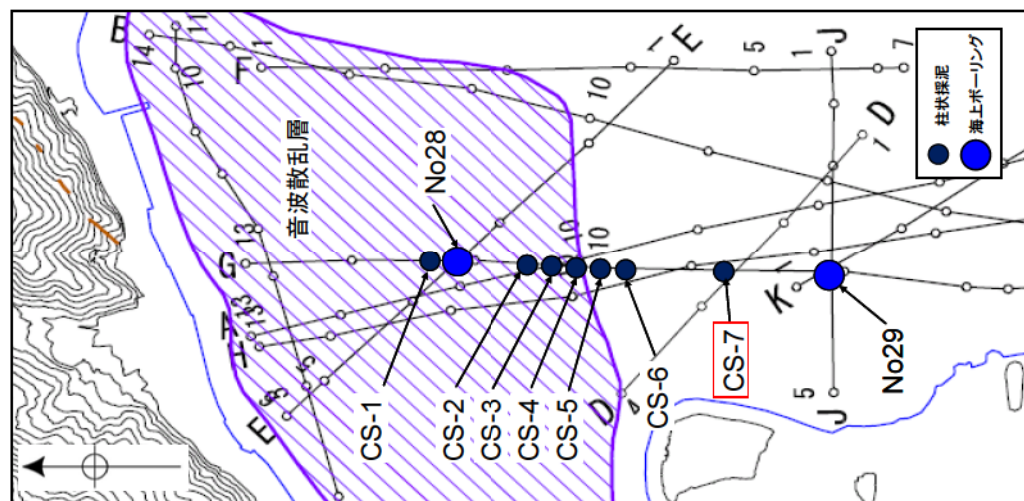
柱状採泥した試料のガス分析結果 (CS-6、採取長さ2.05m)



メタンガスおよびCO₂ともほとんど含まれていない。

第 1. 4. 51 図 (6) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (6)

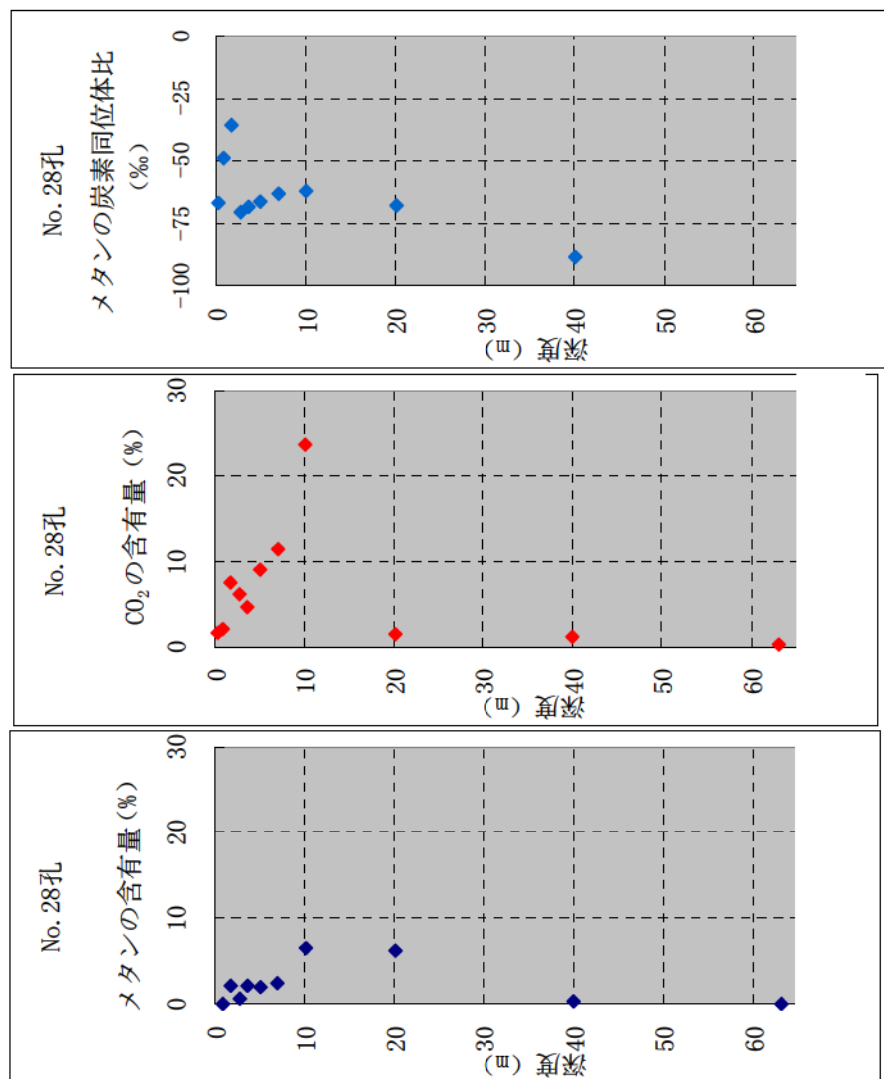
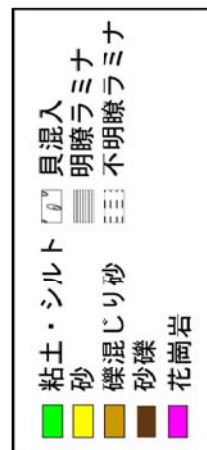
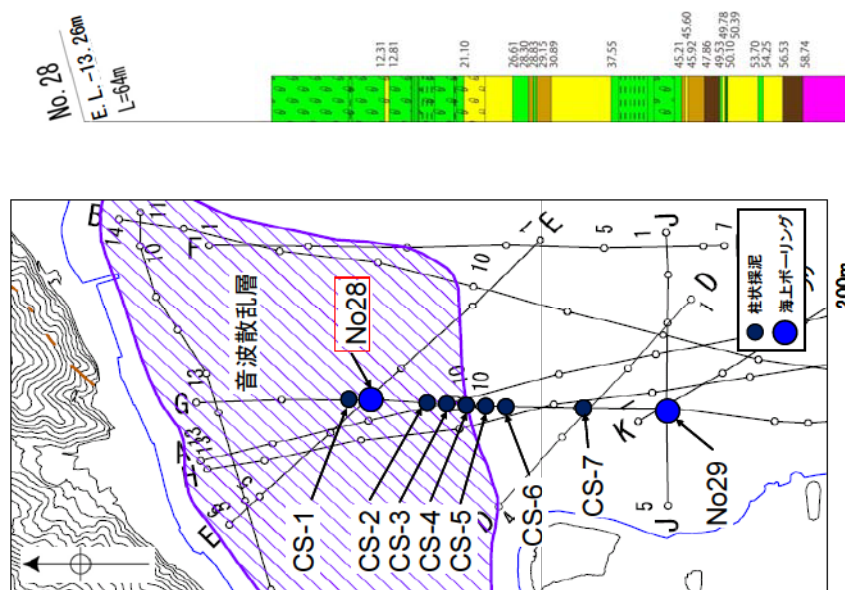
柱状採泥した試料のガス分析結果 (CS-7、採取長さ1.75m)



メタンガスおよびCO₂ともほとんど含まれていない。

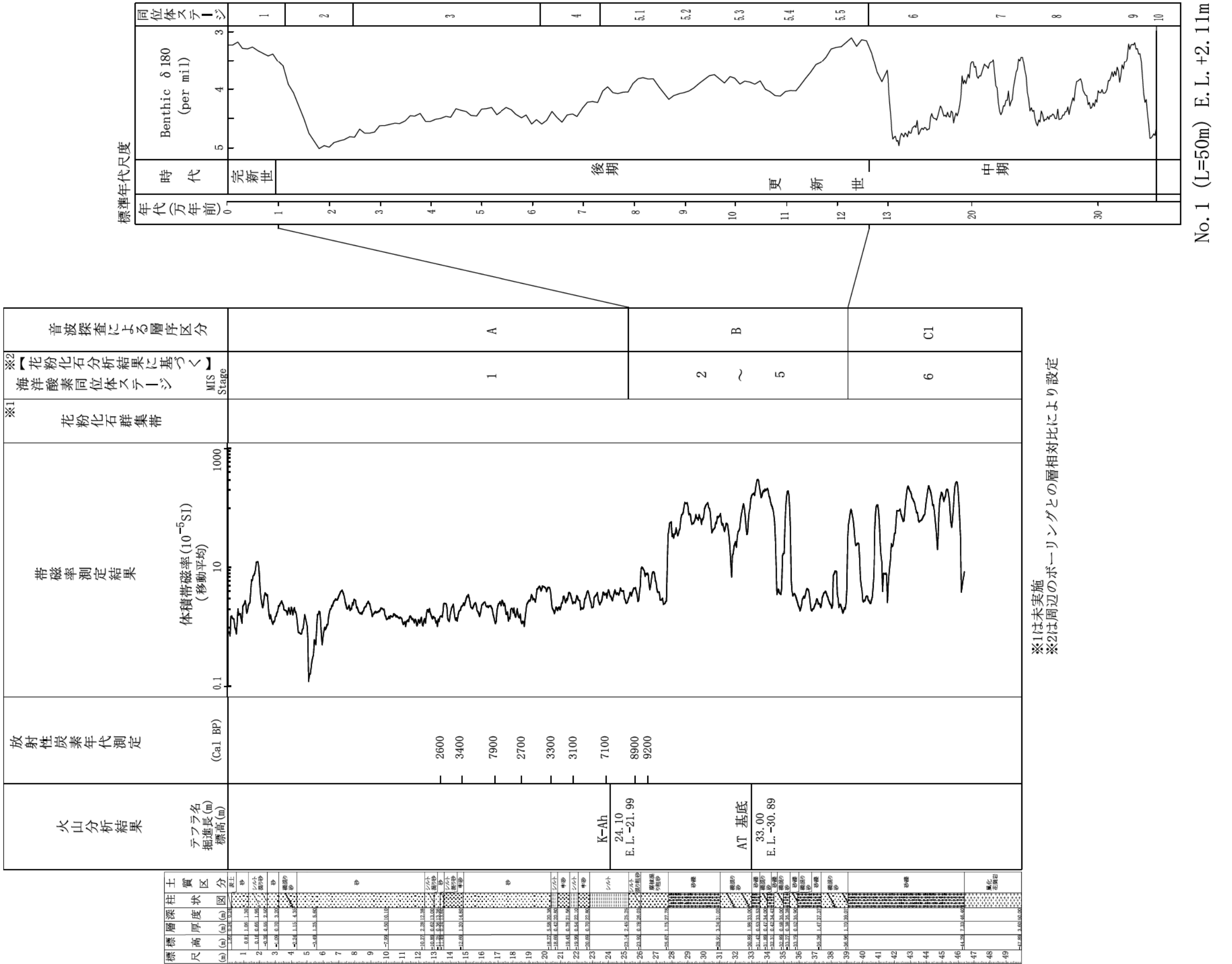
第 1.4.51 図 (7) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (7)

No.28ボーリングコア 採取試料のガス分析結果



メタンガスについては掘進長20m程度まで含まれていることが認められた。40mおよび60mではほとんど含まれていない。
CO₂ガスについては、深さ10m程度にピーク(20数%)があり、20m～40mより深い箇所になるとほとんど含まれていない。
表層を除き、20mまでのメタンの炭素同位体比は-70‰前後と小さいため、このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。

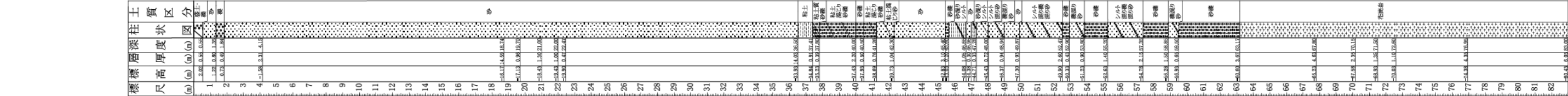
第 1. 4. 51 図 (8) 丹生湾内の柱状採泥のガス分析結果 (8)



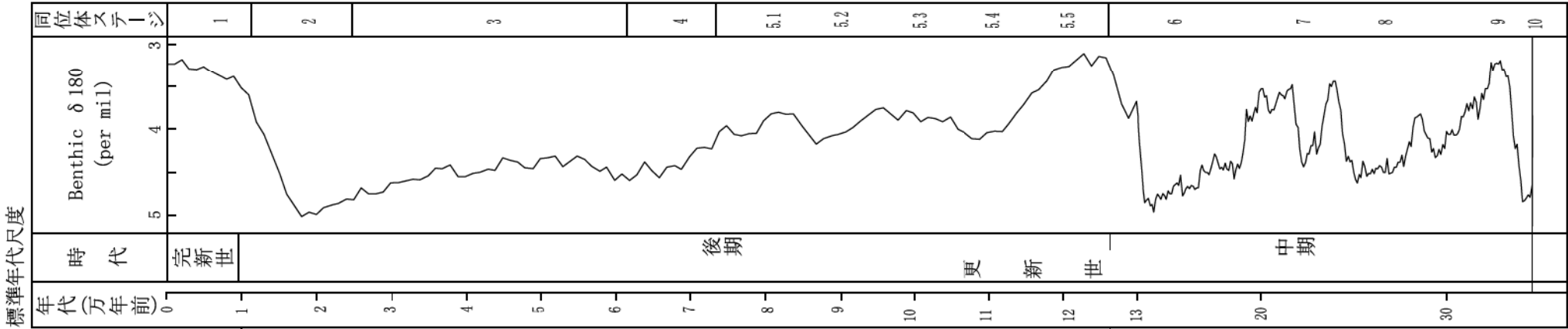
※1は未実施
※2は周辺のボーリングとの層相対比により設定

No.1 (L=50m) E. L. +2.11m

第1.4.52図(1) ボーリング調査結果 (No.1孔)

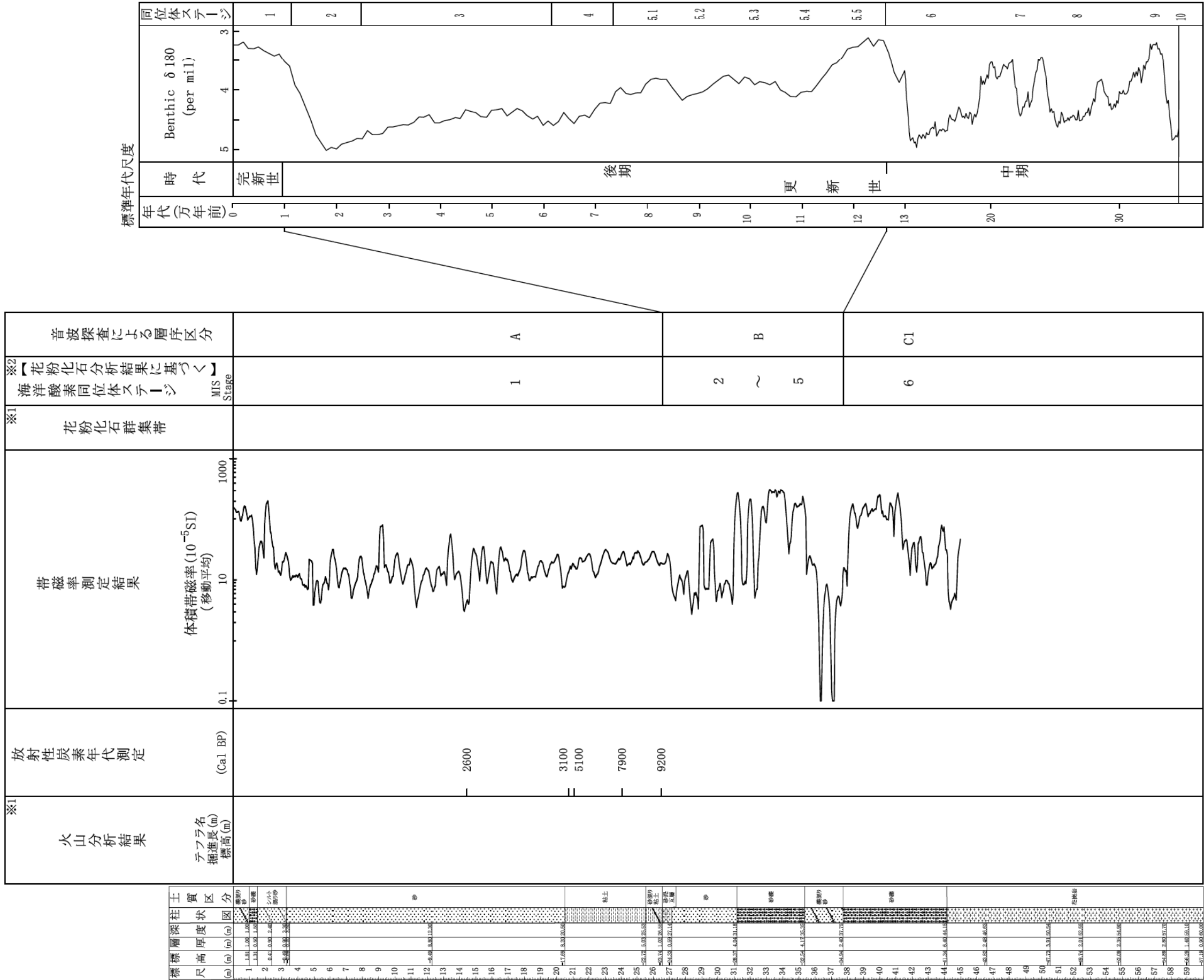


火山分析結果	放射性炭素年代測定 (Cal BP)	帯磁率測定結果 体積帯磁率(10 ⁻⁵ SI) (移動平均)	花粉化石群集帯	【花粉化石分析結果に基づく】 海洋酸素同位体ステージ MIS Stage	音波探査による層序区分
テフラ名 掘進長(m) 標高(m)					
	7200		III-V	1	A
	7700				
AT 基底 44.80 E.L. -42.23	8500 10600 25700 31000 33000 31300		III-IV III-III	2 ~ 5	B
美浜基底 53.80 E.L. -51.23				6	C1



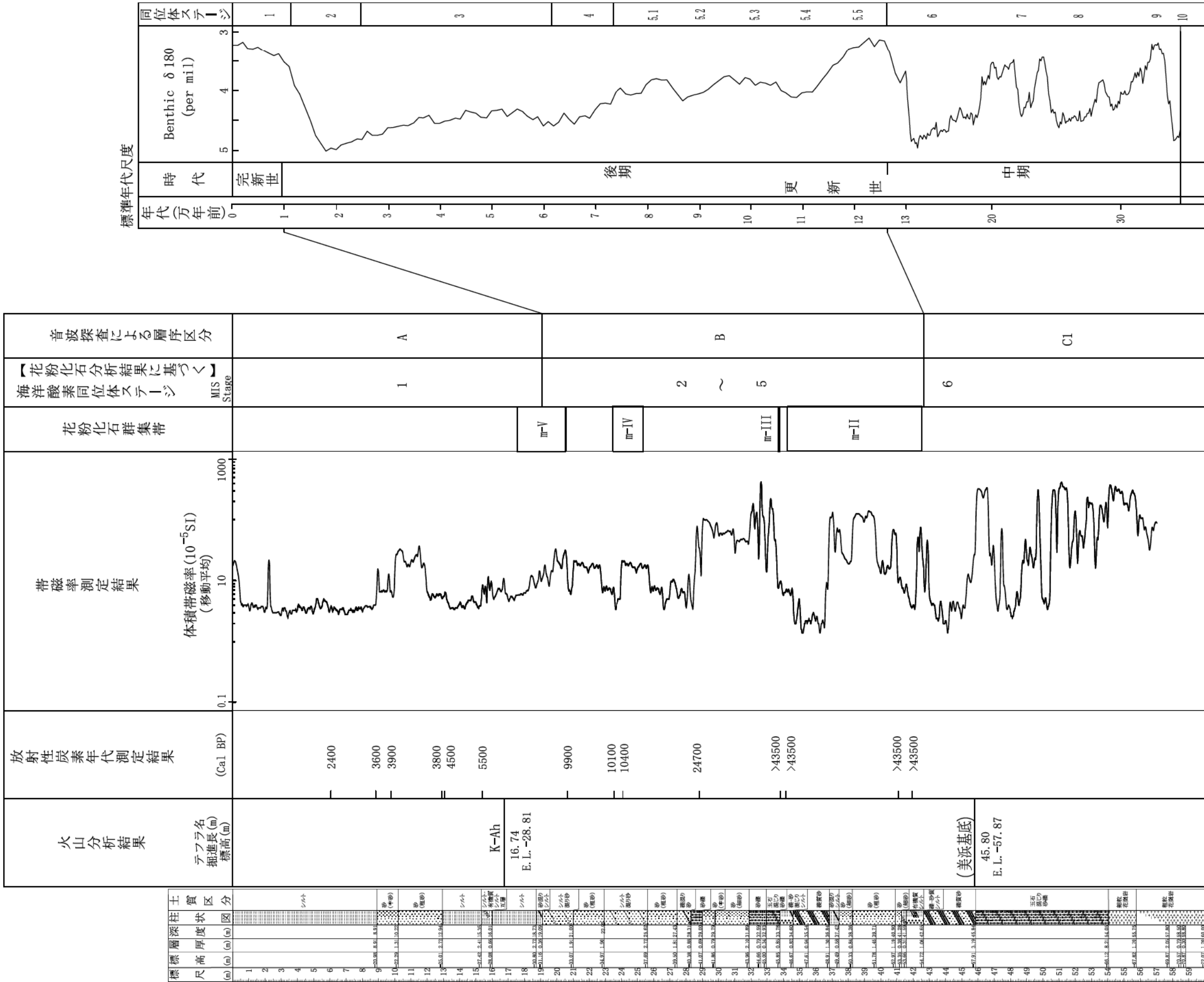
第1.4.52図(2) ボーリング調査結果 (No.2孔)

No.2 (L=83m) E.L. +2.57m



第1.4.52図(3) ボーリング調査結果 (No.3孔)

No.3 (L=60m) E.L. +2.81m

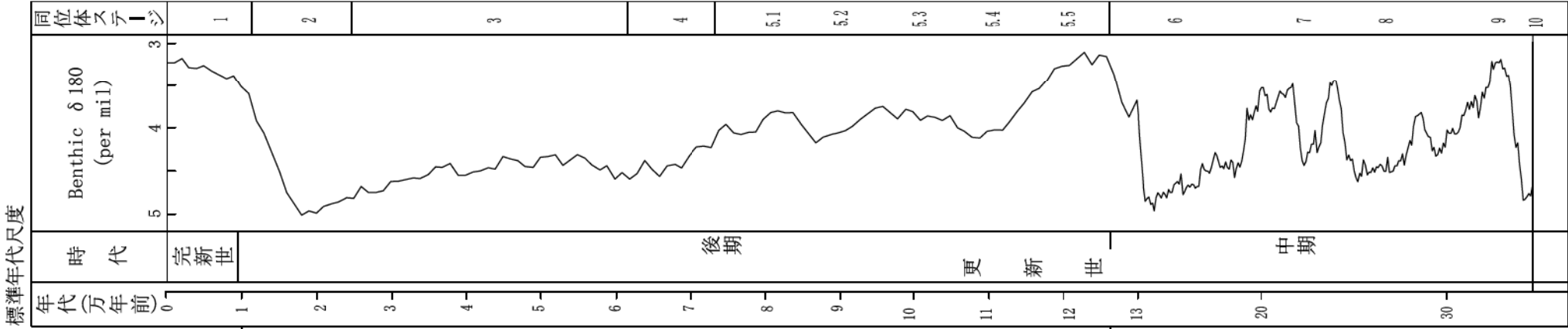


第1. 4. 52図(4) ボーリング調査結果 (No. 27孔)

No. 27 (L=60m) E. L. -12. 07m

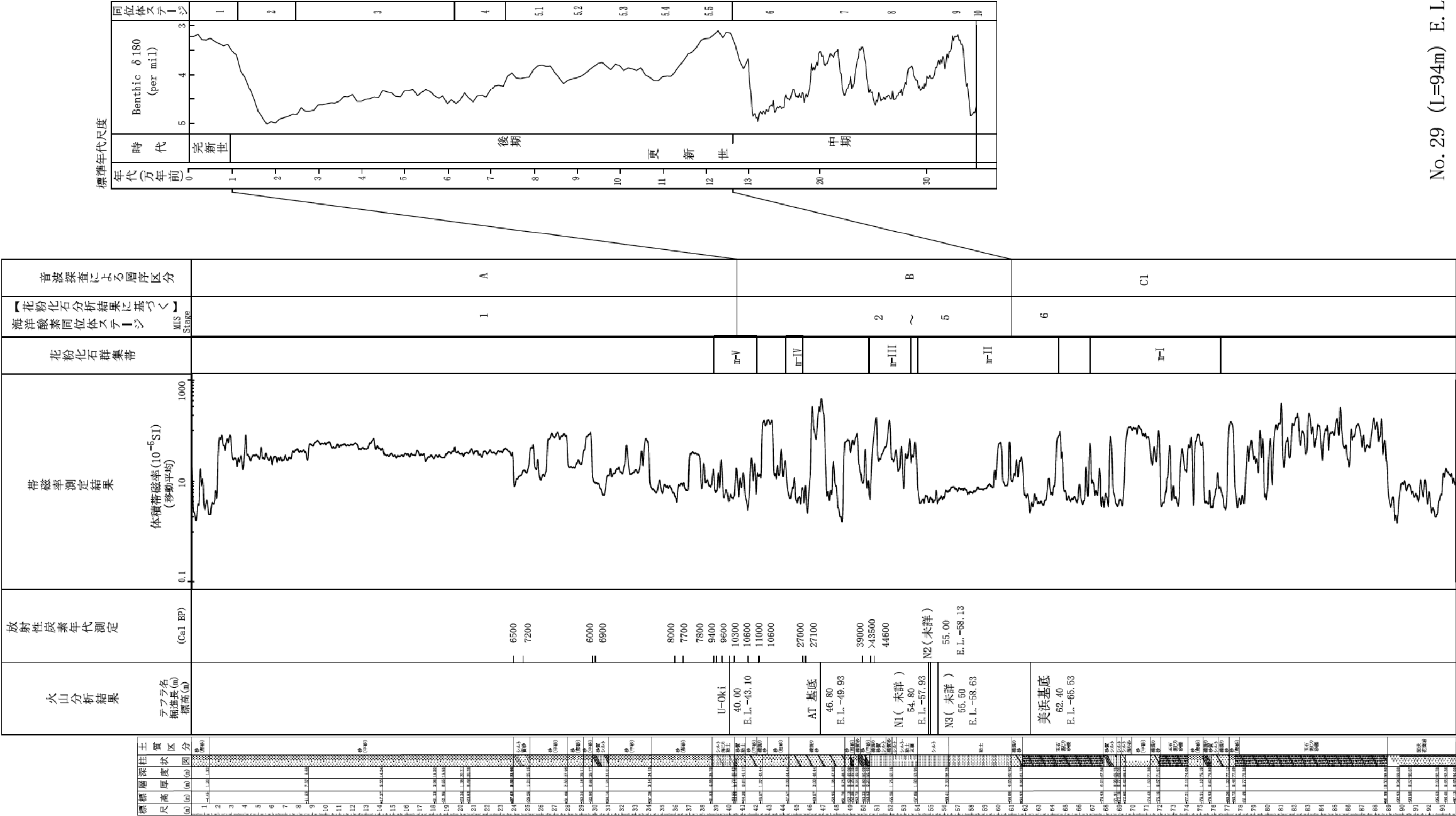
標高 (m)	尺 (m)	土質区分
1	1	シルト
2	2	シルト
3	3	シルト
4	4	シルト
5	5	シルト
6	6	シルト
7	7	シルト
8	8	シルト
9	9	シルト
10	10	シルト
11	11	シルト
12	12	シルト
13	13	シルト
14	14	シルト
15	15	シルト
16	16	シルト
17	17	シルト
18	18	シルト
19	19	シルト
20	20	シルト
21	21	シルト
22	22	シルト
23	23	シルト
24	24	シルト
25	25	シルト
26	26	シルト
27	27	シルト
28	28	シルト
29	29	シルト
30	30	シルト
31	31	シルト
32	32	シルト
33	33	シルト
34	34	シルト
35	35	シルト
36	36	シルト
37	37	シルト
38	38	シルト
39	39	シルト
40	40	シルト
41	41	シルト
42	42	シルト
43	43	シルト
44	44	シルト
45	45	シルト
46	46	シルト
47	47	シルト
48	48	シルト
49	49	シルト
50	50	シルト
51	51	シルト
52	52	シルト
53	53	シルト
54	54	シルト
55	55	シルト
56	56	シルト
57	57	シルト
58	58	シルト
59	59	シルト
60	60	シルト
61	61	シルト
62	62	シルト
63	63	シルト

火山分析結果	放射性炭素年代測定	帯磁率測定結果	花粉化石群集帯	【花粉化石分析結果に基づく】 海洋酸素同位体ステージ	音波探査による層序区分
テフラ名 掘進長 (m) 標高 (m)	(Cal BP)	体積帯磁率 (10 ⁻⁵ SI) (移動平均)		MIS Stage	
	800 950 1600 1700 2900 4300 4500 4700 4500 5700 6700 7900 10300 10400 24000 26000 26800 26900 29300 (>43500) AT 基底 37.40 E.L. -50.66 N1 (未詳) 40.90 E.L. -54.16 N2 (未詳) 41.40 E.L. -54.66 美浜基底 49.30 E.L. -62.56	0.1 10 1000	m-V m-IV m-III m-II m-I	1 2 ~ 5 6	A B C1



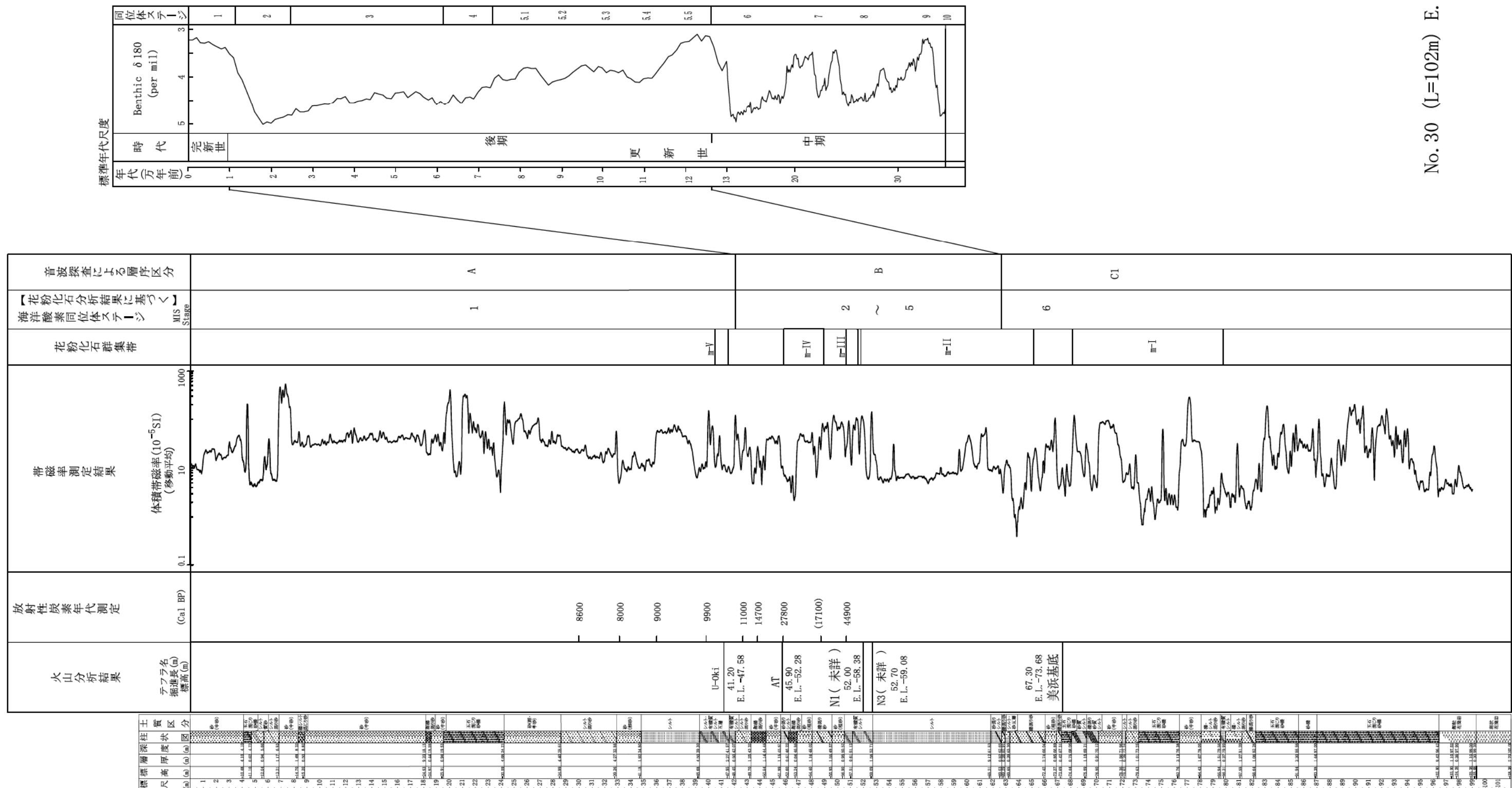
第1. 4. 52図(5) ボーリング調査結果 (No. 28孔)

No. 28 (L=64m) E. L. -13. 26m



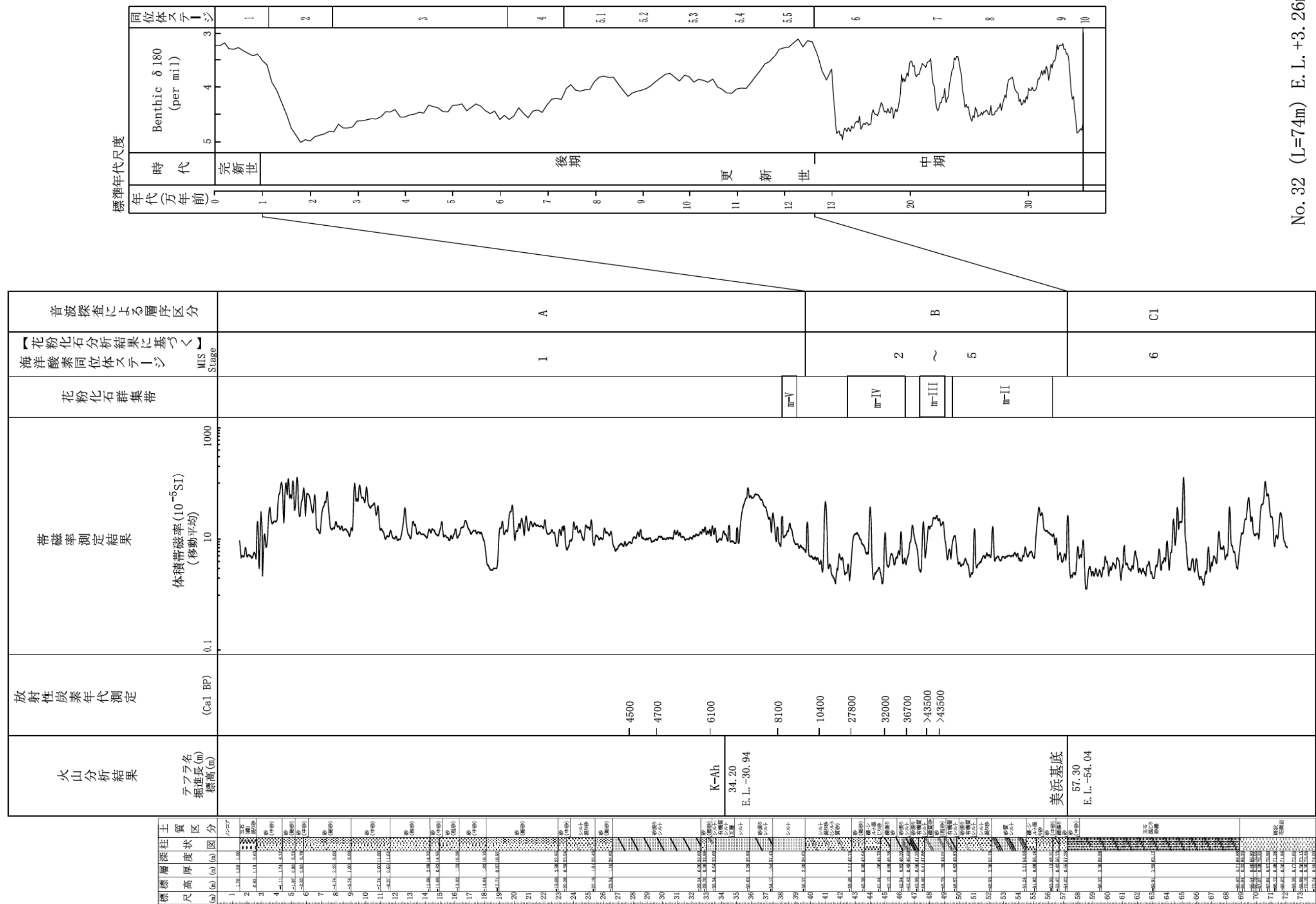
No. 29 (L=94m) E. L. -3.13m

第1. 4. 52図(6) ボーリング調査結果 (No. 29孔)

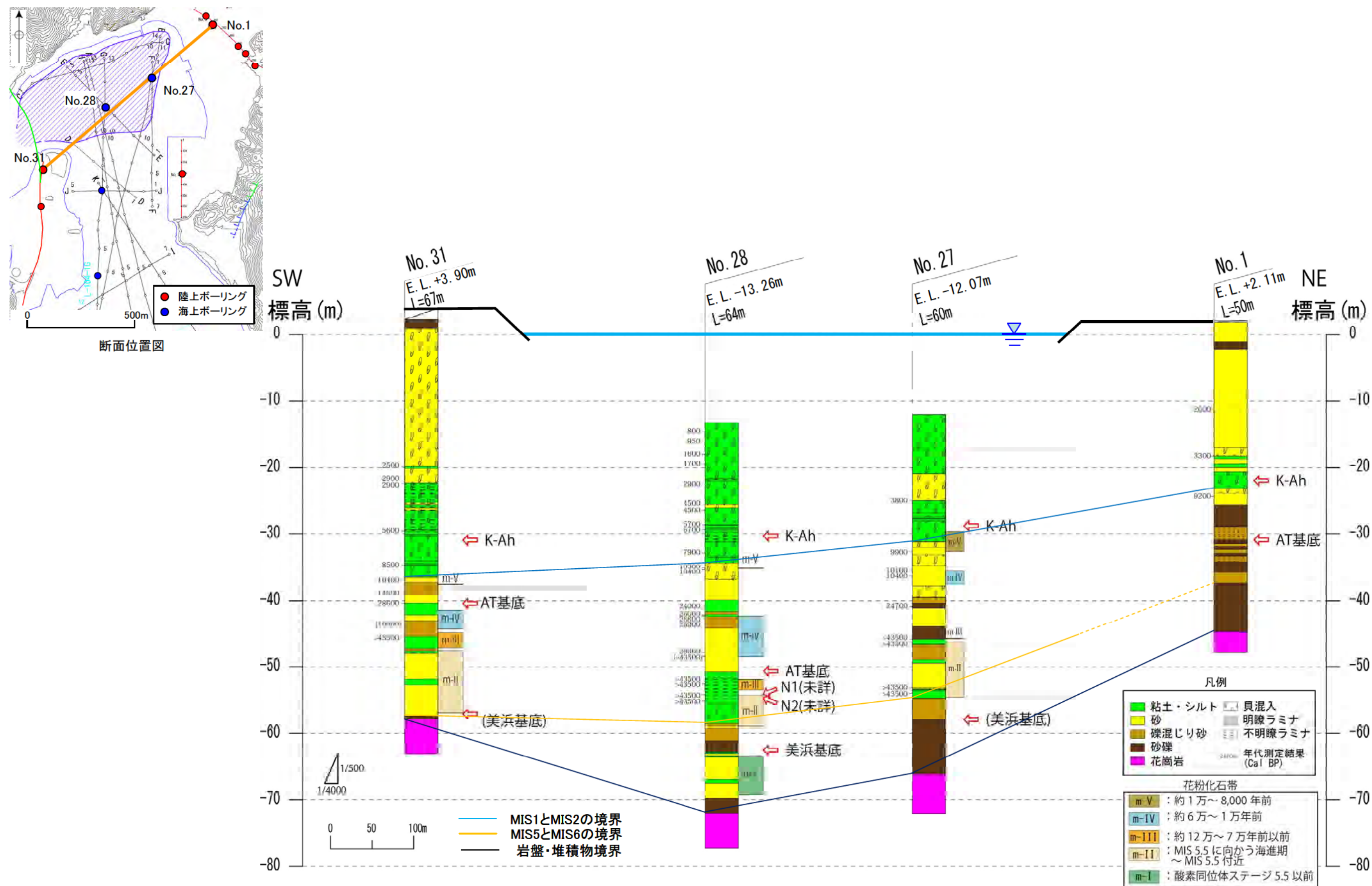


第1.4.52図(7) ボーリング調査結果 (No. 30孔)

No. 30 (L=102m) E. L. -6.38m



第1.4.52図(9) ボーリング調査結果 (No. 32孔)



第 1.4.53 図(1) ボーリング調査結果に基づく地質対比図(1)